第六條　各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルルヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若クハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若クハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若クハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條　檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條　各裁判所ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

裁判所ニ附置セラレタル檢事局ニ於テ前項ノ如キ事務ヲ取扱フ爲必要ナリト認メタルトキニ限リ別ニ書記課ヲ設クルコトヲ得

第九條　區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條　法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一　權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二　裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章　區裁判所

第十一條　區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ毎年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政事務ヲ委任ス

第十二條　事務分配一タヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　區裁判所ノ判事差支アルトキハ毎年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ互ニ相代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ク毎年前以テ之ヲ定ム

第十三條ノ二　區裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ地方裁判所長ハ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第十六條　區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ讓審ヲ經サルモノニ限ル

第一　拘留又ハ科料ニ該ル罪

第二　知期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ヲ除ク外有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪

第十六條ノ二　司法大臣ハ地方裁判所ノ管轄區域內ノ一ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事務ノ全部又ハ一部分ヲ其ノ地

方裁判所ノ管轄區域内ノ他ノ區裁判所ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第十七條　前數條ニ掲ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ掲ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十七條ノ二　司法大臣ハ區裁判所ニ屬スル事務ノ一部分ヲ取扱フ爲區裁判所出張所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第十八條　各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章　地方裁判所

第十九條　地方裁判所ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ置ク

第二十條　各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條　司法大臣ハ各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦毎年前以テ之ヲ定ム

前二項ニ掲ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

第二十三條　或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終ニ臨ミ未タ終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條　第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限竝ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二　第二審トシテ

(イ)　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ)　大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十條　地方裁判所ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ヲ開クヘキ區裁判所ヲ定ム

支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近鄰ノ區裁判所ノ判事ヲ用キルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ニ勤ムヘキ豫審判事及檢事ヲ命ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依ル法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條　各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケスシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章　控訴院

第三十四條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配及結了竝ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一　前項ニ揭ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二　控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用キルコトヲ得ス

第三十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條　皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條　控訴院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條　控訴院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問判決スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問判決ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條　第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人又ハ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十二條　各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章　大審院

第四十三條　大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第四十四條　大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條　大審院ノ事務ノ分配竝ニ代理ノ順序ハ毎年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席セントスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事チシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條　大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

第四十七條　大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ一以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

（イ）上告

（ロ）地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及命令竝ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

（ハ）地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

第五十一條　前條第二ニ揭ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判チ爲ス爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事チ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條　大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權チ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事チ以テ組立テタル部ニ於テ之チ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人チ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之チ取扱フ

第五十四條　第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトチ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者チ部長トス大審院長ニ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權チ有ス

第五十五條　大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審チ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審チ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事チシテ豫審チ爲サシムルコトチ得

第五十六條　大審院ノ檢事局ニ檢事總長チ置ク

檢事總長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條チ適用ス

第三編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷

第百三條　開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之チ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所チシテ其ノ管轄區域內ノ一定ノ場所ニ於テ職務チ行ハシム

ルコトヲ得

第百四條　訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第百五條　裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第百六條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第百七條　裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入ス

第百八條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百九條　裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ揭ケタル違犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾留シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以內ノ拘留ニ處スルコトヲ得此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

第百十條　前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一　裁判所ハ閉廷ヲ待タスシテ本條ノ違犯者ヲ卽時ニ罰スルコトヲ得

第二　違犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十一條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用キル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陳述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十二條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以內ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ルコトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニテ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ於テ之ヲ裁判ス

第百十三條　第百九條、第百十一條、及第百十二條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第百十四條　判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ書問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百十五條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ウ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用キルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ウ

第百十六條　通事ノ任命及使用竝ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百十七條　通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用キラルルコトヲ得

第百十八條　外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於

テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第六章　法律上ノ共助

第百三十一條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

法律上ノ補助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十二條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域內ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第百三十三條　裁判所書記課モ亦其ノ權內ノ事件又ハ其ノ配下ノ執達吏ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

（明治四十四年三月三十日法律第五十二號）

●司法事務共助法

沿革　大正一一年三月法律第二三號改正

第一條　內地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域ニ於テ司法事務ヲ取扱フ官廳間ノ司法事務ノ共助ハ本法ニ依ル

第二條　司法事務ヲ取扱フ官廳ハ民事及刑事ニ關シ相互ニ左ノ事項ヲ囑託スルコトヲ得

一　訴訟書類ノ送達

二　證據調

三　令狀ノ發付及執行

四　犯罪ノ搜査

第三條　民事ノ判決ハ其ノ執行力アル正本ニ基キ司法事務ヲ取扱フ他ノ官廳ノ管轄區域內ニ於テ其ノ强制執行ヲ爲スコトヲ得但シ執行地ノ法令ニ依リ許スヘカラサル請求ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ假差押又ハ假處分ノ命令ノ執行ニ之ヲ準用ス

第四條　刑事ノ判決ハ謄本ヲ送付シテ其ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得但シ死刑又ハ笞刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス前項ノ囑託ニ依ル執行ニ付テハ刑名同シキモノハ之ヲ同一ノ刑ト看做シ舊韓國法規ノ流刑又ハ禁獄ハ之ヲ禁錮ト見做ス

第五條　前條ノ規定ニ依リテ囑託ヲ受ケタル官廳ハ其ノ管轄區域內ノ監獄ニ於テ刑ノ執行ヲ繼續スルコト能ハサル事由ヲ生シタルトキハ囑託ヲ爲シタル官廳ニ其ノ管轄區域內ノ監獄ニ於テ繼續シテ之ヲ爲スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第六條　司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年勅令第二百六十七號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行）

●司法事務ノ共助ニ關スル費用竝受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル件

（明治四十四年十月二十四日勅令第二百六十八號）

沿革　大正一一年三月勅令第八〇號改正

第一條　司法事務共助法ニ依ル共助ニ關スル費用ハ囑託ヲ受ケタル官廳ノ支辨トシ事宜ニ依リ關係官廳ノ協議ヲ以テ囑託ヲ爲シタル官廳ハ囑託ヲ受ケタル官廳ニ對シ費用ノ全部又ハ一部ヲ補償スルコトヲ得

第二條　受刑者及刑事被告人ノ護送ニ關スル手續ハ護送地ノ規定ニ依リ其ノ費用ハ護送ヲ爲ス官廳ノ支辨トシ內地及樺太朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域相互ノ間ニ於ケル航海中ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

附　則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陪審法施行準備ニ關スル件

（大正十五年七月二十日刑第三七二六號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

首題ノ件ニ關シ內務次官ヨリ司警第三號ヲ以テ別紙ノ通リ通牒有之候條右御諒承ノ上可然御取計相成度此段及通牒候也

內務省司警第三號
大正十五年七月十七日

內務次官ヨリ廳府縣長官、警察講習所長宛

陪審法實施ノ時期相近キ候ニ付此際一般ニ陪審制度及陪審法ノ本旨ヲ周知セシムルノ緊要ナルヲ認メ司法次官ヨリ別式ノ通申越候間委曲右ニテ御諒知ノ上可然御取計相成樣致度候

司法省刑事局刑事第四〇六〇號
大正十五年六月二十四日

司法次官ヨリ內務次官宛

陪審法實施ノ時期モ相近キ候ニ付テハ此ノ際廣ク一般ニ陪審制度及陪審法ノ本旨ヲ周知セシムルコトハ緊要事ニ有之學校官公吏練習所、各種講習會等ニ於テ最モ時宜ニ適スルコトト被考候就テハ貴省管下ノ公私各種團體ノ會合アル場合ニ於テ右講演會ノ開催相成樣御助力相煩度其ノ節ハ近接地ノ地方裁判所、同檢事局又ハ當省ヨリ職員ヲ派シ右講演ニ當ル樣致ス可ク候條右ノ趣旨御諒承ノ上隨時地方裁判所、同檢事局又ハ當省ヘ講師派遣方御要求相成候樣致度此段得貴意候也

第六章　司法警察官

●司法警察職務規範

司法警察職務規範目次

司法警察職務規範
第一章　總則
第二章　捜査機關
第三章　捜査ノ端緒
第四章　捜査ノ實行
第一節　通則
第二節　通常捜査
第三節　强制捜査
第五章　令狀ノ執行
第六章　捜査事件ノ處理
第七章　少年ニ關スル特則
第八章　外國人ニ關スル特則

第一章　總則

第一條　司法警察ノ職ニ在ル者犯罪ノ捜査其ノ他ノ職務ヲ行フニハ法令ノ定ムル所ヲ恪守スルノ外本規範ニ遵由スヘシ

第二條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ法令ノ字句ニ拘泥スルコトナク克ク其ノ精神ニ適合セムコトヲ期スヘシ

（大正十二年十二月
司法省刑事局刑事第一〇〇九二號）

第三條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ外議ニ勳カサレス私情ニ泥マス專ラ公明正大ヲ旨トシ非違ヲ匡正スルノ任務ヲ全ウセムコトヲ期スヘシ

第四條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ居常言行ヲ愼ミ廉潔公正世人ノ疑惑ヲ招カサルコトニ注意スヘシ

第五條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素社會ノ變遷人心ノ趨向ニ留意シ犯罪ニ關スル諸般ノ現象ヲ研究シ其ノ職責ヲ盡スニ遺憾ナキコトヲ期スヘシ

第六條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ敏活ニシテ機宜ヲ失ハス周密ニシテ遺漏ナキコトヲ期スヘシ

第七條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ冷靜ニシテ感情ニ走ラス常ニ中正穩健ヲ旨トスヘシ

第八條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ道義ヲ尊ヒ人情ヲ重シ淳風良俗ヲ害セサルコトニ注意スヘシ

第九條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ祕密ヲ嚴守シテ捜査ノ障礙ト犯行ノ傳播トヲ防止シ且被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第十條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ互ニ連絡協調ヲ保チ共同一致ノ精神ヲ以テ事ニ從フヘシ

第十一條　司法警察ノ職務ハ必要アル場合ニ於テハ執務時間ノ内外ヲ問ハス又ハ休日ト雖之ヲ行フヘキモノトス

第十二條　司法警察ノ職ニ在ル者他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ヨリ其ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事項ニ付共助ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應シ遲滯ナク處理スヘシ

第十三條　司法警察ノ職務ハ共助ニ依リ事實發見ノ目的ヲ達スルニ不便ナルトキニ限リ管轄區域外ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第十四條　書類ヲ作成スルニハ文飾ヲ用ヰス簡明平易ヲ旨トシ眞實ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第十五條　書類ヲ作成スルニハ法律ニ定メタルモノニ非スト雖年月日ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印シ其ノ所屬ノ官署チ表示スヘシ

文字ハ之ヲ改竄スヘカラス挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ刪除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲其ノ字體ヲ存スヘシ

第十六條　被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ錄取シタルトキハ法律ニ定メタル書類ニ非スト雖之ヲ陳述者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否カヲ問フヘシ

書類ニハ陳述者ヲシテ任意ニ署名捺印セシムヘシ陳述者署名スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印セシムヘシ

第十七條　司法警察ノ職ニ在ル者被疑者又ハ被害者ト親族其ノ他ノ關係ニ因リ他ノ疑惑ヲ招クヘキ虞アルトキハ回避スヘシ

第十八條　司法警察ノ職ニ在ル者其ノ職務ヲ行フニ當リ被疑者其ノ他ノ關係者ノ求アルトキハ官氏名ヲ表示シタル證票ヲ示スヘシ但シ警察官、憲兵ノ將校准士官下士、巡査及憲兵卒制服ヲ著用スル場合ニ於テハ官氏名ヲ告クルヲ以テ足ル

第二章　捜査機關

第十九條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ檢事ノ指揮命令ニ從ヒ捜査ノ事ニ當ルヘシ

第二十條　警視總監、地方長官（東京府知事ヲ除ク）及憲兵司令官ノ捜査ノ權ハ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ例トス此ノ場合ニ於テモ成ルヘク其ノ處分ヲ檢事ニ謀ルヘシ

第二十一條　司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ニシテ犯罪ノ性質、場所ノ關係又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ司法警察官其ノ職務ヲ行フニ不便ナル場合ニ於テ捜査ヲ爲スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テハ捜査ニ著手シタル司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ於テ捜査ヲ遂行スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ司法警察官ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條　司法警察官ノ職務ヲ行フ者其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ司法警察官ニ先チ覺知シタルトキハ前條ノ場合ニ非スト雖速ニ捜査ニ著手シタル上司法警察官ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官職務ヲ行フニ至リタルトキハ之ニ讓リ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十三條　司法警察官司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ先チ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ覺知シ第二十一條ノ場合ニ該當スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ其ノ旨ヲ通知シテ搜査ヲ委ネ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十四條　司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者搜査ニ著手スルニ當リテハ其ノ事件職務ノ範圍ニ屬スルヤ否ニ付愼重ナル注意ヲ爲スヘシ

第二十五條　通告處分ヲ認メタル犯則事件ニ付テハ當該官吏ノ告發スル迄ハ司法警察官吏ハ其ノ搜査ヲ當該官吏ニ一任スヘシ但シ當該官吏ノ求アルトキハ必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十六條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ司法警察吏ノ職ニ在ル者前項ノ犯則事件アリト思料スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ當該官吏ニ通知スヘシ

第二十七條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ司法警察吏ノ職ニ在ル者前項ノ犯則事件アリト思料スルトキハ直ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ報告シ其ノ指揮ヲ請フヘシ但シ豫メ搜査ノ命令アリタル場合ハ必要ナル搜査ヲ爲シタル上遲滯ナク其ノ旨ヲ報告スヘシ

第二十八條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者搜査其ノ他ノ職務ニ付補助ヲ要スルトキハ警察官ハ巡査ヲ使用シ憲兵ノ將校准士官下士ハ憲兵卒ヲ使用シ勅令ヲ以テ定メタル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ本來ノ職務ノ關係ニ於テ下僚タルヘキ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ使用スルヲ例トス但シ他ノ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ使用スルノ必要アルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十九條　司法警察ノ職ニ在ル者管轄區域外ニ於テ搜査其ノ他ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ成ルヘク其ノ地ノ司法警察ノ職ニ在ル者ニ通知シ扞格齟齬ナキコトヲ期スヘシ

第三章　搜査ノ端緒

第三十條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者搜査ニ著手スルニハ現行犯、告訴、告發、自首其ノ他犯罪アリト思料スルニ至リタル原由ノ如何ニ拘ラサルモノトス

新聞紙其ノ他ノ出版物ノ記事、匿名ノ申告又ハ風說ト雖犯罪ニ關係アルモノハ之ヲ看過スルコトナク相當ノ根據アルコトヲ認メタルトキハ搜査ニ著手スヘシ

第三十一條　司法警察官及其ノ職務ヲ行フ者左ニ揭クル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

一　刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪
二　死刑又ハ無期刑ニ該ル罪
三　軍機ニ關スル重大ナル罪
四　高等官、同待遇者、有爵者、從四位、勳三等及功三級以上ノ者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
五　帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
六　辯護士ノ犯シタル罪
七　帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ選擧ニ關スル罪
八　勞働爭議及小作爭議ニ關スル重大ナル罪
九　治安警察法ニ違反スル重大ナル罪
十　新聞紙其ノ他ノ出版物ノ朝憲紊亂、秩序紊亂及風俗壞亂ノ記事ニ關スル罪
十一　內外國ノ通貨僞造、變造及模造ニ關スル罪
十二　爆發物ニ關スル重大ナル罪
十三　公務員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
十四　法人ノ役員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
十五　無政府主義者、共產主義者其ノ他社會主義者ノ其ノ主義ニ關スル罪
十六　各地方ニ連絡アル重大ナル罪

十七　外國人ノ犯シタル罪及外國人ニ對シ犯シタル重大ナル罪

十八　公衆ノ耳目ヲ惹ク罪

十九　檢事ヨリ特ニ報告ヲ命シタル罪

前項ニ掲クル犯罪ニ付告訴又ハ告發アリタルトキハ犯罪地、被疑者ノ住所其ノ他管轄ヲ定ムヘキ原由所轄區域内ニ存セサル場合ト雖之ヲ受理スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上遲滯ナク之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第三十二條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ告訴又ハ告發アリタルトキハ犯罪地、被疑者ノ住所其ノ他管轄ヲ定ムヘキ原由所轄區域内ニ存セサル場合ト雖之ヲ受理スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上遲滯ナク之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第三十三條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ告訴、告發其ノ他犯罪ノ申告ニ關スル書面ヲ差出シタルトキハ之ヲ受ケ速ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ送付スヘシ

第三十四條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ犯罪ニ關スル申告アリタル場合ニ於テハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス之ヲ受理シ實ニ從テ處理スヘシ

第三十五條　委任ニ因ル代理人ノ告訴ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシムヘシ告訴ノ取消ニ付亦同シ

本人又ハ委任ニ因ル代理人ニ非サル者ノ告訴ニ係ルトキハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ差出サシムヘシ

姦通ノ罪ノ告訴ニ付テハ婚姻ノ解消又ハ離婚ノ訴ノ提起ヲ證スル書面ヲ差出サシムヘシ

第三十六條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ要件ニ欠缺アルトキハ成ルヘク之ヲ補正セシムヘシ

第三十七條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テハ成ルヘク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被疑者又ハ關係者ノ住居、氏名其ノ他參考ト爲ルヘキ事實ヲ申立テシメ之ヲ明ニスヘシ

第三十八條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴狀又ハ告發狀ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明ナルトキ又ハ本人ノ意思ニ適合セサルヘシト思料スルトキハ之カ取調ヲ爲シタル上本人ヲシテ補正ノ爲書面ヲ差出サシメ若ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第三十九條　犯人ヲ指名シタル告訴又ハ告發ニ付テハ誣罔ニ出ツルナキカ否及過實ノ申立ナキカ否ニ付特ニ注意スヘシ

第四十條　犯罪ニ關スル申告ヲ爲シタル者申告ヲ爲シタル力爲後難ヲ畏ルルノ情況アルトキハ必要アル場合ノ外被疑者其ノ他ノ關係者ニ申告者ノ氏名ヲ告クルコトヲ避クヘシ

第四十一條　告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク必要ナル捜査ヲ爲シタル上直ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付シ指揮ヲ請フヘシ但シ書類及證據物ヲ送付シタル後ニ於テ急速ヲ要スル事項ヲ生シタルトキハ檢事ノ指揮ナシト雖之カ處分ヲ爲スヘシ

第四十二條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ニ付增減變更ノ申立ヲ受ケタルトキハ本人ヲシテ其ノ趣旨ヲ記載シタル書面ヲ差出サシメ又ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

前項ノ書面又ハ調書ハ之ヲ檢事ニ送付スヘシ

第四十三條　告訴狀又ハ告發狀ハ告訴又ハ告發ノ取消其ノ他何等ノ事由アルモ之ヲ返付スヘカラス

第四十四條　告訴又ハ告發ノ取消ハ當該告訴又ハ告發ヲ受ケタルニ非サル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ受理スヘシ告訴又ハ告發ノ取消ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出スヘシ

第四十五條　第三十一條第二項、第三十二條、第三十六條乃至第三十八條及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第四十六條　自首ハ他人ヲシテ其ノ罪ヲ免レシムル爲自ラ誣ヒ又ハ重キ罪ヲ避クルノ目的ヲ以テ故ラニ輕キ罪ヲ首出スル等ノ場合ナシトセサルヲ以テ其ノ虚實ニ注意スヘシ

第四十七條　司法警察ノ職ニ在ル者變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ前項ノ場合ニ於テ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ檢事ノ指揮ナシト雖急速ヲ要スル捜査ヲ爲スヘシ但シ必要アル場合ノ外原狀ヲ變更セサルコトニ注意スヘシ

司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事ノ命令ニ因リ檢視又ハ檢證ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ結果ヲ報告スヘシ但シ檢事ヨリ懲メ檢視ト共ニ檢證ノ命令アリタルトキハ檢證ヲ爲シタル上報告ヲ爲スヘシ

陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ノ囑託ニ因リ檢視ヲ爲シタル場合ニ於テ通常裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第四章　搜査ノ實行

第一節　通則

第四十八條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ公訴ノ起否及遂行ノ資料ヲ蒐集保全シ竝犯人ノ所在ヲ韜晦スルコトヲ防クヲ目的トシテ搜査ノ事ニ當ルヘシ

第四十九條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素犯罪ノ趨勢、犯罪ノ手段及罪證湮滅ノ方法其ノ他搜査ノ參考ト爲ルヘキ資料ヲ調査シ事案アルニ當リ措置ヲ誤ルコトナキヲ期スヘシ

第五十條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思料スルトキハ檢事ヨリ別段ノ命令アリタル場合ノ外直ニ搜査ニ著手スヘキモノトス但シ告訴、告發又ハ自首ニ係ル事件ニ付テハ第四十一條ノ規定ニ依ルヘシ

第五十一條　搜査ヲ爲スニハ巨悪ヲ逸セサルコトニ努メ苛察ニ渉ラサルコトヲ旨トスヘシ

第五十二條　搜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル限度ニ於テ諸般ノ取調ヲ爲スヘシ但シ法律ニ特ニ定メタル場合ノ外強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　搜査ハ穩健妥當ナル方法ニ依リ之ヲ行ヒ且被疑者其ノ他ノ關係者ノ煩累ヲ少カラシムルコトニ注意スヘシ

被疑者其ノ他ノ關係者ノ取調ハ成ルヘク夜間ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避クヘシ

第五十四條　搜査ニ付テハ濫ニ被疑者其ノ他ノ關係者ノ隱微ヲ訐クコトナキヲ要ス

第五十五條　搜査ヲ爲スニ當リテハ濫ニ人心ヲ動搖セシメサルコトニ注意スヘシ

第五十六條　被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ濫ニ法律ノ成語其ノ他難解ノ語ヲ用キス扈メテ平易簡明ヲ旨トシ容易ニ其ノ趣旨ヲ理解セシムルコトニ注意スヘシ

第五十七條　被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ穩和ヲ旨トシ其ノ年齡、境遇、性格、男女ノ別等ヲ斟酌シテ適當ノ取扱ヲ爲シ其ノ言ハムト欲スル所ヲ盡サシムルコトニ注意スヘシ

第五十八條　搜査ヲ爲スニ當リテハ被疑者ニ付左ノ事項ヲ明ニスヘシ

一　氏名、年齡、職業、本籍、住居及出生地

二　性格、經歷、境遇及素行

三　犯罪ノ原因、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ狀況及犯罪後ノ情況

四　前科ノ有無若前科アルトキハ其ノ罪名、刑名、刑期、金額裁判ヲ爲シタル廳名及其ノ年月日

五　爵、位、勳、功、褒章、記章、恩給、年金ノ有無若之ヲ有スルトキハ其ノ種類、等級

六　兵役ノ關係

第五十九條　搜査ヲ爲スニ當リテハ豫斷ヲ避ケ被疑者ノ利益ト爲ルヘキ事情ヲモ明ニセムコトヲ努ムヘシ

第六十條　被疑者犯罪事實ヲ自白シタルトキト雖之ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトニ注意スヘシ

第六十一條　共犯者ハ成ルヘク各別ニ之ヲ取調ヘ其ノ通謀ヲ防キ且附和雷同シテ陳述スルノ弊ナカラシムルコトニ注意スヘシ

第六十二條　證據書類又ハ證據物ハ成ルヘク被疑者ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ其ノ時機ヲ誤ラサルコトニ注意スヘシ

第六十三條　搜査中ノ事件ニ付新聞記事ノ揭載ヲ差止ムル必要アリト思料スルトキハ速ニ其ノ事情ヲ具シ檢事ニ申報スヘシ

第二節　通常搜査

第六十四條　搜査上必要アルトキハ被疑者其ノ他ノ關係者ニ任意ノ出頭ヲ求メ又ハ其ノ所在ニ就キ若ハ承諾ヲ得テ犯所其

ノ他ノ場所ニ同行シ其ノ陳述ヲ聽クコトヲ得

第六十五條　被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ聽キタルトキハ自ラ之ヲ錄取スヘシ

事實簡單ナルカ又ハ特別ノ事情アルトキハ聽取書ヲ作ラスシテ任意書面ヲ差出サシムルコトヲ得

第六十六條　被疑者其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

被疑事件ノ證據ト爲ルヘキ物ハ所有者、所持者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スルコトヲ得證據ト爲ルコトアルヘシト思料スル物ニ付亦同シ

第六十七條　領置ヲ爲シタルトキハ件名、番號、品目、數量、被領置者ノ氏名、住居及領置年月日ヲ記載シタル領置書ヲ作リ且領置物ニ件名、番號及被領置者ノ氏名ヲ表示スヘシ

領置物ニ付所有者、所持者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ受領書ヲ交付スヘシ

第六十八條　領置物ニ付テハ保存ニ注意シ盜難、紛失、滅失、毀棄、損壞、變質等ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

領置物ノ狀態ニシテ證據ト爲ルヘキ場合ニ於テハ其ノ狀態ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第六十九條　領置物ハ證據物又ハ沒收スヘキ物ニ非サルコト其ノ他留置ノ必要ナキコト明ナルニ至リタルトキハ差出人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ贓物ニ係ルトキハ差出人ノ承諾ヲ得テ被害者ニ還付スヘシ差出人承諾セサルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

領置物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求アルトキハ一時留置ヲ解ク但シ捜査ニ妨ナキ場合ニ限リ假ニ之ヲ請求者ニ還付スルコトヲ得差出人ニ非サル者ノ請求ニ因リ假還付ヲ爲スニハ前項ノ手續ニ依ルヘシ

前二項ノ場合ニ於テ差出人ノ承諾ヲ得サルトキハ承諾書ヲ差出サシムヘシ

領置物ヲ還付シ又ハ假還付ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ領置書ニ記載シ且請書ヲ徵スヘシ

第七十條　犯所其ノ他ノ場所ニ就キ實況ヲ明ニスルノ必要アルトキハ其ノ場所ノ所有者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ得テ見分ヲ爲スコトヲ得

實況見分ニ著手シタル後檢事ノ見分又ハ臨檢ヲ必要ト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告シ自ラ見分ヲ結了シタルト否ヲ問ハス原狀ヲ保存シ置クヘシ

實況ヲ見分シタルトキハ其ノ狀況ヲ錄取スヘシ但シ引續キ檢事見分又ハ臨檢ヲ爲シ檢事ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條　鑑定ヲ必要トスルトキハ特別ノ學識經驗アル者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

鑑定ヲ囑託スルニハ誠實ニ鑑定ヲ爲シ得ヘキ者ヲ選定スルコトニ注意スヘシ

鑑定ハ官署又ハ公署ニモ之ヲ囑託スルコトヲ得

第七十二條　鑑定ニ因リ人ノ權利ヲ害スルニ至ル場合ハ其ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

物ノ原形ヲ變シ又ハ數量ヲ著シク減損スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ腐敗其ノ他ノ原由ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條　鑑定ヲ爲サシムル場合ニ於テハ成ルヘク鑑定ノ現場ニ立會ヒ捜査ノ參考ト爲ルヘキ事實ヲ發見スルコトニ努ムヘシ但シ鑑定ノ手續ニ付干渉スルコトヲ得ス

第七十四條　鑑定ヲ爲サシメタルトキハ鑑定ノ時、場所、手續及結果ヲ記載シタル鑑定書ヲ提出セシムヘシ

鑑定書ニシテ不明又ハ不備ノ點アルトキハ其ノ說明書ヲ提出セシメ鑑定書ニ添附スヘシ

第三節　強制捜査

第七十五條　刑事訴訟法第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合其ノ他法律ニ定メタル場

合ノ外捜査ニ付強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十六條　強制ノ處分ヲ爲サムトスルニハ法律ニ定メタル場合ニ該當スルコトヲ明認シタル上之ヲ爲スヘシ

強制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テモ特ニ其ノ必要アルトキノ外之ヲ爲スコトヲ避クヘシ

強制ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ嚴ニ必要ノ限度ヲ超エサルコトニ注意スヘシ

第七十七條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ調書ノ末尾ニ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印スヘシ

被疑者、證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ立會ヒタル司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ捜査ニ付判事ノ強制處分ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ狀ヲ具シテ檢事ニ申報スヘシ

第七十八條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査ニ付判事ノ強制處分ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ狀ヲ具シテ檢事ニ申報スヘシ

第七十九條　現行犯人ヲ逮捕スルニハ暴メテ穩當ノ方法ヲ用ヰ苛酷ニ渉ラサルコトニ注意スヘシ

現行犯人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ使用スルモ決シテ自衞ノ範圍ヲ踰ユヘカラス

第八十條　常人ニシテ現行犯人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サムトスルモノアルトキハ成ルヘク其ノ便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第八十一條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ其ノ逮捕シタル現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕ノ事由ヲ聽取リ逮捕調書ヲ作成スヘシ但シ逮捕手續書ヲ徵シテ之ニ代フルコトヲ得

司法警察ノ職ニ在ル者常人ヨリ現犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ノ要領ヲ記載シタル逮捕顚末書ヲ作成スヘシ

司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者常人ヨリ受取リタル現行犯人ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ引致シタルトキハ速ニ逮捕顚末書ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ差出スヘシ

第八十二條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ其ノ犯罪親告罪ニシテ告訴ナキトキハ告訴權者ニ就キ告訴ヲ爲スヤ否ヲ確ムヘシ

第八十三條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第百二十三條各號ノ場合ニ於テ勾引ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

檢事ノ命令ニ因リ發スル勾引狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第八十四條　被疑者ニ對スル訊問及被疑者ノ供述ハ卽時ニ調書ヲ記載スヘシ

第八十五條　證據物又ハ沒收スヘキ物ヲ所持スルノ疑アル場合ト雖湮滅ノ虞アルトキノ外成ルヘク捜査ヲ爲サス本人ヲシテ之ヲ差出サシムヘシ

第八十六條　押收又ハ捜索ヲ爲スニハ成ルヘク其ノ範圍ヲ廣クセサルコトニ注意スヘシ

第八十七條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テ押收、捜索又ハ檢證ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十八條　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所ノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ於テ物ヲ捜索スルノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急迫ノ事情アリテ檢事ノ指揮ヲ待ツノ遑ナキトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ速ニ捜索ノ結果ヲ檢事ニ報告スヘシ

第八十九條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ於テ押收、捜索又ハ檢證ヲ爲スニ當リ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ求アリタルトキハ捜査ニ妨ナキ限リ被疑事件ヲ告クヘシ

第九十條　押收又ハ捜索ハ特別ノ事情アル場合ノ外其ノ處分ヲ受クル者ノ業務ヲ妨ケ信用ヲ損シ其ノ他利益ヲ害スルコトノ多カルヘキ時刻ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避クヘシ

人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ於テ日沒前押收又ハ捜索ニ著手シ日沒後其ノ處分ヲ繼續スル場合ニハ特ニ迅速ニ之ヲ結了スルコトニ注意スヘシ

第九十一條　刑事訴訟法第百五十六條各號ノ場所ニ於テ日出前、日沒後押收又ハ捜索ヲ爲ス場合ニ於テモ成ルヘク住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ

同條第二號ノ場所ニ於テ公開時間内押收又ハ捜索ニ著手シタルトキハ公開時間外ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得但シ迅速ニ之ヲ結了スルコトニ注意スヘシ

第九十二條　押收又ハ捜索ヲ爲スニハ穩當ノ方法ヲ用ヰ濫ニ建造物器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

押收又ハ捜索ヲ爲スニ當リテハ書類其ノ他ノ物ノ紛亂セサルコトニ注意シ且其ノ處分ヲ終ヘタルトキハ成ルヘク原狀ニ復スヘシ

第九十三條　押收又ハ捜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假押收ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル報告書ヲ作リ假押收ノ調書及押收物ト共ニ檢事ニ送付シ且其ノ犯罪ノ捜査ニ付機宜ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第九十四條　刑事訴訟法第百六十四條第三項ニ依リ廢業處分ヲ爲シ又ハ同法第百六十五條ニ依リ賣却處分ヲ爲ス場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但ノ急速ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ檢事ニ報告スヘシ

第九十五條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事又ハ他ノ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ命令又ハ囑託ニ因リ押收ヲ爲シタルトキハ速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ押收物ヲ送付スヘシ

刑事訴訟法第百六十四條第二項ニ依リ看守又ハ保管ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ

同條第三項ニ依リ廢業處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ指揮又ハ承諾ヲ受クヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ

同法第百六十五條ニ依ル賣却處分ヲ爲スノ必要アリト思料シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ其ノ處分ニ委スヘシ

第九十六條　第六十七條乃至第六十九條ノ規定ハ本節ノ押收ニ付之ヲ準用ス

第九十七條　檢證ノ處分ニ因リ原狀ヲ變更シタルトキハ成ルヘク舊態ニ復スヘシ

死體ノ解剖、墳墓ノ發掘又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トスルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ檢事ノ命令ニ因リ變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ檢證スル場合ニ於テ解剖ヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スヘシ

第九十八條　證人ニハ主トシテ見聞其ノ他實驗ノ事實ヲ供述セシメ成ルヘク推測ノ事項ヲ供述セシムルコトヲ避クヘシ

第九十九條　證人ヲ被疑者又ハ他ノ證人ト對質セシムルニハ其ノ時機ニ注意シ且兩者間ノ關係ヲ顧慮シテ適當ナル發問ヲ爲シ眞實ノ供述ヲ爲サシムルコトヲ努ムヘシ

第百條　證人ニ對スル訊問及證人ノ供述ハ卽時ニ調書ニ記載スヘシ

第百一條　證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキ處分ヲ裁判所ニ請求スルニハ其ノ裁判所ノ檢事ヲ經由シテ請求書ヲ差出スヘシ

第百二條　鑑定ニ付死體ノ解剖又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トシテ鑑定人ヨリ其ノ許可ヲ求メタルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ腐敗其ノ他ノ原由ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

死體ヲ解剖スル場合ニ於テハ鑑定人ト共ニ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知シ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スルノ處置ヲ執ルヘシ

第百三條　第七十一條乃至第七十四條及第百一條ノ規定ハ本節ノ鑑定ニ付之ヲ準用ス

第五章　令狀ノ執行

第百四條　勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ノ指揮ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ若其ノ手續遲延スルノ事情アルトキハ其ノ旨ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者神心喪失ノ狀態ニ在ルトキ又ハ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スル虞アルト

キハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

前二項ノ規定ハ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者命令若ハ囑託ニ因リ拘引狀ヲ發シ又ハ命令ニ因リ逮捕狀ヲ發シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百五條　勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ハ指揮ヲ受ケタル當該司法警察ノ職ニ在ル者ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第百六條　拘引狀、拘留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者管轄區域外ニ在ルトキハ其ノ地ヲ管轄スル司法警察官ニ勾引狀、拘留狀又ハ逮捕狀ヲ送付シテ執行ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ命令若ハ囑託ヲ爲シタル官署又ハ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

執行ノ求ヲ受ケタル司法警察官ハ所轄檢事ノ指揮アリタル場合ト同シク執行ノ手續ヲ爲シ之ニ關スル書類ヲ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ差出スヘシ

第百七條　司法警察官命令若ハ囑託ニ因リ發シタル勾引狀又ハ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ差出スヘシ

司法警察官出頭義務ヲ履行セサル證人ニ對シ自ラ發シタル勾引狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ調書ト共ニ檢事ニ送付スヘシ

第一項ノ拘引狀又ハ逮捕狀ヲ執行スルコト能ハサルトキハ之ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ送付スヘシ若參考ト爲ルヘキ事項アルトキハ同時ニ報告スヘシ

第百八條　勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ執行スル場合ニ於テハ成ルヘク穩當ノ方法ヲ用ヒ必要ノ限度ヲ超エテ強制ヲ加ヘス且他人ヲシテ執行ヲ受ケタル者ナルコトヲ覺知セシメサルコトニ注意スヘシ

第百九條　裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事又ハ區裁判所判事ノ發シタル押收又ハ搜索ノ命令狀ハ之ヲ受ケタル當該司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ

第百十條　命令狀ニ因リ押狀又ハ搜索ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ押收又ハ搜索ノ手續ノ顚末及參考ト爲ルヘキ事項ヲ調書ニ記載シ命令狀ト共ニ送付スヘシ

第六章　搜査事件ノ處理

第百十一條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付搜査ヲ終ヘタルトキハ搜査ノ顚末ヲ速ニ檢事ニ送致スヘシ但シ即決スヘキ事件ニシテ告訴、告發又ハ自首ニ係ラサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

被疑事件ヲ檢事ニ送致スルトキハ意見ヲ付シ且參考ト爲ルヘキ事項ヲ報告スヘシ搜査書類及差押ヘ又ハ領置シタル物ハ意見書ト共ニ檢事ニ送付スヘシ

第百十二條　檢事ヨリ微罪トシテ豫メ指定シタル事件罪ト爲ラサルコト明ナルニ至リタルトキハ之ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要セス

第百十三條　犯罪事實極メテ輕微ニシテ處罰ノ必要ナキコト明白ナルトキハ事件ヲ檢事ニ送致セスシテ微罪處分ヲ爲スコトヲ得

微罪處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事ニ報告スヘシ

第百十四條　告訴、告發若ハ自首ニ係ル事件又ハ檢事ノ送致ヲ命シタル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ檢事ニ送致スヘシ

第百十五條　被疑事件ノ送致後ト雖常ニ其ノ事件ニ注意シ參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第百十六條　被疑事件通常裁判所ノ管轄ニ屬セサルコト明ナルニ至リタルトキハ事件ヲ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ事件告訴、告發若ハ自首ニ係ルモノナルトキ又ハ第三十一條ニ依リ報告シタルモノナルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第七章　少年ニ關スル特則

第百十七條　少年ノ事件ニ付テハ保護教養ヲ主トスルノ精神ヲ以テ事ニ膺ルヘシ

第百十八條　少年ノ被疑者ヲ取調フルニ當リテハ特ニ他人ノ耳目ニ觸レサルコトニ注意スヘシ

第百十九條　少年ノ被疑者ハ他ノ被疑者ト分離シ接觸セシメサルコトニ注意スヘシ

第百二十條　少年ノ被疑者ハ已ムコトヲ得サル場合ノ外拘束スヘカラス

第百二十一條　少年ヲ逮捕シ又ハ引致スル場合ニ於テハ其ノ方法及強制ヲ加フル限度ニ付特ニ愼重ノ注意ヲ爲スヘシ

第百二十二條　少年ニ對スル被疑事件ニ付テハ犯罪事實輕微ニシテ處罰ノ必要ナシト思料スル場合ト雖微罪處分ヲ爲サスシテ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

第百二十三條　少年ニ對スル刑事事件ハ搜査又ハ豫審ニ關スルモノノミナラス公判ニ付セラレタル事項ト雖特ニ祕密ヲ嚴守スヘシ少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項亦同シ

第八章　外國人ニ關スル特則

第百二十四條　外國人ニ關シ司法警察ノ職務ヲ行フニ當リテハ國際法及國際上ノ慣例ニ違背セサルコトニ注意スヘシ

第百二十五條　外交官ノ特權ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ特權ヲ害スルノ虞アル行爲ヲ爲ササルコトニ注意スヘシ外交官ノ特權ヲ有スル者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百二十六條　大公使館、大公使ノ居宅、別莊又ハ其ノ宿泊スル場所ニ於テハ搜査其ノ他ノ處分ヲ爲スヘカラス

第百二十七條　重大ナル罪ヲ犯シタル者逃亡シテ前條ニ揭クル場所ニ入リタル場合ニ於テ猶豫スヘカラサルトキハ大公使又ハ之ニ代ルヘキ權限アル者ノ許諾ヲ受ケ搜査ヲ爲スコトヲ得

第百二十八條　重大ナル罪ヲ犯シタル者帝國ノ領海ニ在ル外國軍艦ニ現在スル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ其ノ艦長ニ對シ任意ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第百二十九條　外國軍艦ニ屬スル軍人、準軍人其ノ軍艦ヲ離レ帝國內ニ於テ現ニ罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ逮捕ノ處分ヲ爲シタル上速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百三十條　任命國ノ國民タル帝國駐在ノ外國總領事、領事、副領事、領事事務官及代理領事ニ對スル被疑事件ニ付テハ檢事ノ指揮アルニ非サレハ急速ヲ要スル處分ト雖之ヲ爲スコトヲ得ス但シ重大ナル罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十一條　帝國駐在ノ外國領事官ノ所有又ハ所持スル書類ニシテ職務ニ關係アルモノハ之ヲ檢閱シ又ハ差押フルコトヲ得ス

前項ノ領事官ノ事務所又ハ居宅ニ於テ搜査其ノ他ノ處分ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急速ヲ要スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十二條　帝國ノ領海ニ在ル外國船舶內ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フヘシ

一　帝國ノ陸上又ハ港內ノ安寧秩序ヲ害スルトキ

二　乘組員以外ノ者又ハ帝國臣民ニ關係アルトキ

前項ニ揭クル場合ノ外特ニ搜査ノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百三十三條　帝國ノ領海ニ在ル外國船舶ノ航行ノ停止ヲ必要ナリト認ムルトキハ直ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百三十四條　外國人口頭ヲ以テ告訴、告發、請求又ハ自首ヲ爲サムトスル場合ニ於テ國語ニ通セサルトキハ成ルヘク通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作成シタル調書ハ通事ニ依リ之ヲ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

第百三十五條　外國人ヨリ外國語ヲ以テ記載シタル告訴狀、告發狀其ノ他ノ書類ヲ提出シタルトキハ之ヲ受理シタル上成ルヘク譯文ヲ提出セシムヘシ

譯文ニハ譯者ヲシテ其ノ住居及職業ヲ記入シ署名捺印セシムヘシ

第百三十六條　被疑者外國人ナル場合ニ於テハ左ノ事項ヲモ明ニスヘシ

一　國籍
二　帝國ニ來リタル時期及目的
三　本國ヲ去リタル時期
四　外國ニ於テノ受刑ノ有無
五　家族ノ有無及其ノ住居

第百三十七條　被疑者其ノ他ノ關係者外國人ニシテ國語ニ通セサルトキハ通事ヲ用キテ取調ヲ爲シ其ノ調書ハ通事ニ依リ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ本人其ノ必要トスル事項ヲ記載セムトコトヲ求メタルトキハ之ヲ調書ノ末尾ニ記載セシムヘシ

第百三十八條　外國ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ知得タル事實ニシテ本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキ又ハ外國人其ノ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ供述ヲ爲サシムルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第百三十九條　外國人ニ對シ逮捕狀ニハ成ルヘク譯文ヲ添付スヘシ

第百四十條　外國人ニ對シテ發スル召喚狀、勾引狀又ハ逮捕狀ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク其ノ國語ニ通スル者ヲシテ之ニ當ラシムヘシ

第百四十一條　外國人ニ對シ押收調書若ハ押收目錄ノ謄本若ハ抄本又ハ領置ニ關スル受領書ヲ交付スルトキハ成ルヘク之ニ譯文ヲ添付スヘシ

第百四十二條　外國艦船乘組員ノ逮捕、留置又ハ逃亡犯罪人ニ關シ檢事ノ指揮ニ因リ取扱ヒタル事項ニ付テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第百四十三條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ檢事ノ發シタル逮捕狀、假逮捕狀ヲ執行スルニ當リ本人ノ携帶品ヲ差押ヘタルトキハ其ノ目錄ヲ作リ本人ト共ニ檢事ニ引渡スヘシ

（備考）

本規範ニ於テ司法警察ノ職ニ在ル者ト稱スルハ司法警察官及司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ヲ謂フ

●司法警察執務細則

（昭和二年五月二十五日）
（日記第二五五〇號）

司法警察官吏、司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者

司法警察執務細則別册ノ通相定メ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ行フ

明治三十年五月十七日訓令森林司法警察官執務手續、明治三十三年九月二十四日訓令司法警察官執務手續竝從來ノ訓令、通達ニシテ本則ト牴觸スルモノハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

右訓令ス

（別册）

司法警察執務細則目次

第一章　總　則
第二章　捜査ノ端緒
　第一節　事件報告
　第二節　告訴、告發、自首
第三章　捜査ノ實行
　第一節　通　則
　第二節　通常捜査
　第三節　强制捜査

第五編　刑事　第六章　司法警察官

第四節　物件取扱
第四章　令狀ノ執行
第五章　捜査事件ノ處理
第一節　事件送致
第二節　微罪處分
第六章　少年ニ關スル特則
第七章　視察
司法警察執務細則
第一章　總則
第一條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ刑事訴訟法及司法警察職務規範ニ依ルノ外本則ニ從フヘシ
第二條　總テ書類ハ半紙ヲ使用シ被疑者其ノ他ノ關係者ヨリ提出スル書類モ亦成ルヘク半紙ヲ使用セシムヘシ但シ關面其ノ他已ムコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス
第三條　書類ヲ作成スルニハ規範第十四條乃至第十六條ニ依ルノ外左ノ事項ニ注意スヘシ
一　複雜ナル事項ハ適宜項ヲ分チ順序ヲ正シ整然タル記載ヲ爲シ一讀事實關係ヲ判明ナラシムルコト
二　地名人名等ニシテ讀難キモノ又ハ特殊ノ稱呼アルモノハ傍訓ヲ附スルコト
三　文字ハ丁寧ヲ旨トシ亂雜ニ渉ラス又ハ誤脫ナキコトニ注意シ讀易ク記載スルコト
第四條　被疑者其ノ他ノ關係者ノ供述ヲ錄取スルニハ前條ニ依ルノ外特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ
一　供述中ニ方言、略語、隱語、術語又ハ陰曆月日等アルトキハ其ノ儘之ヲ記載シ其ノ下ニ括弧ヲ附シ說明又ハ譯解ヲ記入スルコト
二　抽象的又ハ凋色的文字ヲ用キサルコトニ注意シ特ニ脅迫又ハ侮辱的言辭等ノ如キ寫實的ニ記載スルコトヲ要スルモ

ノハ其ノ實際ノ語路ノ儘ヲ記載スルコト
三　發問事項ヲ長クシテ答ヲ單ニ然リ又ハ左樣テアリマストノミ記載シ又ハ發問事項ヲ供述中ニ包含セシメテ記載スルコトヲ避クルコト
四　供述ニ變遷アリタルトキハ之ヲ明確ニスルコト
第五條　被疑者其ノ他ノ關係者ヨリ提出スル書類ニシテ代書ニ係ルトキハ必ス代書者ヲシテ之ヲ本人ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキコトヲ承認シタル旨ヲ附記セシメ共ニ署名捺印セシムヘシ
第六條　總テ書類ヲ受理シタルトキハ直ニ欄外其ノ他適當ノ箇所ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ
第二章　捜査ノ端緒
第一節　事件報告
第七條　規範第三十一條第一項第一號乃至第十八號ノ犯罪及左記ノ犯罪アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ檢事正及所轄檢事（地方裁判所所在地區裁判所檢事ヲ除ク以下之ニ倣フ）ニ報告スヘシ
一　放火、溢水及水利ニ關スル罪
二　汽車、電車及艦船ノ往來妨害ニ關スル罪
三　阿片煙、阿片ニ關スル罪「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ニ關スル罪
四　收入印紙、郵便切手、公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券又ハ債券ノ僞造、變造等ニ關スル罪
五　殺人ノ罪、傷害致死及重要ナル業務上過失死傷ノ罪
六　强盜、强姦及賍額五百圓以上又ハ價格ニ拘ラス寶物其ノ他貴重品ニ關スル竊盜ノ罪
七　治安維持法ニ違反スル罪
八　暴力行爲等處罰ニ關スル法律ニ違反スル罪
九　職務規範第三十一條第一項第七號以外ノ選擧ニ關スル罪

十　司法部職員及附屬吏員、警察官吏ノ犯シタル罪
十一　模倣、傳播其ノ他特ニ危險性ヲ有スル罪
十二　手段方法ノ特ニ巧妙若ハ殘虐ナル罪
十三　前各號ノ外檢事正若ハ所轄檢事ニ於テ了知ヲ必要トスル罪

第八條　職務規範第三十一條第一項第一號第三號第七號乃至第九號及第十五號ノ事犯ハ未タ其ノ成立ヲ確認スル程度ニ至ラサル場合ト雖其ノ發生ヲ豫測シ得ヘキ事情アルトキハ速ニ之ヲ檢事正及所轄檢事ニ報告スヘシ

第九條　前條ノ報告ニ必要ナル事項概ネ左ノ如シ
一　被疑者及被害者ノ氏名、年齡、職業、本籍、住居
二　犯罪ノ日時、場所及事實ノ概要
三　發覺ノ原由（自首、告訴、告發、認知等）
四　現行犯、非現行犯ノ別
五　逮捕、未逮捕又ハ其ノ見込
六　證據ノ概要（自白、物證ノ有無等）
七　臨檢ノ要否
八　被疑者ノ精神狀態
九　其ノ他參考トナルヘキ事項

第十條　殺傷事件報告ニハ左ノ事項ヲモ報告スヘシ
一　被害者ノ生死及創傷ノ輕重
二　被疑者ノ生死
三　解剖及醫師同行ノ要否

第十一條　報告ヲ爲シタル後其ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ速ニ追報スヘシ

第十二條　第七條ニ依リ報告ヲ爲シタル犯罪ニシテ發覺後三十日內ニ被疑者判明セサルトキハ搜査ノ經過ヲ詳記シ且意見ヲ付シ之ヲ檢事正及所轄檢事ニ報告スヘシ

第十三條　勾引狀、勾留狀、逮捕狀ノ執行ヲ受ケタル者又ハ現行犯人トシテ逮捕シ若ハ受取リタル者留置又ハ護送中逃走シ逃走ヲ企テ死亡シ死亡セムトシ若ハ自殺ヲ企テタルトキハ速ニ其ノ地ヲ管轄スル檢事ニ報告シ且發送地ノ及受送地檢事ニ通報スヘシ

警察官署ニ於テ取調中ノ者死亡シタルトキ亦同シ

第十四條　新聞紙其ノ他ノ出版物ノ記事、匿名ノ申告又ハ風說等ニシテ重要ナル犯罪ニ關スル事項ナルトキハ事實ノ有無ニ拘ラス速ニ搜査ノ顚末竝出所ヲ具シ檢事正及所轄檢事ニ報告スヘシ

第十五條　變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ發見シタル場合ニ於テ左ニ該當スルトキハ規範第四十七條第一項ニ依リ速ニ檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ
一　老衰死、病死等ノ自然死ニ非スシテ犯罪ニ基因スルノ疑アルモノ又ハ不明ナルモノ
二　自然死ナルカ否不明ニシテ犯罪ニ基因スル疑アルモノ又ハ不明ナルモノ

前項ノ報告ニ必要ナル事項概ネ左ノ如シ
一　變死體發見ノ場所及日時
二　死後ノ經過時間
三　變死者ノ本籍、住居、氏名、年齡若判明セサルトキハ男女ノ別、推定年齡
四　犯罪ニ基因スル疑又ハ不明ノ狀況
五　醫師ニ檢案セシメタルトキハ其ノ意見
六　解剖ノ要否

七　検事出張ノ要否ニ關スル意見

第十六條　規範第四十七條第三項ニ依リ檢視ヲ爲シタルトキハ樣式第一號ニ則リ檢視調書ヲ作成シ命令ヲ爲シタル檢事ニ送致スヘシ但シ犯罪アルコトヲ覺知シ引續キ自ラ檢證ヲ爲シタルトキハ檢視調書ノ作成ヲ要セス

第十七條　本節ノ報告ハ其ノ緩急ニ依リ電信、電話、郵便其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但シ書面ヲ以テ爲ス場合ニ於テハ樣式第二號ニ則リ報告書ヲ作成シ電信ヲ以テ爲ス場合ニ於テ機密ニ關スル事項ナルトキハ暗號ヲ用ウヘシ

前項ノ規定ハ本節以外ノ報告ニ付之ヲ準用ス

第二節　告訴、告發、自首

第十八條　刑事訴訟法第二百七十三條及第二百七十六條ノ調書ハ樣式第三號ニ則リ之ヲ作成スヘシ

前項ノ調書作成ニハ成ルヘク司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ立會ハシムヘシ

第十九條　書面ニ依ル告訴、告發又ハ自首ヲ受ケタルトキハ其ノ書面ニ方式ノ欠缺理義不明ノ點ナキトキト雖成ルヘク一應本人ヲ取調ヘ調書ヲ作成スヘシ

第二十條　告訴、告發ノ取消アリタル場合ト雖告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ノ外ハ其ノ捜査ヲ進行スヘシ

第二十一條　告訴、告發又ハ自首ニ係ル事件ハ規範第四十一條ノ規定ニ從ヒ樣式第四號ニ則リ遲滯ナク之ヲ管轄檢事ニ送付スヘシ

前項ノ捜査ニ依リ犯罪事實ノ有無判明シタルトキハ樣式第二十八號ニ準シ意見書ヲ添附スヘシ

受理後三十日内ニ送付スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ管轄檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

第三章　捜査ノ實行

第一節　通則

第二十二條　規範第四十八條ノ公訴ノ起否及遂行ノ資料中ニハ徴罪處分、起訴猶豫、刑ノ執行猶豫其ノ他刑ノ加重減免等被疑事件ニ關スル一切ノ情狀ヲモ包含スルモノナルニ付遺漏ナク之ヲ蒐集調査スヘシ

第二十三條　犯罪常習者若ハ其ノ嫌疑アル者ノ行動ハ捜査ノ參考資料トナルヘキヲ以テ常ニ之ヲ蒐集調査スヘシ

第二十四條　被疑者ヲ取調フルトキハ規範第五十八條ニ依ルノ外左ノ事項ヲ調査スヘシ

一　起訴猶豫又ハ徴罪處分ヲ受ケタルコトノ有無若アラハ其ノ犯罪事實ノ概要、處分ヲ爲シタル廳名、其ノ年月日

二　刑ノ執行猶豫者、刑ノ執行停止者、假出獄者又ハ恩赦ニ因リ刑ノ減免ヲ受ケタル者ナリヤ否

三　戸主ナリヤ否非戸主ナルトキハ戸主ノ氏名、住居竝戸主トノ續柄

四　未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ婦女ナルトキハ其ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ノ有無竝其ノ住居、氏名

五　公務員ナリヤ否

六　通稱若ハ綽名ノ有無

七　婚姻、養子緣組其ノ他ノ事由ニ因リ氏名ニ變更アルトキハ其ノ舊氏名

八　被害者ト親族又ハ交際關係ノ有無特ニ竊盜、詐欺、恐喝、橫領罪ノ被疑者ニ對シテハ尚被害者ト同居ノ親族又ハ家族關係ノ有無竝續柄、贓物ニ關スル罪ノ被疑者ニ對シテハ本犯ト以上ノ關係ノ有無

第二十五條　被疑者ノ身許ハ樣式第五號ニ則リ本籍地市町村役場ニ照會シ調査スヘシ但シ照會ノ爲被疑者逃走又ハ罪證湮滅ノ虞アルトキハ之ヲ省略シ其ノ旨ヲ送致書備考欄ニ表示スヘシ

被害者ノ年齡又ハ身分ニ因リ罪ノ成否又ハ刑ノ輕重ニ關係アル事件ニ付テハ被害者ノ戸籍寫ヲモ徴シ添附スヘシ

前二項ノ身許調書ヲ事件ト共ニ檢事ニ送致スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ送致書ニ其ノ照會ノ年月日ヲ記載スヘシ但シ其ノ會ヲ爲スニ際シ事件送致前回答ヲ得ル能ハサル場合ニ於テハ直接檢事局ヘ問遂スヘキコトヲ照會シ置クヘシ

第二十六條　被疑者ノ本籍事件ヲ送致スヘキ裁判所管外ナルトキハ樣式第六號ニ則リ本籍地地方裁判所檢事局ニ照會シ前科ノ有無ヲ調査スヘシ但シ事件ト共ニ檢事ニ送致スルコト能ハサルトキハ前條第三項ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

累犯包藏ノ嫌疑アルトキハ指紋照會ノ手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ送致書備考欄ニ表示スヘシ

第二十七條　被疑者ノ素行調書ハ樣式第七號ニ則リ作成スヘシ調査不能ノ事項アルトキハ被疑者ノ本籍地若ハ住居地ノ司

法警察官ニ囑託シ前條第一項ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ事件ニシテ特ニ必要ナシト思料スルトキハ素行調書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ略式手續ニ依リ處分スヘキ案件ナリト認ムルトキハ其ノ資産ノ有無、生活狀態ヲ取調ヘタル書類ヲ添附スヘシ

第二十八條　素行調書ハ想像、臆測ヲ加ヘス事實上ノ根據ヲ示シ具體的ニ之ヲ記述スヘシ若公表ヲ憚ル事項アルトキハ之ヲ別紙ニ記錄ニ編綴セス其ノ事由ヲ記載シ別封トシテ送致スヘシ

第二十九條　被疑者未成年者、老衰者若ハ婦女ナルトキハ其ノ生活狀態、家族關係、犯罪ノ動機、犯後改悛ノ有無等特ニ事件ノ性質ニ依リ必要アルトキハ被害者其ノ他ノ素行ヲモ調査スヘシ

第三十條　被疑事件罪トナラス又ハ犯罪ノ嫌疑ナキコト明ナル場合ニ於テハ身許調、前科調及素行調ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二節　通常搜査

第三十一條　被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調ヘタルトキハ樣式第八號ニ則リ聽取書ヲ作成スヘシ

前項ノ取調ノ爲罪證湮滅其ノ他逃走ノ虞アルトキハ其ノ取調前速ニ管轄檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第三十二條　規範第六十五條第二項ニ依リ書面ヲ差出サシメタルトキハ其ノ記載ノ不備、理義不明ノ点ナキヤ否ニ注意シ適宜補正セシメ又ハ聽取書ヲ作成シテ事實關係ヲ明確ナラシムヘシ

重要ナル關係者ニ付テハ前項ノ書面ヲ徵スルコトヲ避ケ聽取書ヲ作成スヘシ

第三十三條　被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルトキハ事案ノ性質ニ依リ被疑者又ハ被害者ノ素行ヲ申述セシメ聽取書ニ錄取スヘシ被疑者其ノ素行ニ關シ辯解ヲ爲シタルトキ亦同シ

第三十四條　被疑者ヲ取調フルトキハ必ス最終ニ利益トナルヘキ事實及其ノ證據ノ有無ヲ申述セシメ之ヲ聽取書ニ錄取シ且其ノ取調ヲ爲スヘシ

第三十五條　規範第六十七條ノ領置書ハ樣式第九號ニ則リ之ヲ作成スヘシ

第三十六條　財產ニ對スル犯罪ヲ取調フルトキハ被害ノ時刻、場所、狀況、當時ニ於ケル見積被害價格、被害者ノ職業竝嫌疑者ノ有無若嫌疑者アルトキハ其ノ氏名及嫌疑ノ事由ヲモ明瞭ナラシムヘシ但シ被害者其ノ嫌疑者ノ氏名ヲ表示スルコトヲ好マサルトキハ此ノ限ニ在ラス

被害金品ニ付テハ極力其ノ發見ニ努メ成ルヘク返還若ハ賠償ヲ爲サシメ被害者ヲ滿足セシムルコトニ注意スヘシ

竊盜ノ犯罪ヲ取調フルトキハ特ニ門戶墻壁ノ踰越、損壞、鎖鑰ノ開否若ハ兇器携帶ノ有無ヲ調査スヘシ

第三十七條　身體ニ對スル犯罪ヲ取調フルトキハ前條準用ノ外各個創傷ノ部位、形狀、程度、豫後竝兇器ノ種類ヲ明瞭ナラシムル爲醫師ノ診斷書ヲ提出セシメ又ハ醫師ニ鑑定ヲ囑託シ鑑定書ヲ徵スヘシ但シ被害者ニ於テ醫師ノ鑑定ヲ拒ムトキ又ハ事案輕微ニシテ處罰ノ必要ナシト思料スルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

診斷書又ハ鑑定書ニハ成ルヘク創傷ノ位置ヲ示シタル人體圖ヲ添附セシムヘシ

第三十八條　放火及失火ノ犯罪ヲ取調フルトキハ其ノ燃燒ノ程度、狀況、隣接家屋トノ距離、風位風力其ノ他公共ノ危險ノ有無ヲ認ムルニ足ルヘキ事項等ヲ調査シ竝最初ノ發見者等ニ就キ發火ノ場所ヲ明確ナラシムルコトニ努ムヘシ

燒失シタル家屋竝之ニ隣接セル建物ニ保險契約若ハ抵當權設定契約アリヤ否之カ調査ヲ爲シ又隣接地及附近ノ狀況ヲ知ルニ足ルヘキ略圖ヲ作成スヘシ

第三十九條　騷擾、放火、失火、溢水、水利往來ノ妨害、殺人、重大ナル傷害、過失死傷、强盜、重大ナル竊盜事件其ノ他實況ヲ明ニスル必要アル事件ハ速ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ犯所其ノ他ノ場所ニ臨ミ實況見分ヲ爲シ樣式第十號ニ則リ見分書ヲ作成シ且圖面ヲ添附スヘシ但シ簡易ナル事件ナルトキハ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲシテ見分ヲ爲サシメ樣式第十一號ニ則リ報告書ヲ徵シ見分書ニ代ユルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲スルニ當リテハ被疑者ノ指紋、足跡其ノ他犯罪證明資料ノ有無ニ注意シ之カ保存ニ努メ且指紋等痕跡採取ノ方法ヲ講スヘシ家屋內ノ見分ニ係ルトキハ戶主又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アリタルコトヲ明記スヘシ

第四十條　被疑者精神ニ異狀アル疑アルトキハ其ノ血屬系統、學業ノ成績、酒量、既往症、記憶力、妄想妄覺ノ有無其ノ他健康狀態ヲ取調ヘ之ヲ聽取書ニ錄取シ且成ルヘク醫師ヲシテ診斷セシメ診斷書ヲ徵スヘシ

第四十一條　被疑者ノ身體ニ創傷アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ被疑事件ニ關係アリト思料スルトキハ第三十七條ニ準シ醫師ノ診斷書ヲ徵スヘシ

第四十二條　鑑定ヲ囑託シタルトキハ規範第七十四條第二項ニ依ルノ外事實關係ヲ明確ナラシムル爲聽取書ヲ作成スルコトヲ得

第四十三條　未成年者又ハ雇人ノ犯罪事件ニ付テハ父兄若ハ雇主ニ就キ將來ノ監督又ハ繼續雇傭ニ關スル意見ヲ申述セシメ之ヲ聽取書ニ錄取シ又ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ徵スヘシ

第四十四條　被害者ニ於テ被疑者ノ處罰ヲ望マサルトキハ之ヲ聽取書ニ錄取シ又ハ其ノ旨ヲ記載シタル書面ヲ徵スヘシ

第四十五條　罰金若ハ科料ニ處スルヲ相當トスル事件ニシテ略式手續ニ依リ裁判ヲ受クル便宜アル被疑者ニ對シテハ其ノ趣旨ヲ說示シ略式命令ヲ望ムトキハ聽取書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第三節　强制搜查

第四十六條　規範第八十一條ニ依リ作成スヘキ逮捕調書、逮捕手續書、逮捕顚末書ハ樣式第十二號乃至第十四號ニ則ルヘシ

司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者自ラ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ命シテ逮捕セシメタルトキハ前項ノ逮捕手續書ニ準シ逮捕顚末ヲ明ニシタル書類ヲ作成シ記錄ニ添附スヘシ

第四十七條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑者ヲ訊問シタルトキハ樣式第十五號ニ則リ訊問調書ヲ作成スヘシ

第四十八條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者搜索若ハ押收ノ處分ヲ爲シタルトキハ樣式第十六號乃至第十八號ニ則リ搜索若ハ押收ノ調書ヲ作成スヘシ

押收シタル證據物件ハ其ノ品目ヲ調書ニ列記シ又ハ樣式第十九號ニ則リ別ニ目錄ヲ作リ調書ニ添附スヘシ判事ノ命令狀ニ基キ搜索又ハ押收ノ處分ヲ爲シタルトキ亦同シ

請求ナシト雖押收シタル證據物件ノ目錄ハ成ルヘク其ノ謄本ヲ被押收者ニ交付スヘシ

第四十九條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢證ノ處分ヲ爲シタルトキハ樣式第二十號ニ則リ檢證調書ヲ作成シ其ノ顚末ヲ明記スヘシ

前項ノ場合ニ於テ檢證シタル場所又ハ物體ヲ表示スル必要アルトキハ圖面又ハ寫眞ヲ添附スヘシ

第五十條　前條第一項ニ依リ檢證ヲ爲シタルトキハ本條第一項ニ準シテ檢證調書ヲ作成スヘシ但シ調書ノ冒頭ニ檢視處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタルニ付引續キ檢證ヲ爲シタル旨ヲ表示スヘシ

第五十一條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢證ニ着手シタル後檢事ノ臨檢ヲ必要トスルトキハ檢事ニ急報シ檢證ヲ結了シタルト否トヲ問ハス原狀ヲ保存シ置クヘシ

第五十二條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者證人ヲ訊問シタルトキハ樣式第二十一號ニ則リ證人訊問調書ヲ作成スヘシ

但シ其ノ資格技能ヲ有スルヤ否ヲ調査シタル上鑑定事項ヲ指示シテ訊問ヲ爲スコトニ注意スヘシ

第四節　物件取扱

第五十三條　沒收スヘキ物件ハ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス領置又ハ押收ノ手續ヲ爲スヘシ被疑者ノ手ニ在ル贓物亦同シ

第五十四條　領置又ハ押收シタル物件ニハ各個ニ小札又ハ厚紙ヲ附シ進行番號、被疑者、件名及差出人ノ氏名ヲ記入スヘシ但シ事件送致後領置又ハ押收シタル物件ナルトキハ進行番號ヲ記入スヘカラス

證書、書翰等ハ記錄中ニ編綴セス前項ノ取扱ヲ爲ス外其ノ散逸、毀損ヲ防ク爲別封ト爲シ證據物件ナルコトヲ表示スヘ

シ

貨幣、紙幣、有價證券等ナルトキハ精算シテ別封ト爲シ且取扱者ニ於テ封緘個所ニ捺印シ其ノ封表ニ種類員數ヲ明細ニ記載スヘシ

第五十五條　領置又ハ押收シタル物件ニシテ價格僅少若ハ無價値ノ物ハ成ルヘク差出人又ハ所有者ノ意嚮ヲ確メ還付ヲ望マサルトキハ之ヲ聽取書ニ明ニシ若ハ其ノ旨ノ書面ヲ徵シ且領置書又ハ押收目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ治安警察法第十八條及銃砲火藥類取締法第十二條ノ適用ヲ受クヘキ事件ノ戎器又ハ戎器ヲ仕込ミタル物件ニシテ被疑者ノ所有ニ係ルトキハ成ルヘク所有權ヲ拋棄スル旨ノ書面ヲ徵シ且領置書又ハ押收目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五十六條　領置又ハ押收シタル物件ニシテ留置ノ必要ナキモノハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　贓物ニシテ被疑者ノ手ニ在ルモノハ直ニ被害者ニ假還付又ハ協議授受ヲ爲サシムルコトヲ得但シ還付ノ場合ニ於テハ何時ニテモ提出スヘキ旨ヲ記載シタル請書ヲ徵スヘシ

二　贓物ニシテ被疑者以外ノ者ヨリ差出シタルモノハ其ノ承諾ヲ得テ被害者ト協議授受ヲ爲サシムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ連署又ハ各別ニ授受ノ書面ヲ徵スヘシ又一方ヨリ差出シタル書面ノ末尾ニ他ノ一方ヲシテ承諾ノ旨ヲ追書シ署名捺印セシムルモ妨ケナシ

三　贓金ヲ以テ賠求シ若ハ贓物ト交換シタル物件又ハ原形ヲ變更シタル物件ニシテ被疑者ノ手ニ在ルモノハ前號ノ例ニ依リ協議授受ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ領置書又ハ押收目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五十七條　領置又ハ押收シタル物件ニ付事件ニ關係ナキコト判明シタルトキハ便宜之ヲ還付シ領置書又ハ押收目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五十八條　領置又ハ押收シタル物件ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノハ送致ノ手續ヲ爲サス檢事ノ指揮アル迄便宜保管ヲ爲シ領置書又ハ押收目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

一　動植物若ハ運搬ニ不便ナル物件

二　爆發物其ノ他運搬上危險ノ虞アル物件

三　事件處分上送致ノ必要ナシト思料スル物件

前項ノ物件ハ時宜ニ依リ適當ノ者ニ託シテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第五十九條　領置又ハ押收シタル物件ニシテ腐敗滅盡又ハ危險性ノ虞アルモノハ檢事ノ指揮ヲ受ケ權利者ノ承諾ヲ得テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　法律上沒收スヘキ物件ナルトキハ廢棄若ハ換價スヘシ但シ證明資料トシテ必要アルモノハ其ノ處分前ニ形體ヲ模寫等ヲ圖解若ハ撮影シテ記錄ニ添附スヘシ若物體中ニ腐敗滅盡ヲ來ササル部分アルトキハ成ルヘク其ノ部分ノミヲ切離シテ送付スヘシ

二　其ノ他ノ物件ハ權利者ニ還付シ請書ヲ徵スヘシ

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ領置書又ハ押收目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第六十條　證據物件ヲ還付又ハ假還付シタルトキハ樣式第二十三號ノ請書ヲ徵スヘシ但シ代理人ニ於テ受取ラムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出サシメ之ヲ添附スヘシ

第六十一條　質屋取締法第十六條又ハ古物商取締法第十七條ノ規定ニ依リ遺失物其ノ他ノ贓物ノ徵收還付ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ヲ明ニスヘキ書類ノ記錄ニ添附スヘシ

第六十二條　被疑者不明ノ事件ニ係ル置去品又ハ犯罪供用物件其ノ他保存ヲ要スヘキモノハ搜査繼續中事件取扱官署ニ保管スヘシ但シ事件ノ時效完成シタルトキハ所有者ニ還付シ所有者不明ナルトキハ遺失物ニ準シ適宜相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第四章　令狀ノ執行

第五編　刑事　第六章　司法警察官

第六十三條　刑事訴訟法第九十四條、第百二十二條、第百二十三條及第五百四十八條ノ場合ニ於テ作成スヘキ勾引狀、逮捕狀ハ樣式第二十四號、第二十五號ニ則ルヘシ

第六十四條　勾引狀、勾留狀ハ別ニ執行指揮書ヲ添附セス檢事ノ捺印ヲ以テ執行指揮ノ證トス但シ判事ヨリ直接執行ノ指揮ヲ受ケタル勾引狀、勾留狀竝前條ニ依リ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ發シタル勾引狀ハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條　勾引狀、勾留狀ノ執行指揮ヲ受ケタル後十日內ニ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ但シ執行ノ見込ナキニ至リタルトキハ令狀ノ相當欄ニ其ノ事由ヲ記載シ又ハ別ニ報告書ヲ添附シテ之ヲ返戻スヘシ

第六十六條　勾引狀、勾留狀ノ執行ヲ爲シタル被疑者又ハ被告人ヲ送致スル場合ニ於テハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　共犯其ノ他ノ關係上通謀ノ虞アル者ナルトキハ各別ニ之ヲ取扱ヒ通謀ヲ防止スルコト

二　執行ノ際抵抗其ノ他ノ行爲アリタルトキ又ハ任意犯狀若ハ共犯者ニ關スル事實ヲ陳述スル等參考トナルヘキ事項ヲ聞知シタルトキハ遲滯ナク執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スルコト

第六十七條　逮捕狀ノ執行ヲ受クヘキ者刑事訴訟法第五百四十六條各號ニ該當スル事由アリ且逃走ノ虞ナシト認ムルトキハ執行前速ニ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

第六十八條　令狀ノ執行ヲ受クヘキ者他ノ犯罪ニ因リ逮捕セラレタルトキ又ハ死亡、入營其ノ他ノ事由ニ因リ令狀ヲ執行スルコト能ハサルトキ及時效完成シタルトキハ速ニ其ノ報告書ヲ添ヘ令狀ヲ返戻スヘシ

第六十九條　判事ヨリ直接執行ノ指揮ヲ受ケ又ハ判事ノ囑託ニ基キ發シタル令狀ヲ執行シタルトキハ速ニ管轄檢事ニ報告スヘシ

第七十條　勞役場留置執行ノ指揮ヲ受ケタルトキハ先ツ人違ナキヤ否ヲ確メ且一應罰金若ハ科料ノ納付方ヲ諭告シタル後執行スヘシ

執行ニ着手シタルトキ又ハ執行ノ爲刑務所ニ引渡ヲ爲シタルトキハ速ニ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事ニ報告スヘシ

勞役場留置執行ニ際シ刑事訴訟法第五百四十六條各號ニ該當スル事由アリト認メ又ハ其ノ執行中該事由ヲ發見シタルトキハ速ニ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

第七十一條　勞役場留置執行ノ際現實ニ罰金科料ヲ納付セムトスル者アルトキハ警察官署ニ於テ徵收ノ手續ヲ爲サス收入印紙ヲ代人又ハ本人（本人逃走ノ虞ナキニ限ル）ヲシテ直接檢事局ニ持參納入セシムル取扱ヲ爲スヘシ但シ遠隔ノ地ニシテ本人又ハ代人ノ出頭ヲ不便トスルトキハ其ノ額ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シタル納付書ヲ書留郵便ニテ直接本人ヨリ檢事局ニ送付セシムル取扱ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貼付ノ收入印紙ニハ消印ヲ爲サシムヘカラス

第七十二條　勞役場留置執行ノ際現實ニ罰金科料ヲ納付セムトスル者アルトキハ警察官署ニ於テ徵收ノ手續ヲ爲サス收入印紙ヲ代人又ハ本人（本人逃走ノ虞ナキニ限ル）ヲシテ直接檢事局ニ持參納入セシムル取扱ヲ爲スヘシ但シ遠隔ノ地ニシテ本人又ハ代人ノ出頭ヲ不便トスルトキハ其ノ額ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シタル納付書ヲ書留郵便ニテ直接本人ヨリ檢事局ニ送付セシムル取扱ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貼付ノ收入印紙ニハ消印ヲ爲サシムヘカラス

第七十三條　勞役場留置執行中罰金科料ノ殘額ヲ納付セムトスル者アルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其ノ翌日ヨリノ留置日數ニ相當スル金額ヲ納付セシメ翌朝釋放スヘシ

急速釋放ヲ要スル事情アリト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

第七十四條　第六十五條及第六十八條ノ規定ハ警察官署ニ於テ執行スル勞役場留置ノ取扱ニ付之ヲ準用ス

第七十五條　勞役場留置ノ爲發シタル逮捕狀執行ノ指揮ヲ受ケタルトキハ第六十七條、第七十條乃至第七十三條ノ規定ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

第五章　捜査事件ノ處理

第一節　事件送致

第七十六條　規程第百十一條ニ依リ事件ヲ管轄檢事ニ送致スルトキハ樣式第二十六號乃至第二十八號ニ則リ送致書、記錄目錄、意見書ヲ作成シ證據物件ト共ニ送致スヘシ若記錄ト共ニ送致セサル證據物件アルトキハ其ノ旨ヲ送致書備考欄ニ表示スヘシ

第七條ニ依リ報告シタル事件ナルトキハ送致書ニ符箋シ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第七十七條　記錄ハ左ノ順序ニ依リ編綴スヘシ

一　送致書

二　記錄目錄

三　意見書

以下受附又ハ作成ノ順序ニ依リ編綴スヘシ

丁數ハ順ヲ追ヒ文書ノ左上欄外ニ記入シ目錄丁數欄ニ各文書ノ初葉ニ記シタル丁數ヲ揭クヘシ

第七十八條　併合罪、共犯其ノ他牽連シタル犯罪事件ヲ同時ニ送致スルコト能ハサル事情アリテ別件ト爲ストキハ其ノ旨ヲ送致書備考欄ニ表示スヘシ

第七十九條　取調ノ必要アル關係者疾病、旅行其ノ他ノ事由アルカ爲其ノ取調ヲ爲サスシテ事件ヲ送致スルトキハ送致書備考欄ニ其ノ旨ヲ表示スヘシ

第八十條　被疑者不分明ノ事件ハ送致ノ手續ヲ爲サス引續キ捜査スヘシ但シ檢證處分ヲ爲シタル事件及特ニ檢事ノ指揮ニ依リ實況見分ヲ爲シタル事件又ハ告訴告發ニ係ル事件ハ此ノ限ニ在ラス

司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ於テ處理シタル現行犯事件ハ被疑者分明ナラサルトキト雖直ニ檢事ニ送致スヘシ

第八十一條　被疑者所在不明ノ事件ハ第七十六條以下ノ規定ニ從ヒ總テ之ヲ檢事ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ被疑者ノ潛伏又ハ徘徊スヘキ見込ノ場所ヲ捜査シタル書類ヲ添附シ特ニ重要ナル事件ナルトキハ被疑者ノ寫眞又ハ人相書ヲモ添附スヘシ

第八十二條　前二條ノ場合ニ於テハ送致前必ス關係者ノ取調又ハ物件領置其ノ他必要ナル捜査處分ヲ遂行シ罪證湮滅ノ虞ナキヲ期スヘシ

第八十三條　假出獄、刑ノ執行猶豫、刑ノ執行停止ノ期間中又ハ恩赦ニ因リ赦免セラレタル者ノ被疑事件ヲ送致スルトキハ送致書中被疑者氏名ノ上部ニ其ノ旨ヲ朱書スヘシ

第八十四條　送致事件ノ被疑者即決處分ニ依リ言渡ヲ受ケタルモノナルトキハ送致書ニ言渡ノ確定、未確定及執行ノ濟否ヲ記入シ且言渡書ノ謄本ヲ添附スヘシ

送致事件ノ被疑者他ニ送致事件ト刑法第五十四條適用ノ關係ニ在ル卽決處分ニ付セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ卽決處分ヲ爲スヘカラサス

第八十五條　被疑者卽決言渡ニ對シ正式裁判ノ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ申立ハ必ス管轄區裁判所宛ニ爲サシメ送致書ニ左ノ事項ヲ附記スヘシ

一　卽決例第十條ノ留置ヲ爲シタルモノナルトキハ着手及釋放ノ日時

二　假納金又ハ保證金アルトキハ數額及保管中ナルコト

第八十六條　送致事件ニ付令狀發付其ノ他急速處分ヲ要スル事由アルトキハ書類ノ封筒見易キ箇所ニ特ニ要急ト朱書スル等適宜之ヲ表示スヘシ

第八十七條　左ノ場合ニ於テハ事件送致後ト雖速ニ檢事ニ報告スヘシ

一　新ナル證據ヲ發見シタルトキ

二　關係者ニ對シ取調ヲ猶豫シ難キ事故ヲ生シタルトキ

三　罪證ヲ湮滅シ又ハ被疑者逃走セムトスル狀況アルトキ

四　身體ニ對スル犯罪ノ被害者生命又ハ創傷ノ經過ニ異狀ヲ生シタルトキ

五　其ノ他事件ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル事項ヲ生シタルトキ

第二節　微罪處分

第八十八條　規範第百十三條ニ依リ微罪處分ヲ爲シ得ヘキ場合左ノ如シ

一　創傷ノ程度輕微ニシテ被害者處罰ヲ希望セス又ハ和解ヲ爲シタル傷害但シ尊屬親ニ對スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　被害僅少且犯情輕微ニシテ素行不良ニアラサル者ノ偶發的行爲ニ出テ處罰ノ必要ナシト認ムヘキ竊盜

三　第二號ノ事由アル詐欺及橫領

第八十九條　前項ノ微罪處分ヲ爲シタルトキハ樣式第二十九號ニ則リ其ノ理由書ヲ作成シ管轄檢事ニ報告スヘシ但シ檢事ノ指揮アリタルトキハ一件記錄ヲ檢事ニ送致スヘシ

第九十條　微罪處分ヲ爲スニ當リ必要アルトキハ左ノ諭告竝處分ヲ爲スヘシ

一　被疑者ニ對シ嚴肅且懇篤ニ訓戒ヲ加ヘ且將來謹愼ヲ表シ再ヒ不都合ノ所業致間敷旨ヲ誓ハシムルコト

二　親族、雇主其ノ他適當ノ監督者又ハ指導者ヲ立會ハシメテ將來ノ監督ヲ引受ケシメ且其ノ請書ヲ徵スルコト

三　被疑者ニ對シ贓物返還、損害賠償、謝罪其ノ他被害者ニ滿足ヲ與フル方法ヲ講スヘキコトヲ諭示スルコト

四　沒收スヘキ證據物件アルトキハ被疑者ヲシテ任意拋棄セシメ適宜處分ヲ爲シ又所有者不明ノ物件アルトキハ遺失物ニ準シ相當ノ處分ヲ爲スコト

第九十一條　微罪處分ヲ爲シタル被疑者ニ對シ他ニ犯罪アリテ檢事ニ送致スヘキ場合ニ於テ微罪處分ニ付シタル事件ノ記錄アルトキハ併セテ之ヲ添附スヘシ

第六章　少年ニ關スル特則

第九十二條　少年ノ被疑事件ヲ取調フルトキハ之ヲ保護處分ニ付スヘキカ又ハ刑事處分ニ付スヘキカヲ定ムヘキ資料ヲ特ニ調査スヘシ

送致書ニハ被疑者氏名ノ上部ニ少年ト朱書シ且何レノ處分ニ付スヘキカ其ノ事由ヲ意見書ニ記載スヘシ

第九十三條　少年ノ被疑者ニ對シテハ第二十七條ニ準シ樣式第三十號ニ則リ身上調査書ヲ作成シ記錄ニ添附スヘシ

第九十四條　少年事件ニ付テハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　特ニ秘密ヲ嚴守シ之ニ關スル一切ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ揭載セシメサルコト

二　少年ニ對シ即決言渡ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スルコト

三　少年ヲ留置スルトキハ已ムコトヲ得サル場合ノ外必ス獨居セシメ他ノ留置人ト接觸セシメサルコト

第九十五條　十四歲ニ滿タサル者ノ被疑事件ト雖第七十六條以下ノ規定ニ從ヒ管轄檢事ニ送致スヘシ

第七章　視察

第九十六條　檢事ヨリ通知ヲ受ケタル起訴猶豫要視察者ハ指示期間內其ノ行狀ヲ視察スヘシ

第九十七條　檢事ヨリ通知ヲ受ケタル刑ノ執行猶豫者ハ其ノ期間內行狀ヲ視察スヘシ

第九十八條　前二條ノ被視察者ニ對シ左ノ事項ヲ生シタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

一　再ヒ罪ヲ犯シ又ハ處分前ニ犯シタル他ノ罪アルコトヲ發見シタルトキ

二　行狀不良ニシテ改悛ノ見込ナキ重大事故ヲ認メタルトキ

三　死亡、轉籍、轉居、行衞不明、復歸、所在發見又ハ氏名ノ變更アリタルトキ

四　軍人又ハ軍屬トナリタルトキ

第九十九條　檢事ヨリ通知ヲ受ケタル起訴中止者ハ檢事ノ指示期間內其ノ家庭、親族、知人間ハ出入及通信ノ有無ヲ視察シ其ノ所在發見ニ努ムヘシ

視察期間ヲ伸縮シ又ハ視察期間ヲ定ムル必要アリト認ムルトキハ檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

中止者ノ所在ヲ發見シタルトキ又ハ死亡ヲ知リタルトキ速ニ檢事ニ報告スヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ市町村長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第百條　檢事ヨリ通知ヲ受ケタル豫審手續中止者、刑ノ執行停止者ハ隨時其ノ生活狀態ヲ視察シ左ノ事項ヲ生シタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

一　再ヒ罪ヲ犯シタルトキ

二　中止、停止ノ原因消滅シタルトキ

三　死亡、轉籍、轉居、行衞不明、復歸、所在發見又ハ氏名ノ變更アリタルトキ但シ死亡ノ場合ニ於テハ市町村長ノ證明書ヲ添附スヘシ

第百一條　保釋、責付又ハ勾留執行停止中ノ刑事被告人ニシテ特ニ檢事ヨリ通知ヲ受ケタル者ハ常ニ其ノ行動ヲ視察シ三箇月毎ニ其ノ結果ヲ檢事ニ報告スヘシ

逃走、罪證湮滅ノ虞アリ又ハ住居制限ノ命令ニ違背シタリト認ムルトキハ速ニ其ノ事由ヲ報告スヘシ

第百二條　被視察者他ノ警察署管內ニ住居ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨ヲ檢事ニ報告シ其ノ管轄警察署カ名古屋控訴院管內ナルトキハ視察通知書ヲ移送スヘシ

移送ヲ受ケタル警察署ハ引續キ視察ヲ爲スヘシ

第百三條　逃走又ハ所在不明ノ證人其ノ他ノ關係人ニシテ檢事ヨリ所在搜査ノ指揮アリタル者ニ對シテハ第九十九條ニ準シ視察ヲ爲スヘシ

第百四條　視察ハ其ノ本旨ニ從ヒ適當且穩健ナル方法ニ依リ被視察者ノ名譽、信用ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

樣式目次

第一號　變死者檢視調書
第二號　報告
第三號　告訴（補充）（變更）調書
第四號　事件送付書
第五號　自首調書
第六號　前科照會書
第七號　素行調書
第八號　聽取書
第九號　領置書
第一〇號　實況見分書
第一一號　搜查見分報告
第一二號　逮捕調書
第一三號　逮捕手續書
第一四號　逮捕顚末書
第一五號ノ一　被疑者訊問調書
第一五號ノ二　第何回被疑者訊問調書
第一六號　搜索調書
第一七號　押收調書
第一八號　搜索押收調書

第一九號　押收目錄
第二〇號　檢證調書
第二一號ノ一　證人訊問調書
第二一號ノ二　第何回證人訊問調書
第二一號ノ三　證人訊問囑託書
第二一號ノ四　證人訊問調書（囑託）
第二二號　鑑定人訊問調書
第二三號　請書
第二四號　勾引狀
第二五號　逮捕狀
第二六號　送致書
第二七號　文書目錄
第二八號　意見書
第二九號　微罪處分理由書
第三〇號　身上調查書

樣式第一號（半紙全紙）

變死者檢視調書

昭和　年　月　日某裁判所檢事ノ指揮ニ依リ變死者（其ノ疑アル死體者）ノ檢視ヲ爲スコト左ノ如シ

（表面）

發見人ノ住居氏名年齡及其ノ申告要旨	變死者ノ本籍住居職業氏名年齡（不詳ノ場合ハ推定年齡男女ノ別竝人相特徵着衣）	變死ノ年月日時（不詳ノ場合ハ推定年月日時）	變死ノ場所及其ノ模樣	變死ノ狀態及原因

變死後經過時間	
所持金品ノ種類	
參會醫師ノ氏名檢案ノ要領	
檢視官認定意見	
變死者竝所持金品ノ始末	
備考	

（裏面）

此ノ檢視ハ本日午前後何時何分ニ始メ何時何分ニ（又ハ檢事ニ於テ犯罪事件トシテ檢證ヲ爲シタルニ依リ此ノ處分ヲ）終ル

右檢視ヲ了シ此ノ調書ヲ作ルモノ也

昭和　年　月　日

某　署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ）官氏　名印

樣式第二號（半紙全紙）

昭和　年　月　日

某　署（所）

司法警察官吏（又ハ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ）官職氏　名印

檢事正
所轄檢事　宛

報告

被疑者	氏名	本籍	住居	年齡	身分	職業

被疑者ノ生死及精神狀態

發覺ノ原因（自首告訴告發認知）

證據ノ概要（自白物證ノ有無等）

被害者	氏名	本籍	住居	年齡	身分	職業

被害者ノ生死及創傷ノ輕重

臨檢解剖及醫師同行ノ要否

逮捕、逮捕又ハ其ノ見込

犯罪ノ日時	
場所及事ノ實概要	
其ノ他參考トナルヘキ事項	

様式第三號（半紙全罫紙）

（表面）

告訴（補充變更）調書（告發又ハ自首調書モ之ニ準ス）

本籍

住居職業　氏名　年齢

右ノ者昭和　年　月　日午前後何時當署（所）ニ出頭何々事件ニ付口頭告訴ヲ爲シタルニ付（補充又ハ變更ノ申立ヲ爲シタルニ付）其ノ取調ヲ爲シタリ

一　何々

一　何々

問　被疑者何某ト親族、後見人、雇人、同居等ノ關係ナキヤ（補充變更ノ時ハ不要）

（裏面）

答 何々

問 告訴（告發又ハ自首）ノ事實ヲ證明スヘキ物件アラハ提出セヨ

答 何々

（此時證據トシテ何々ヲ差出シタルニ付之ヲ領置ス）

問 何々

答 何々

右錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立テ署名捺印シタリ

（又ハ無筆無印ニ付代書本人拇印シタリ）

告訴（告發自首）人 氏 名 印

昭和 印 年 月 日

某 署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ） 官 氏 名 印

司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ） 職 氏 名 印

樣式第四號（半紙全紙）

（表面）

告訴 告發 自首 事件送付書

件名	本籍住居職業 氏名 年齡
	本籍住居職業 告訴（告發自首）人 氏名 年齡
	本籍住居職業 被告訴（被告發）人 氏名 年齡

右職務規範第四十一條依ニリ送付候也

昭和 印 年 月 日

某 署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ） 官 氏 名 印

某裁判所檢事 某 殿

（注意）細則第二十一條第二項ニ依リ意見書ヲ添付スル場合ニ於テハ本籍住居、職業、年齡ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

（裏面）

書類目錄	證據物件目錄	備考

様式第五號（半紙全紙）

（表面）

府縣郡市町村番地　職業　氏名　年齢

右ノ者ニ對スル左記事項取調ノ上各欄ヘ記入返戻（某裁判所檢事局ニ廻送）相成度及照會候也

但本籍氏名等ニ多少ノ相違又ハ氏名ニ變更アルモ之ニ該當スヘシト思料セラルル場合ハ本文ニ準シ取調ヘ相成度候

追テ轉籍又ハ寄留者ナルトキハ其ノ旨ヲ備考欄ニ記入シ本紙返戻相成度候

昭和　年　月　日

某　署（所）

右所轄市區役所町村役場御中

本籍	氏名	本字
		假名
出生地	生年月日	
住居	職業	

（裏面）

官吏公吏議員		資産有無	
位記勳章記章		特徴	
兵籍		戸主及父母兄姉弟妹氏名	
年金恩給扶助料退隠料			

裁判ノ日及廳名		對席ノ別缺	罪名	刑名刑期金額
前科	年月日 裁判所	席		
	年月日 裁判所	席		
	年月日 裁判所	席		
	年月日 裁判所	席		
	年月日 裁判所	席		
	年月日 裁判所	席		
	年月日 裁判所	席		
備考				

右及回答候也

昭和　年　月　日

警察署
檢事局　御中

（注意）本人ノ舊氏名、素行、家出ノ年月日、旅行出稼先其ノ他參考トナルヘキ事項ハ備考欄内ニ記入セラレタシ

樣式第六號（半紙全紙）

（表面）

府縣郡市町村番地職業

氏名

年齢

右ノ者ニ對スル前科取調ノ上左ノ各欄ヘ記入返戻（某裁判所檢事局ニ廻送）相成度及照會候也

昭和　年　月　日

某裁判所檢事局御中

某　署（所）

本籍		氏名	
出生地		生年月日職業	
裁判、確定、執行終了免除ノ日	裁判所	罪名	刑名刑期金額	犯數	恩赦ノ事項其ノ他
年月日 對席欠席 略式命令					
年月日 確定					
年月日				犯	

（裏面）

年　月　日 年　月　日 確	對席欠席 略式命令 定				
年　月　日 年　月　日 確	對席欠席 略式命令 定				
年　月　日 年　月　日 確	對席欠席 略式命令 定				
年　月　日 年　月　日 確	對席欠席 略式命令 定				
年　月　日 年　月　日 確	對席欠席 略式命令 定				
年　月　日 年　月　日	對席欠席 略式命令 確定	犯	犯	犯	犯	犯

備考

右及回答候也

昭和　年　月　日

御中

檢事局

（表面）

素行調書

住居職業氏名年齢	
通稱、綽名及藝名	
經歷	出生、生育ノ狀態及來歷等ヲ記ス
前科其ノ他ノ處分	前科、起訴猶豫、微罪處分ノ有無竝恩赦ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記ス
性質行狀	性質、行狀及嗜好、習癖ニ付緻密ニシテ精透ナル調査ヲ遂ケ具體的事項ヲ基礎トシテ記ス
教育ノ程度	尋常小學校（何學年修業）シタルモ其ノ後修養セス現在ニテハ往復文位ヲ辛フシテ書スルニ過キス等ノ類ヲ記ス
家庭ノ狀態	家族ノ員數續柄及睦否ノ狀況ヲ記ス

（裏面）

資産及生活ノ狀態	被疑者所有ノ動産、不動産其ノ他收入及其ノ負債ヲ調査シ生活ノ狀態ヲ明ニスヘシ但戸主、家族及同居者ノ所有所得及負債ヲモ調査スヘシ
交際及信用	平素ノ交際出入者及狀態竝社會上ニ於ケル地位信用ヲ記ス
系統及健康狀態	
宗教及兵役	
犯罪ノ常習及特技	
處罰ノ要否及科刑ノ量定ニ必要ナル事項	犯罪ノ動機及被疑者ニ對スル一般感想竝改悛ノ有無等ヲ記ス

右調査ス

昭和　年　月　日　印

某　署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官氏名　印

（注意）本調書ハ二葉ト爲スヲ妨ケス、各事項ニ付特ニ調査ニ從事シタルモノアルトキハ其ノ職員氏名ヲ附記スヘシ

様式第八號（半紙全罫紙）

聽取書（二回以後ノ分ニハ第何回ト記スヘシ）

本籍住居職業

氏名

年齢

右ノ者昭和　年　月　日本職ニ對シ左ノ通陳述ヲ爲シタリ

一何々（供述ノ要旨ヲ平易簡明ニ記載スヘシ）

一何々

問何々（特ニ記憶ヲ喚起セシムル爲又ハ供述ヲ描寫スルノ必要ヲ認ムルトキハ適宜問答體ニ錄取スルモ妨ナシ）

答何々

右錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立テ署名捺印シタリ（又ハ無筆無印ニ付代書本人拇印シタリ）

昭和　印　年　月　日

某　署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官氏名印

陳述人　氏　名　印

（注意）所屬ノ官署外ニ於テ作成シタルトキハ其ノ場所ヲ記載スヘシ

樣式第九號（半紙全罫紙）

領置書

被疑者（被告人）某何々事件ノ證據品トシテ差出人ノ承諾ヲ得テ（任意提出シタルニ付又ハ遺留品ナルニ付）左記物件ヲ領置ス

昭和　印　年　月　日

某　署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官氏名印

番號	品目	員數	差出人住居氏名	所有者住居氏名	備考

（注意）所屬ノ官署外ニ於テ作成シタルトキハ其ノ場所ヲ記載スヘシ

様式第一〇號（半紙全罫紙）

實況見分書

被疑者（被告人）某何々事件捜査上必要ニ付昭和　年　月　日某郡
市町村某方ニ到リ戸主某（監守者某）ノ承諾ヲ得テ某立會ノ上何々ノ場所
（物件）ノ實況ヲ見分スルコト左ノ如シ

一　場所ハ何々

二　被害ノ模様ハ何々

三　何處ニ於テ發見シタル物件ハ何々ノ痕跡アリテ某ニ於テ何々シタル
モノト認メ得ルヲ以テ本件ノ證據トシテ某ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置ス
（若シ發見物ナキトキハ其旨ヲ記載ス）

此ノ見分ハ本日午前後何時ニ始メ何時ニ終ル

昭和　年　月　日

於某所

某　署（所）
司　法　警　察　官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

立會人　氏　名印

様式第一一號（半紙全紙）

（表　面）

搜査見分報告

昭和　年　月　日　某署（所）

司法警察（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）吏職氏名印

件名	届出月日	犯罪日時	犯罪場所	原因	被害程度
	昭和　年　月　日	昭和　年　月　日　時　分自 至　月　日　時　分			

被害者 住居 職業 氏名 年齢	被疑者 住居 職業 氏名 年齢	證據品及遺留品	人相 特徴 着衣

（裏　面）

犯罪手段方法	搜査ノ概要

様式第一二號（半紙全罫紙）

逮捕調書

昭和　年　月　日午前後何時何分司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某ハ何々現行犯事件ノ被疑者某ヲ當署（所）ニ引致シ逮捕ノ事由ヲ申立ツルコト左ノ如シ

一　何々

一　何々現行犯、準現行犯ト認メタル事由ヲ詳記ス）

右讀聞カセタル處相違ナキ旨申立ツルニ付共ニ署名捺印ス

昭和　年　月　日

印

某署（所）司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）職氏　名印

逮捕者　司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官氏　名印

様式第一三號（半紙全罫紙）

昭和　年　月　日　某署（所）ニ於テ

司法警察官（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）官氏　名印

逮捕手續書

昭和　年　月　日午前後何時何分某所ニ於テ職務執行中（例ヘハ巡廻中、警戒中ト云フ類）云々（兇器ヲ携帯シ且被服ニ血痕アリテ犯人ト思料スヘキ又ハ深夜容積大ナル風呂敷ヲ背負ヒ覆面、素足ノ儘東ニ向ツテ歩行スルモノ其ノ風體疑フヘキモノアリ誰何シタル處急ニ疾走シ、現行犯人ト思料シタルニ付若ハ現行犯人ト認メタルニ付之ヲ逮捕シ取調ヘタル處左記申立ヲ爲シタリ）

一　被逮捕者ノ住居、職業、氏名、年齢

一　犯罪事實云々ノ類

因テ證據物件相添ヘ引致報告候也(若此ノ手續書ヲ以テ逮捕調書ニ代フ
ル場合ニハ次ノ如ク記載スヘシ)
右逮捕事由ニ付取調ヘタル處前記ノ通リ相違ナキヲ以テ之ヲ調書ニ代
ヘ共ニ署名捺印ス

昭和　年　月　日

某　署(所)

逮捕者　司法警察吏(又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ)職　氏　名　印
司法警察官(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)官　氏　名　印

様式第一四號(半紙全罫紙)

逮捕顚末書

昭和　年　月　日午前後何時何分某所常人某ハ何々現行犯人ヲ引
致シ逮捕事由ヲ申立ツルコト左ノ如シ

一被逮捕者ノ住居、職業

氏　名

年　齢

二逮捕ノ事由

云々(現行ヲ認メタル顚末ヲ詳述セシムヘシ)

三證據ノ提出

何々

右事實相違ナキヲ認ムルヲ以テ被疑者某及證據物件ヲ受取リ此顚末書
ヲ作成シ共ニ署名捺印ス(逮捕者署名捺印スル能ハサル事由アルトキハ

其ノ旨ヲ記入スヘシ）

昭和　印　年　月　日

某　署（所）

司法警察官、（又ハ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ）官吏官職氏　名印

逮捕者　氏　名印

様式第一五號ノ一（半紙全罫紙）

被疑者訊問調書

被疑者

何々被疑事件ニ付昭和　年　月　日某署（所）ニ於テ司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ司法警察吏（司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上右被疑者ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一　問　氏名、年齢、職業、住居、本籍及出生地ハ如何

答　氏名ハ

年齢ハ

職業ハ

住居ハ

本籍ハ

出生地ハ

二　問　爵、位勲、功、褒章、記章、恩給、年金又ハ公職ヲ有セサルヤ

答　何々

三　問　兵役關係ナキヤ

答　何々

四　問（先ツ被疑事件ヲ告ケ辯解ヲ求ムルコト）

答　何々

五　問　何々

答　何々

六　問（終リニ被疑者ニ對シ利益トナルヘキ證據ノ提出及申立ノ有無ヲ問フコト）

答　何々

右錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立署名捺印シタリ

昭和　年　月　日

印

某　署（所）

被疑者　氏　名印

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名印

司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）職　氏　名印

（注意）所屬ノ官署外ニ於テ作成シタルトキハ其ノ場所ヲ記載スヘシ

樣式第一五號ノ二（半紙全罫紙）

第何回被疑者訊問調書

被疑者

何々被疑事件ニ付昭和　年　月　日某署（所）ニ於テ司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ司法警察吏（司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上前回ニ引續キ右被疑者ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一　問　何々

答　何々

以下樣式第一五號ノ一ニ準ス

樣式第一六號（半紙全罫紙）

搜索調書

被疑者（被告人）某何々事件ニ付昭和　年　月　日某所ニ於テ司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ某ノ立會ヲ求メ捜索ヲ爲スコト左ノ如シ

一　捜索ノ場所又ハ物

二　捜索ノ結果　押收スヘキ物ヲ發見セス

三　捜索ノ時

自午　時　分

至午　時　分

昭和　年　月　日某所ニ於テ此ノ調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス

某　署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名印

立會人　氏　名印

（注意）判事ノ命令狀又ハ檢事ノ指揮ニ因リ此ノ處分ヲ爲ストキハ冒頭ニ其ノ命令又ハ指揮ニ因ル旨ヲ表示スヘシ

樣式第一七號（半紙全罫紙）

押收調書

被疑者（被告人）某何々事件ニ付昭和　年　月　日某所ニ於テ司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ某ノ立會ヲ求メ押收ヲ爲スコト左ノ如シ

一　押收物ノ品目

二　押收ノ時　午　時　分

昭和　年　月　日某所ニ於テ此ノ調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス

某　署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名印

立會人　氏　名印

（注意）判事ノ命令狀又ハ檢事ノ指揮ニ因リ此ノ處分ヲ爲ストキハ冒頭ニ其ノ命令又ハ指揮ニ因ル旨ヲ表示スヘシ

様式第一八號（半紙全罫紙）

捜索押收調書

被疑者（被告人）某何々事件ニ付昭和　年　月　日某所ニ於テ司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ某ノ立會ヲ求メ捜索及押收ヲ爲スコト左ノ如シ

一場所ノ方向、位置廣袤及室内ノ間取ハ云々ニシテ別紙略圖ノ如シ

二何處ハ何々ノ模様云々

三何處ヨリ左ノ物件ヲ發見シタリ

(1)何々

(2)何々

右物件ハ本件ノ證據トシテ押收シ別紙目錄ヲ添附ス

此ノ處分ハ本日午前後何時何分ニ始メ何時何分ニ終ル

昭和　年　月　日某所ニ於テ此ノ調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印ス

某　署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名印

立會人　氏　名印

（注意）判事ノ命令狀又ハ檢事ノ指揮ニ因リ此ノ處分ヲ爲ストキハ冒頭ニ其ノ命令又ハ指揮ニ因ル旨ヲ表示スヘシ

様式第一九號（半紙全紙）

押收目錄

番號	品目	員數	差出人住所氏名	有者住所氏名	備考

（裏面）

一　醫師ノ意見ニ依レハ被害者（ニ）ノ創傷ハ最モ重ク據後計リ難ク（イ）（ロ）創傷ハ云々

一　何々物件ヲ發見シタルニ付證據物件トシテ押收シタリ

一　現場ノ狀況、創傷ノ模樣ハ添附圖面又ハ寫眞ノ如シ

一　被疑者某ノ所爲ハ刑法第何條ニ該當スル犯罪アリト思料ス（某方面ニ逃走シタル形跡アルニ付司法警察吏某又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ某ヲシテ追跡セシメタリ）

此ノ檢證ハ本日午前後何時何分ニ始メ何時何分ニ終ル

昭和　年　月　日某市郡町村ニ於テ此ノ檢證調書ヲ作リ立會人（又ハ證人）ニ讀聞カセ共ニ署名捺印ス（立會人又ハ證人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ事由）

昭和　年　月　日

某　署（所）

司　法　警　察　官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　　名印

（注意）若被害者又ハ發見者等ヲ證人トシテ訊問シ其ノ供述ヲ本調書中ニ錄取スルトキハ之ヲ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立テタルヲ以テ云々トノ附記ヲ爲シ右證人及之ニ立會ハシメタル司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）者ヲシテ共ニ署名捺印スヘシ

變死者ノ檢視處分ニ引續キ檢證ヲ爲ス場合ハ冒頭ニ何々變死者ノ檢視處分ニ引續キ檢證スル旨ヲ表示スヘシ

樣式第二一號ノ一（半紙全罫紙）

證人訊問調書

某何々被疑事件ニ付昭和　年　月　日某署（所）ニ於テ司法警察官（司法警察吏（司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一問　氏名、年齡、職業及住居ハ如何

答　氏名ハ

年齡ハ

職業ハ

住居ハ

（刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ヲ記載スヘシ）

二問　何々

答　何々

以下樣式第一五號ノ一ニ準ス

樣式第二一號ノ二（半紙全罫紙）

第何回證人訊問調書

證　人

某何々被疑事件ニ付昭和　年　月　日某署（所）ニ於テ司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ司法警察吏（司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上前回ニ引續キ右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一問　何々

答　何々

以下樣式名一五號ノ一ニ準ス

様式第二一號ノ三（半紙半截）

證人訊問囑託書

被疑者

右何々被疑事件ニ付別紙ノ通證人訊問相成度及囑託候也

追テ指定ノ者事實ヲ知ラス他ニ詳知ノ者判明シタルトキハ其ノ者ニ對シ訊問相成度候

昭和　年　月　日

印

某　署（所）

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名印

某　署（所）

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏

名殿

様式第二一號ノ四（半紙全罫紙）

證人訊問調書（囑託）

證人

昭和　年　月　日某署（所）ニ於テ司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ司法警察吏（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上某署（所）司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ノ囑託ニ依リ被疑者某何々事件ニ付右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一問　氏名、年齢、職業及住居ハ如何

答　氏名ハ

　年齢ハ

　職業ハ

　住居ハ

（刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ヲ記載スヘシ）

二問　何々

答　何々

以下樣式第一五號ノ一ニ準ス

樣式第二二號（半紙全罫紙）

鑑定人訊問調書

被疑者某何々事件ニ付昭和　年　月　日某署（所）ニ於テ司法警察官（司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ司法警察吏（司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上鑑定人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一問　氏名、年齡、職業及住居ハ如何

答　氏名ハ

年齡ハ

職業ハ

住居ハ

二問　（刑事訴訟法第二百二十八條第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ

否ヲ取調ヘ其ノ關係ヲ記載スヘシ

二　問　何々

答　何々

以下樣式第一五號ノ一ニ準ス

樣式第二三號（半紙半截）

請　書

右（假ニ）御還付相成正ニ領收候也

但シ御用ノ節ハ何時ニテモ提出可致候（假還付ノトキハ此ノ載記ヲ要ス）

昭和　年　月　日

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　某　殿

某　所

氏　名　印

樣式第二四號（半紙半截）

勾引狀

住居職業　　氏名　　年齡

何々被（疑告）事件ニ付某所ニ勾引ス

昭和　年　月　日

印

某　署

司法警察官　官　氏　名印

某裁判所檢事某ノ命令（又ハ判事某ノ囑託）ニ依リ本勾引狀ヲ發ス

引致日時	受命受託官署	昭和　年　月　日午　時　分	
送致日時	命令囑託官署	昭和　年　月　日午　時　分	

執行シタル場所	
執行シタル日時	昭和　年　月　日午　時　分
執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由	

右ノ通取扱候也

年　月　日

官　署　名

司法警察吏職　氏　名印

樣式第二五號（半紙全紙）

（表面）

逮捕狀

本籍　住居　職業

（綽名等アレハ此處ニ記入ス）

罪名　　氏名

刑名刑期　　年齡

右ノ者頭書ノ通昭和　年　月　日　ニ於テ判決ヲ受ケタルニ付刑執行ノ爲逮捕スヘキモノ也

昭和　年　月　日

印

某　署

司法警察官　官　氏　名印

某裁判所檢事某ノ命令ニ依リ本逮捕狀ヲ發ス

時效昭和　年　月　日	
執行シタル場所	
執行シタル日時	昭和　年　月　日午　時
執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由	

右ノ通取扱候也

昭和　年　月　日

官　署　名

司法警察吏職　氏　名印

（裏面）

人相書

丈	
色	
眼	
鼻	
耳	
音聲	
疵所	
其ノ他特徴	
逃走ノ際着用衣服	
携帯品	
立廻ノ場所	
備考	

顏
頭
眉
口
齒
痘痕
鬚指ノ有無

様式第二六號（半紙全紙）

（表面）

送致書

左記現行（非現行）犯事件及送致候也

昭和　年　月　日

印

某署（所）

某裁判所檢事　某殿

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官氏名印

件名	身許調	前科調	素行調	被疑者同行ノ時ハ赤○印ヲ付ス	被疑者氏名
	添附	月日照會	添附		
	添附	月日照會	添附		
	添附	月日照會	添附		
	添附	月日照會	添附		
	添附	月日照會	添附		

（裏面）

備考																							

樣式第二九號（半紙半截）

發送	第　號	昭和　年　月　日

微罪處分由書

處分番號	第　號	署長所長	取扱者

罪名	犯罪月日	昭和　年　月　日
犯罪事實概要及處分由		
處分月日	昭和　年　月　日	
親族要否及期間		

本籍		
住居		
職業		
氏名		
年齢		
教育程度		
前科其他		
處分通知先及月日		
證據物件及處分		
備考		

某署（所）

樣式第三〇號（半紙全紙）

身上調査書

（表面）

住居	
職業	
氏名	
年齢	
通稱綽名又ハ藝名	
經歷	素行調査書ノ記載例ニ同シ
性行	同上
境遇	本人ノ環境一切ヲ詳記スルコト
心身ノ狀況	遺傳關係、身體發育ノ狀況、精神發育ノ狀況、心身ノ特質、病歷等ヲ詳記スルコト
教育	素行調査書ノ記載例ニ準ス（學校所在地竝學校名モ記載スルコト）

様式第二八號（中紙全罫紙）

意見書

本籍　住居　職業

位、勳、兵役　氏　名

年　齢

第一　前科ノ有無（起訴猶豫、微罪處分ヲモ之ニ準ス）

第二　犯罪發覺ノ原因

第三　犯罪ノ動機

第四　犯罪事實（數罪アルトキハ項ヲ分テ記載スヘシ）

第五　證據

第六　法律ノ適用

第七　犯罪ノ情狀（處罰ノ要否及量刑ノ資料ト爲ルヘキ犯情ヲ記載スヘシ）

昭和　年　月　日

印

某　署（所）

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名　印

（注意）罪トナラス又ハ嫌疑十分ナラスト思料スルトキハ其ノ旨記載スルコト

樣式第二九號（半紙半截）

微罪處分理由書

發送	第　號	昭和　年　月　日
處分番號	第　號	署長　所長
取扱者		

罪名	犯罪月日	處分月日	犯罪事實概要及處分理由	親察要否及期間
	昭和　年　月　日	昭和　年　月　日		

本籍	住居	職業	氏名	年齢	教育程度	前科其他	處分通知先及月日	證據物件及處分	備考

某署（所）

樣式第三〇號（半紙全紙）

身上調査書

（表面）

住居職業氏名年齢			
通稱綽名又ハ藝名			
經歷	素行調査書ノ記載例ニ同シ		
性行	同上		
境遇	本人ノ環境一切ヲ詳記スルコト		
心身ノ狀況	遺傳關係、身體發育ノ狀況、精神發育ノ狀況、心身ノ特質、病歷等ヲ詳記スルコト		
教育	素行調査書ノ記載例ニ準ス（學校所在地竝學校名ヲモ記載スルコト）		

犯罪ヲ爲スニ至リタル徑路竝犯罪ノ動機	同上	
犯罪後改悛ノ有無	同上	
家庭ノ事情竝其ノ生活狀態	父兄其他親族間ニ於ケル保護者ノ有無其ノ氏名年齡、職業、性行及生活ノ狀態、家庭ノ事情若以上ノ保護者ナキトキハ「ナシ」ト記ス	
保護者	學校長、寺院、保護團體其ノ他適當ナル保護者ノ有無	
其ノ他參考トナルヘキ事項		

右調査ス

昭和　年　月　日

印

某　署（所）
司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名印
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官

（注意）本調査書ハ二葉ト爲スヲ妨ケス、各事項ニ付特ニ調査ニ從事シタルモノアルトキハ其ノ職員氏名ヲ附記スヘシ

●司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定

（大正十二年十二月二十九日勅令第五百二十八號）

第一條　外務省ノ警察官ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス

第二條　地方裁判所檢事局又ハ其ノ管內區裁判所檢事局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢事正ノ指命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

第三條　監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第四條　左ニ掲クル者ニシテ其ノ所屬長官其ノ官廳所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事正ト協議シテ指命シタルモノハ第一號乃至第八號ニ掲クル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第九號乃至第十三號ニ掲クル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

一　帝室林野管理局ノ事務官、事務官補、屬、技師及技手
二　獵場監守長
三　監獄又ハ分監ノ長タラサル典獄、典獄補及看守長
四　林區署勤務ノ山林事務官、山林技師、山林副事務官、山林屬、山林技手及森林主事
五　國有鐵道ノ驛長又ハ車掌監督タル鐵道局ノ副參事及書記
六　北海道廳ノ營林區署勤務ノ技師竝營林區署又ハ營林區分署勤務ノ屬、技手及森林主事
七　公有林野ノ事務ヲ擔當スル北海道廳產業技手

八　狩獵取締ノ事務ヲ擔當スル廳府縣技手
九　帝室林野管理局技手補
十　獵場監守
十一　看守
十二　國有鐵道ノ助役又ハ車掌監督助手タル鐵道局書記竝國有鐵道ノ車掌タル鐵道局ノ書記、鐵道手及雇員
十三　北海道廳河川監守

第五條　前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ揭ク罪ニ關スルモノニ限ル

一　前條第一號及第九號ニ揭ク者ニ在リテハ御料林野又ハ其ノ產物ニ關スル罪
二　前條第二號及第十號ニ揭ク者ニ在リテハ御獵場ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
三　前條第三號及第十一號ニ揭ク者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪
四　前條第四號ニ揭ク者ニ在リテハ國有林野、部分林、公有林野官行造林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
五　前條第五號及第十二號ニ揭ク者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於ケル現行犯
六　前條第六號ニ揭ク者ニ在リテハ北海道ニ於ケル國有林野、部分林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
七　前條第七號ニ揭ク者ニ在リテハ北海道ニ於ケル公有林野、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
八　前條第八號ニ揭ク者ニ在リテハ狩獵ニ關スル罪
九　前條第十三號ニ揭ク者ニ在リテハ北海道ニ於ケル河川又ハ其ノ附屬物ニ關スル罪

第六條　警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル犯罪ニ付テハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ區長ヲ置ク地ニ於ケル犯罪ニ付テハ司法警察官吏ノ職務ハ區長之ヲ行フ

第七條　海船（沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ）ノ船長ハ其ノ船內ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

前項ノ海船內ニ於ケル司法警察官ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●司法警察事務取扱方改正ノ件

（大正十四年七月十一日　日記第二二二六號）

檢事正ヨリ各警察官署長宛

司法警察事務取扱方ニ關シ從來ノ手續中左記ノ通改正致候條爾今之ニ準據シ處理相成候樣致度此段申進候也

一　（削除）

二　送致事件ニ對シ起訴猶豫、執行猶豫等ノ意見ハ之ヲ意見書以外ノ別紙ヲ以テ表示スルコトトナリ居リシ處（大正六年九月十七日日記第三四七四號通牒）今後右樣ノ意見ニ付テモ之ヲ意見書中ニ明記シ且其ノ理由ヲ付スル事

三　送致記錄ハ冒頭ニ文書目錄ヲ次ニ送致書、意見書ノ順序ヲ以テ編綴シ來リシ處今後ハ送致書ヲ冒頭ニ付シ次ニ文書目錄、意見書ノ順序ヲ以テ編綴スルコト但シ右ハ檢事局ニ於テ記錄取扱上便宜ノ爲メ一時綴込ノ順序ヲ顚倒シ置クニ過キサルヲ以テ一丁數ノ記入ニ付テハ送致書ヲ一丁意見書ヲ二丁トシテ文書目錄ニ登載スルコト從前ノ通

告訴告發自首事件ニ付指揮ヲ乞フ場合亦前項ノ例ニ同シ

●刑事ニ關スル記錄作成方ノ件

（大正十三年七月二十八日）
（日記第四〇四六號）

檢事正ヨリ各警察署長宛

百七十四

曾今左記ノ通取扱相成度此段申進候也

記

一　拘留科料ニ該ル罪ニ付司法警察吏ヨリ即決官署ノ長ニ對シテ爲ス犯罪報告ハ從來告發ノ形式ニ依リ之ヲ爲シ來リシ處刑事訴訟法改正ノ結果告發事件ハ總テ同法第二百七十四條司法警察執務規範第四十一條ノ規定ニ依リ檢事ニ事件送付ヲ要スル義ト相成候ニ付テハ爾今告發ノ形式ニ依ラス報告書トシテ之ヲ爲スコト

二　警部代理トシテ巡査部長タル巡査カ司法ニ關スル書類ニ署名スル場合ニハ

何警察署（所屬廳）
司法警察官警部代理
巡査部長　巡査　何　某

ト肩書スルコト

●司法警察ノ職ニ在ル者ノ證票ニ關スル件

（大正十三年一月十九日）
（司法省刑事局刑事第七一六號）

司法警察官吏又ハ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ニ交付スヘキ證票左ノ通定ム

右訓令ス

司法大臣名

第一條　檢事正ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル司法警察官吏又ハ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ニ對シ左記樣式ニ依ル證票ヲ交付スヘシ

第二條　證票ハ竪三寸横二寸ト爲シ强靱ナル厚紙ヲ用フヘシ

第三條　證票ニハ檢事局ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四條　檢事局ハ證票交付簿ヲ備ヘ證票ノ番號交付ノ年月日及交付ヲ受ケタル者ノ官職氏名ヲ記載スヘシ

第　號

司法警察官ノ證

年　月　日

官職
氏名

備考

司法警察吏、司法警察官ノ職務ヲ行フ者又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ者ニ付テハ夫々司法警察吏ノ證、司法警察官ノ職務ヲ行フ者ノ證又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ者ノ證ト記載スルコト

●司法警察事務上巡査ヲシテ警部代理ヲ爲サシムル件

（明治十四年十月五日　司法省達甲第五號）

新法實施後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

●巡査警部代理トシテ司法事務ヲ取扱フトキ取扱ニ關スル件

（明治十四年十月十三日　司法省達丙第十三號）

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相達候事但代理ヲ命スヘキ巡査ノ姓名ハ豫シメ其地方「輕罪竝違警罪」裁判所ヘ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

（明治十六年二月二十四日　司法省達丁第九號）

明治十四年十月常省甲第五號布達ニ據リ巡査ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判上渾テ警部同樣ノ取扱ヲ爲スヘシ此旨相達候事但從前ノ指令內訓本文ニ牴觸スル條件ハ取消候事

●警部代理ニ關スル件

（明治二十六年一月　指示第一四號）

司法事務ノ如キハ固ヨリ警部ニ於テ自ラ處理セサルヘカラサルニモ拘ラス從來警部代理ノ巡査アル爲メ當然之ニ爲サシメ遂ニハ擧テ放任スルノ傾キアリ畢竟警部代理ノ如キハ全ク警部差止アルニ當リ始メテ其代理セシムル筈ナレトモ今日ノ有樣殆ト代理ノ名稱ハ其實ニ適セス甚タ不都合ニ付今回一般警部代理ヲ免シタレハ爾今必ス警部ニ於テ自ラ取扱セ萬一不得止場合ニ在テハ臨時巡査ヲシテ警部代理ノ心得ヲ以テ取扱ハシメ其ノ書類ニハ警部代理巡査某ト記セシムル樣取計フヘシ

●刑事課主管報告書類取扱方ノ件

（大正十五年七月二十二日　刑第三八七二號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

從來保安課司法室ニ於テ司法事務ヲ取扱ヒ居タル處本年七月訓令丙第九號ヲ以テ刑事課創設ノ爲メ司法事務ハ保安課ヨリ分離シ刑事課ニ於テハ左記事務ヲ主管スルコトト相成候條報告書類等取扱ニ關シテハ右御諒知ノ上遺算ナキヲ期セラルヘク此段及通牒候也

追而藏ニ通牒シ置キタル司法ニ關スル例記ニシテ保安課ノ字句ヲ使用シアルハ右ニ依リ當然刑事課ト改正相成リタルモノトシテ取扱相成度申添候

記

一　僞造變造模造ノ貨幣又ハ有價證券ノ發見報告若クハ手配照會解除ニ關スル事項
一　犯罪手配ニ關スル件
一　家出人捜査ニ關スル件
一　浮浪者取締ニ關スル事項
一　不良青少年少女取締ニ關スル件
一　犯罪ノ鑑識ニ關スル件
一　警察罰ニ關スル事項

●刑事警察事務協定ニ關スル件

（大正十年十二月十六日　保親第五五〇號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

今回本縣及愛知三重長野靜岡ノ各縣間ニ於テ刑事警察上左記各事項ヲ協定シ實施スルコトト相成候條將來之ニ準據シ相當

御取扱可相成及通牒候也

協定事項

第一　犯人引渡方ニ關スル件

犯罪地ノ警察官署ヨリ適當ノ方法ニ據リ手配、取押、逮捕等ノ嘱托ヲ受ケ犯人ヲ取押ヘタル場合ハ警察官署所轄内ニ主タル犯罪ナキ限リ速ニ其犯人ノ引渡ヲ爲ス事

但シ現行犯又ハ重要ナル犯罪事件ハ所轄檢事ノ指揮ヲ受ケ處理スル事

前項ニ據リ難キ場合ハ善意ノ協議ヲ爲シ決定スル事

第二　汽車内犯罪互報ノ件

汽車内ノ犯罪ニ就テハ各縣ノ連絡捜査ハ最モ緊要ナルニ付キ汽車内ニ於テ發生シタル犯罪（强窃盗、殺人、傷害、屍體遺棄、其他）ニ就テハ可成速ニ沿道府縣ニ通報シ其ノ通知ヲ受ケタル府縣ニ於テハ迅速ニ管内關係警察官署ニ手配ヲ爲シ捜査ノ共助ニツキ遺憾ナキヲ期スル事

汽車犯罪事件ニシテ屆出ヲ受ケ確然ト被害地ノ判明セルモノハ所轄署ヘ被害屆書類ヲ回送シ數ケ署ノ等轄ニ跨リテ被害地ノ判明セサルモノハ受理署ニ被害屆書類ヲ置キ速ニ關係各署ヘ手配ノミヲ爲ス事

第三　刑事會議等開催ノ際互報ノ件

各縣ニ於テ管内刑事警察官ノ打合會等ヲ開催シタル際ハ近縣ニ互報シ通報テ受ケタル近縣ニ於テハ支障ナキ限リ適當ノ者ヲ出席セシムル事

會議事項ノ狀況ハ接續縣ニ互報スルコト

第四　刑事警察事務ニ關スル照會ニ付回答ヲ迅速ニ爲スヘキ件

犯罪事件ニ關スル事實調査其ノ他捜査照會等ニ對スル回答ハ最モ敏速ヲ期スル事

照會ノ際ハ被告人拘留中ナルトキハ其期間ヲ其ノ他ノ場合ハ至急ヲ要スル事由ヲ詳記スル事

第五　隣縣ニ跨ル特種犯罪捜査連絡ニ關スル件

從來隣縣ニ跨ル特種犯罪事件ニ關シ捜査上ノ連絡ヲ欠クノ結果犯人ヲシテ徒ラニ跳梁ヲ逞フセシムルノ憾アリ依テ之ヲ連絡ノ親善ヲ期シ檢擧ノ實ヲ擧クル爲メ左記各項ヲ實行スル事

一　犯罪發生ノ場合ハ主タル犯罪地ニ於テ關係地方ノ打合會ヲ開催シ捜査ノ統一ヲ期スルコト

二　犯人逮捕ノ場合ハ其關係縣ニ通報シ其必要ニ應シ刑事立會ノ上取調ヲ爲ス事

三　鄰接縣相互間ニ適當ノ張込網ヲ設定シ共助ノ實ヲ擧クル事

四　協力檢擧ニ依ル事件ノ處理上ニ關シテハ犯人引渡協約ニ據ル事

第六　職業的、旅行的犯人ノ互報ニ關スル件

首題ノ犯罪者ハ現住、非現住ヲ問ハス他府縣ニ立廻ル見込ミアル者ノ調査ヲ爲シ此際其名簿等ヲ互報シ爾後ノ異動ハ其都度通報スル事

第七　出獄考互報ノ件

各縣トモ從來警察報等ニ登載シタルモノヲ特ニ刑事課又ハ保安課宛互報スルコト

第八　犯罪捜査上秘密嚴守ノ件

從來犯罪捜査ノ爲メ他府縣ヘ出張シタルトキ又ハ捜査手配ヲ爲シタル場合ニ其地ノ新聞紙ニ事件ノ内容出張官吏ノ官職氏名等ヲ掲載シ秘密ヲ漏泄セラレ爲メニ往々捜索上ノ支障ヲ來スコト不尠斯クテハ捜査ノ十全ヲ期スルコト到底得テ望ムヘカラサルニ至ルヲ以テ如上ノ場合ニ於テハ最モ秘密ヲ格守スル事

第九　刑事警察上新施設互報ノ件

刑事警察上新タニ設備ヲ爲シ又ハ新法規ヲ制定シタルトキハ其内容ヲ通報シ廣ク刑事警察ノ向上ヲ計ル事

第一〇　近縣打合會開催ノ件

爾今毎年一回定期ニ近縣刑事事務打合會ヲ開催シ捜査方針ノ統一ヲ計リ其ノ他捜査上ノ連絡ニ付キ協商ヲ遂ケナハ

其ノ効果不鮮ト認ムルヲ以テ可成開催スル事

第一一　指名手配ニハ人相、特徴、着衣等詳記スルノ外可成犯人ノ寫眞ヲ添付シ手配ヲ受ケタル縣ハ經費ノ許ス範圍ニ於テ之ヲ複寫シ各署ヘ配付セハ捜査上ノ便益不鮮ト認ムルヲ以テ實行スルコト

第一二　取締犯人所遇方ノ件

出張先ニ於テ犯人ヲ取押タル場合ニ於テ要務ノ都合其ノ他止ムヲ得サル事情ニ依リ即日同行歸縣シ得サルトキハ關係官署ハ法規ニ牴觸セサル範圍内ニ於テ取押犯人ヲ一時其ノ署ニ留メ置キ方取計フ事

第一三　捜査應援ニ關スル件

捜査上他府縣ニ出張シタルトキハ關係官署ニ其旨ヲ通告シ關係官署ハ力メテ之ヲ援助スル事

但シ事態急ヲ要シ通告スルノ暇ナキトキハ捜査ヲ終ヘタル上其概要ヲ通報スル事

第一四　警察官吏宿泊ニ關スル件

捜査要務ノ爲メ他府縣ヘ出張シタル際ハ關係官署ノ宿直室ニ宿泊セシムルハ捜査ノ敏活ヲ計ル上ニ於テ稗益スル所不鮮ヲ以テ可成右様便宜ヲ與フル事（捜査打合、應急呼出、通信發受ノ便アリ）

第一五　犯罪特報ニ關スル件

他管内ニ於ケル犯罪ノ發見ヲ容易ナラシメ且ツ捜査ノ連絡ヲ保持スル必要上強盗、窃盗（空巢、板ノ間、置引、掏摸、邯鄲、戸切）等ノ職業的、旅行的犯罪其ノ他（殺人放火ヲモ含ム）重要ナル犯罪ニ付テハ其犯罪月日、場所、手段、方法（目的地）其他參考事項ヲ通報シ同上犯人檢擧ノ場合ハ其ノ住所氏名、年齢、犯罪ノ動機、手段方法、逃走經路及檢擧ノ狀況其ノ他參考事項（送致及起訴不起訴ノ別ヲモ）ヲ左記様式ニ依リ互報スル事

但シ手配ハ可成關係地域ト認ムル方面ニノミ爲シ濫發セサル事

様式

何々第　　號　犯罪手配ノ場合

犯罪年月日	犯罪場所（目的物）	手段方法	被害金品	立廻先及關係地域	上欄事由	參考事項

年　月　日　何縣警察部

何々第　　號　同上犯人檢擧ノ場合

手配年月日番號	犯人氏名	住所	年齢	犯罪動機	手段方法	逃走及徘徊ノ經路	檢擧ノ狀況	檢事局ニ送致起訴不起訴ノ別及年月日	參考事項

年　月　日　何縣警察部

第七章　捜　査

●犯罪捜査規程

（大正十五年九月二十日
岐阜縣訓令乙第三八九號）

警　察　署

第一章　總　則

第一條　犯罪ノ捜査ハ別ニ規定アルモノノ外本規程ニ依リ處理スヘシ

第二條　犯罪ノ捜査ハ須ク周到ナル配意明徹ナル觀察及鋭敏ナル判斷トニ依リ一定ノ方針ヲ樹テ熱誠且ツ持續的ノ行動ヲ以テ檢擧ノ遂行ニ努ムヘシ

第三條　犯罪ノ捜査ニ當リテハ協力一致克ク相互ノ聯絡ヲ保チ以テ證據資料ノ蒐集犯人ノ檢擧ニ努メ一已ノ功ヲ求メス全局ノ成績ヲ擧クヘシ

第四條　犯罪捜査上ニ於ケル秘密ハ之ヲ嚴守シ被疑者及關係人ノ名譽ノ保持ニ留意スヘシ

第五條　警察部刑事課長ハ警察部長ノ命ヲ承ケ縣下全般ノ捜査事務ヲ監査シ且ツ部下ヲ指揮監督ス

警察署ニ司法主任ヲ置キ署僚警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

警察署長司法主任ヲ指命シタルトキハ警察部長ニ其ノ官氏名ヲ報告スヘシ

第六條　警察部長ハ必要アリト認メタルトキハ刑事課長ヲシテ捜査ニ當ラシメ又ハ捜査ノ指揮ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其旨ヲ所轄警察署長ニ通報スヘシ

第七條　警察署長其所轄内ニ重要犯罪其ノ他ノ事件發生シ所屬署員ヲ以テ捜査ヲ爲スニ不充分ナリト思料スル場合ハ警察部長ニ應援ヲ竟申スルコトヲ得

第八條　所轄警察署長ハ警察部刑事課及警察署間トノ聯絡協調ヲ保チ部下警察官吏殊ニ刑事巡査ト各派出所駐在所間ノ聯絡統一ニ留意シ捜査上ノ方針計畫ヲ指示シ機宜ヲ誤ラサルコトヲ期スヘシ

第九條　警察署長ハ部下警察官吏ニ對シ犯罪捜査ニ關スル科學的竝ニ實際的智識ノ敎養ニ努ムヘシ

第二章　現場臨檢

第十條　所轄警察署長及司法主任ハ殺人、強盜、放火其ノ他重要ト認ムル犯罪發生シタルトキハ己ムヲ得サル場合ヲ除ク外直ニ犯所ニ臨檢シ檢查ノ方針ヲ樹テ部下ヲ指揮シ檢擧ニ著手スヘシ

第十一條　犯罪ノ現場ニ臨檢シタルトキハ左ノ各號ヲ精查シ證據資料ノ蒐集保全ニ努ムヘシ

一　犯罪ノ動機及原因
二　犯罪ノ手段及方法
三　犯罪供用物件
四　證憑又ハ犯人ノ人相著衣、遺留品、原跡、指紋及足跡
五　被疑者ト被害者トノ關係
六　其他捜查上ノ端緒ト爲ルヘキ事項重要ナル犯罪事件ニシテ現場ノ狀況其ノ他犯罪ニ關係アル證據資料ニシテ保全上必要アリト認メタルトキハ寫眞ヲ撮影スヘシ

第十二條　犯罪現場ハ司法警察官又ハ判檢事ノ檢證ヲ終ル迄之ヲ保全シ他人ノ出入及證據資料ノ散逸湮滅ヲ防クヘシ

第十三條　證據物件ニシテ鑑識ヲ要スト認ムルモノハ其ノ原形又ハ價値ヲ損セサル樣保全シ速ニ檢事ノ指揮ヲ受クヘシ

第三章　報告及通報

第十四條　警察署長ハ前ニ規定アルモノヲ除クノ外所轄內ニ左記犯罪發生シタルトキハ直ハ警察部長ニ報告シ捜查上必要アリト認ムルトキハ關係各警察署ニ通報手配スヘシ

但シ犯罪重要ナルトキハ書面報告ニ先チ電話電信其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ急報シ後詳細ヲ追報スヘシ

一　公務執行ヲ妨害スル罪
二　逃走ノ罪
三　騷擾ノ罪
四　放火(原因不明ノ火災ヲ含ム)溢水及水利ニ關スル罪
五　往來ヲ妨害スル罪
六　阿片煙ニ關スル罪
七　公文書僞造變造ノ罪
八　公印盜用及其僞造變造ノ罪
九　公債證書、官府ノ證券及會社ノ株券ノ僞造變造ノ罪
一〇　强姦ノ罪
一一　殺人ノ罪
一二　略取及誘拐ノ罪
一三　左ニ該當スル傷害ノ罪
イ　廢疾不具ト爲ルヘキ虞アルモノ
ロ　被害者又ハ犯人多數ナルモノ
ハ　特別ノ事由ニ依リ社會上重要ナル關係ヲ生スルモノ
一四　業務上過失傷害致死ノ罪
一五　强盜ノ罪
一六　左ニ該當スル窃盜ノ罪
イ　被害金額五百個以上ノ窃盜

第五編　刑事　第七章　捜查

ロ　掏摸、部屋師、置引ノ犯罪ニシテ警戒ノ必要アリト認ムルモノ
ハ　持兇器物盜
ニ　土藏破、戸切、燒拔、土臺下堀
ホ　銃砲火薬類又ハ社寺寶物ノ被害
ヘ　官公署ニ於ケル盜難
ト　被害少額ナリト雖モ一時ニ數ケ所又ハ日時ヲ異ニスルモ連續シテ數ケ所ヲ犯セリト認ムルモノ
一七　被害金額五百圓以上及五百圓以下ト雖モ一時ニ數ケ所又ハ連續シテ犯セル詐欺、恐喝及橫領ノ罪
一八　決鬪ニ關スル罪
一九　爆發物ニ關スル罪
二〇　暴力行爲等處罰ニ關スル法律ニ關スル罪
二一　治安維持法ニ關スル罪
二二　一般ニ模倣セラルルノ虞アル犯罪
二三　科學的智識ノ應用其ノ他犯罪ノ手段巧妙ニシテ斬新ナルカ又ハ社會ノ耳目ヲ惹キ若ハ旅行的職業的犯人ノ所爲ト認メラルル犯罪
二四　其ノ他必要ト認ムル犯罪

前項ニ依リ通報手配ヲ受ケタル警察署長ハ必要方面ヲ速ニ手配捜査スヘシ

第十五條　前條ノ報告及通報ニハ左ノ事項ヲ具備セシムヘシ
但シ必要ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得
一　犯罪ノ日時及場所
二　被害者ノ住所、職業、身分、氏名及年齢
三　犯罪ノ手段方法及事實ノ概要
四　犯罪ノ原因及動機
五　被害ノ物件及價格
六　犯罪發覺ノ日時及事由
七　被疑者ノ住所、身分、職業、氏名、年齢、通稱、變名又ハ綽名、人相、特徴、著衣等其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
八　遺留品、指紋、足跡、其他捜査上ノ資料ト爲ルヘキモノノ詳細
九　犯所臨檢ノ日時及臨檢官ノ官職氏名
一〇　重要犯罪ニ對シテハ捜査方針及手配狀況

第十六條　第十四條ニ列擧スル犯罪ニシテ檢擧ニ至ラサルモノニ對シテ警察署長ハ附錄第一號樣式ノ犯罪捜査簿ヲ備ヘ之ニ登載シ時效完了ニ至ル迄捜査ヲ繼續シ捜査ノ經過事項ヲ其ノ都度記入シ左記各號ニ依リ捜査狀況ヲ警察部長ニ報告スヘシ

一　第十四條第四號、第十號、第十一號、第十五號及第十六號ハ、三囘、以降一ケ年內ハ每月一囘
二　前號以外ノ犯罪ニ對シテハ每年六月、十二月ノ末日

前項ノ期間ニ拘ハラス必要ナル場合ハ隨時報告スヘシ

警察署ハ第十四條ニ列擧スル以外ノ犯罪ニ對シテハ第二十四條ニ依ル盜難届書又ハ被害錄取書ノ末尾ニ捜査狀況ヲ記載シ附錄第六號樣式ノ目次ヲ附シ届出ノ順序ニ編綴處理スヘシ

第十七條　各警察署ノ受持巡査ハ附錄第一號樣式ノ犯罪捜査簿ヲ備ヘ其ノ受持區內ニ於ケル總テノ犯罪ニシテ未檢擧事件ヲ登載シ捜査ヲ繼續スヘシ

第十八條　第十四條第四號、第十號、第十一號、第十五號、第十六號ハ、ニ、ホノ犯罪發生シタルトキハ其ノ捜査ニ關ス

ル日誌ヲ設ケ之ニ捜査ノ狀況及捜査官ノ氏名等ヲ記載シ捜査ノ繼續檢擧ノ成功ヲ期スヘシ

第十九條　第十四條ノ犯罪ヲ檢擧シタルトキハ左記事項ヲ具シ速ニ警察部長ニ報告シ且ツ手配ヲ爲シタル警察署長ニ通報スヘシ

一　被害ノ日時及事件名
二　被害者ノ住所氏名
三　被疑者ノ住所、身分、職業、氏名、年齢、及前科ノ有無
四　檢擧ノ月日逮捕ノ場所及贓品ノ發見
五　檢擧ノ顚末、特ニ捜査上將來ノ參考ト爲ルヘキ事項
六　逮捕檢擧セシ官吏ノ官氏名

第二十條　警察部刑事課ニ附錄第二號樣式ノ重要犯罪整理簿ヲ備ヘ第十四條ニ依リ重要犯罪ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ニ登載シ必要ナル捜査經過ノ報告アリタルトキハ之ニ記載スヘシ

第二十一條　警察署長ハ毎月取扱ヒタル犯罪事件ヲ附錄第三號樣式ノ犯罪被害及檢擧表ニ依リ翌月五日迄ニ警察部長ニ報告スヘシ

第四章　非常警戒

第二十二條　警察署長ハ三ケ月毎ニ刑事巡査犯罪檢擧數ヲ附錄第四號樣式ニ依リ警察部長ニ報告スヘシ

第二十三條　四人、刑事被告人、行政檢束者、其他留置人カ死亡シ又ハ自殺ヲ企テタルトキハ其ノ住所氏名、年齢、留置ノ理由竝ニ顚末ヲ詳細報告スヘシ

第二十四條　警察官吏盜難發生ノ届出ヲ受ケタルトキハ所定ノ盜難届用紙ニ記載シ其他ノ犯罪發生ノ届出ヲ受ケタルトキハ附錄第五號樣式ニ依リ被害錄取書ヲ作成シ速ニ所屬警察署長ニ進達スヘシ但書面ニ依ル犯罪發生ノ届出ハ直ニ警察署長ニ提出スヘシ

第二十五條　非常警戒ヲ分チテ甲種及乙種ノ二トス甲種非常警戒トハ警察部長ノ指揮ニ依リ縣下全般又ハ數警察署區域ニ亙リ行ヒ乙種非常警戒トハ警察署長其ノ所轄內ニ亙リ行フモノトス

第二十六條　殺人、强盜、其ノ他重要ナル犯罪ノ犯人逃走シタルトキハ事件發生地ノ警察署長ハ直チニ乙種非常警戒ヲ爲シ必要ニ應シ速ニ隣接警察署ニ非常警戒又ハ警察部長ニ甲種非常警戒ノ要求ヲ爲スヘシ

前項ノ要求ヲ受ケタル警察署長ハ直ニ必要方面ニ非常警戒ヲ爲スヘシ

犯人ヲ逮捕シ又ハ手配ヲ解除シ其ノ旨警察部長又ハ關係警察署ニ通報スヘシ

第二十七條　警察部長ハ重要犯罪發生シ必要アリト認メタルトキハ甲種非常警戒ヲ命スルコトアルヘシ

第二十八條　非常警戒ニ際シ警戒スヘキ地點及捜索スヘキ場所概ネ左ノ如シ

一　警戒スヘキ地點
　イ　樞要道路ノ交叉點又ハ橋梁
　ロ　市町村ノ入口
　ハ　展望ニ便ナル場所
　ニ　停車場及停留所
　ホ　乘船發著場及遊船場
　ヘ　其ノ他犯人ノ隱遁脫出ノ虞アル場所
二　捜索スヘキ場所
　イ　社寺、佛祠、空家等
　ロ　洞穴、河原、森林、源野等ニシテ犯人潛伏ニ便ナル場所
　ハ　通行中ノ人力車、馬車、自轉車、自動車
　ニ　宿屋、料理屋、貸座敷、待合、飮食店、劇場、興行場、細民部落

ホ　犯人ノ親族、故舊、友人、及同監者ノ居宅等

第二十九條　非常警戒ヲ爲シタル場合ハ監督者ニ於テ配置ノ警察官ヲ巡視監督スヘシ

第三十條　警察署長ハ非常警戒ノ場合ニ於ケル警察官配置ノ個所、部署及捜査ノ方針ヲ豫メ計畫シ置キ署員ニ周知セシメ隨時訓練ヲ爲シ有事ニ際シ齟齬ヲ來ササル樣注意スヘシ

前項ノ配置ノ個所、部省ハ圖面ヲ添ヘ豫メ警察部長ニ報告シ且隣接警察署長ニ通報スヘシ其ノ配置ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十一條　警部補又ハ巡査ニ對スル非常警戒ノ令達ハ警察官非常召集規定ヲ準用ス

第五章　捜査共助

第三十二條　警察署長ハ捜査上他ノ警察署ニ共助ヲ求ムル必要アリト認ムルトキハ犯罪事件ノ詳細及共助ノ範圍ヲ具シ遲滯ナク共助ヲ依賴スヘシ

前項ノ依賴ヲ受ケタル警察署長ハ直ニ捜査上必要ナル共助ヲ爲シ且ツ狀況ヲ時々共助ヲ依賴シタル警察署長ニ通報スヘシ

第三十三條　他ノ警察署所轄内ニ於テ捜査ヲ爲サムトスルトキハ豫メ所轄警察署長又ハ最近ノ派出所若ハ駐在所ニ通知シ成ルヘク共助ヲ求ムヘシ

但シ犯人ノ追跡其ノ他急迫ノ事情ニ依リ通知ヲ爲シ難キ場合ハ事後ニ於テ其旨ヲ通報スヘシ

第三十四條　他ノ警察署所轄内ノ犯罪事件ニ關シ犯人ノ所在又ハ證憑其ノ他捜査上參考ト爲ルヘキ事項ヲ知得シタルトキハ速ニ犯罪地所轄ノ警察署長ニ通報スヘシ但シ犯人逃走又ハ證憑湮滅ノ虞アルトキハ直ニ機宜ノ措置ヲ講シ其ノ旨ヲ通報スヘシ

第三十五條　犯人ヲ逮捕シタルトキハ左ノ例ニ準據シ引渡ヲ爲スヘシ

一　犯人トシテ指名シ又ハ人相、特徴、著衣、立廻先等ヲ明瞭ナラシムル要旨ヲ明示シテ手配方通報アリタル者ヲ逮捕シタルトキハ直ニ其ノ手配ヲ要求シタル警察署ニ引渡スヘシ但シ該手配ノ原因タル犯罪ニ比シ罪質輕微ナラサル犯罪ノ現行犯ノ爲メ逮捕シ又ハ多數若ハ重要ナル他ノ犯罪アリタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

二　共犯者ヲ二以上ノ警察署ニ於テ各別ニ逮捕シタルトキハ從犯ハ正犯ヲ逮捕シタル警察署ニ其ノ何レモ正犯ナルトキハ最初逮捕シタル警察署ニ引渡スヲ妥當トス

三　殺人、强盜又ハ通貨僞造等ノ重大事件ノ犯人ヲ逮捕シタル場合犯罪地警察署ノ要求アルトキハ警察部長ノ指揮ヲ受ケ之ニ引渡スヘシ但シ逮捕シタル警察署管内ニ其ノ罪以上ノ重要犯罪アリタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第三十六條　捜査共助又ハ犯人引渡ニ關シ關係警察署間ニ於テ意見一致セサルトキハ警察部長ニ稟申指揮ヲ受クヘシ

第三十七條　警察郡ニ司法主任會議ヲ開催シ重要事件ノ未檢擧竝ニ牽連事件ニ對スル捜査共助ニ關シ打合ヲ爲スコトアルヘシ

第三十八條　各警察署間ニ於テモ隨時必要ナル場合ニ於テ各區裁判所管内ヲ區域トシ又ハ隣接所轄警察署ヲ合同シ捜査共助ニ關スル打合ヲ爲シ捜査ノ連絡統一ヲ圖ルヘシ

前項ノ會議ヲ爲ス場合ニ於テハ開催地警察署長ハ豫メ會同ノ日時、場所及打合事項ヲ警察部長ニ報告スヘシ

第三十九條　前條ノ捜査共助ニ關スル打合ハ刑事課長之ヲ管掌シ刑事課長事故不在ノ場合ハ開催地警察署長管掌シ其ノ會議ノ狀況ヲ警察部長ニ報告スヘシ

附　則

本規程ハ大正十五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年四月一日岐阜縣訓令乙第一二一號犯罪報告規程及大正九年五月六日岐阜縣訓令乙第一九九號刑事々務取扱規程ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式(用紙中紙)

進行番號	第　　號
接受	大正　年　月　日ノ
知得原因	
現行非現行	
罪名	
犯罪事實概要	
被害物品及其價格	
被害者ノ住所職業氏名	
犯人本籍住居職業氏名年齡又ハ人相特徵	
終局 年月日	
終局事由	記載例 犯人何署ニ於テ檢擧 又ハ時効完成 又ハ死亡

第二號樣式

番號	被害ノ年月日	犯罪方法	被害金額及見積金額	被害者ノ住所氏名	檢擧月日	犯人ノ本籍住所氏名年齡	署別	備考
重要犯罪整理籍								

第三號樣式
月分犯罪被害及檢擧表ハ警察報告例月報第六樣ト同樣ニツキ省

第四號樣式(用紙半紙)

犯罪檢擧數報告表

種別			殺人 過失致死	放火	強盜	竊盜 以上ノ重要犯	竊盜 以上ノ外 其他	刑事巡査人名
單獨	檢擧件數					財産百圓以上	同百圓以下	
	逮捕人員							
共同	檢擧件數							
	逮捕人員							
單獨	檢擧件數							
	逮捕人員							
共同	檢擧件數							
	逮捕人員							

昭和 年自 月至 月

何 署

第五號樣式(用紙半紙)

被害錄取書

錄取書作成年月日	大正 年 月 日午前後 時 分	被害者	住所	錄取者官氏名	
被害日時	大正 年 月 日午前後 時 分		職業		
被害場所	市町村 郡 字 番地		氏名		
届出ノ日時	大正 年 月 日午前後 時 分	届出人ノ	住所職業氏名		
被害金品ノ種類數量及見積金額			年齢		
			自署捺印		
犯罪ノ方法情況其ノ他					

第六號樣式

目次

進行番號	被害月日	罪名	被害者 町村氏名	終局 年月日 事由	記載例
	月日			年月日	何署ニ於テ檢擧
	月日			年月日	犯人死亡
	月日				
	月日				
	月日				

●犯罪捜査規程改正ニ關スル件

（大正十五年九月二十一日　刑第四七三三號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

今般本縣訓令乙第三八九號ヲ以テ別冊ノ通リ犯罪捜査規程改正相成リ候ニ就キ改正ノ趣旨ヲ徹底セシメ其ノ取扱上萬遺算ナキヲ期セラルヘク殊ニ近時各署ニ於ケル重要犯罪事件ニシテ檢擧ニ至ラサルモノ尠カラス各位ハ克ク部下ヲ督勵シ刑事警察ノ實蹟ヲ擧クルニ努メラルヘク此段及通牒候也

●鐵道司法警察事務手續ニ關スル件

（大正十五年四月二十九日　保刑第二二六二號移牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

來ル五月一日ヨリ實施可相成鐵道司法警察事務ニ關スル執務手續其他別紙ノ通リ制定ノ趣キ名古屋鐵道局ヨリ照會有之候條此段移牒候也

（大正十五年四月二十八日　名鐵運寅第一一五九號）

名古屋鐵道局長ヨリ警察部長宛

（大正十五年四月二十六日　名鐵運甲第一三一號）

第一條　本手續ニ於テ心得トハ鐵道司法警察執務心得ヲ謂フ

第二條　司法警察官吏ノ職務ヲ行フ職員ノ指名アリタルトキハ關係運輸事務所長ハ檢事正ニ就キ證票ヲ受ケ之ヲ當該司法警察官吏ノ職務ヲ行フ職員ニ交付スヘシ

第三條　司法警察官吏ノ職務ヲ行フ職員ノ指名解除セラレタルトキハ關係運輸事務所長ハ速ニ證票ヲ囘收シ之ヲ檢事正ニ返付スヘシ

第四條　心得第三條ニ依ル司法警察官吏ノ職務ヲ行フ職員ノ證票ノ保管ハ驛長室又ハ車掌監督室内ノ鎖錠裝置アル一定ノ箇所ニ於テ爲スヘシ

前項ニ依ル證票ノ保管ニ關シテハ驛長又ハ車掌監督ニ於テ其ノ責ニ任ス

第五條　心得第四條ノ書面ヲ以テスル報告ハ左記樣式ニ依リ關係運輸事務所長ニ對シテモ之ヲ爲スモノトス

電報ヲ以テシタルトキト雖前項ニ準シ速ニ書面ニ依リ追報スヘシ

第六條　心得第四條第三項ニ依ル報告ハ所屬鐵道局長ニ對シテモ亦之ヲ爲スヘシ

第七條　司法警察官吏ノ職務ヲ行フ職員ニ對シ其ノ所屬外犯罪ニ付告訴、告發其他ノ申告ヲ爲サントスルモノアルトキハ便宜最寄警察官署ニ又ハ停車場若クハ列車ニ居合ハセタル通常司法警察官吏ニ對シ申告スヘキ旨諭示スヘシ

樣式

運輸事務所長　名古屋鐵道局　驛
運輸課長　司法警察官吏　何　某
庶務課長

局長　ノ職務ヲ行フ

鐵道警察事件概要報告書

大正　年　月　日提出

氏名職業
被疑者　及年齢
住居
時日
場所

當時ノ處置
關係者ノ職氏名
備考
徵罪處分ヲナシタルトキハ其旨備考欄ニ明記スルヲ要ス

事實

●移動警察事務取扱規程

（昭和二年一月十三日岐阜縣内訓第一號）

警察部警察署

第一條　左ノ國有鐵道路線内ニ於テ移動警察事務ヲ取扱フ爲メ警察部ニ主任一名副主任二名執行擔任者若干名ヲ置ク

一　東海道線（名古屋京都間）
二　北陸線（米原福井間）
三　高山線
四　越美南線

第二條　主任ハ警察部長副主任ハ刑事課長及高等警察課長ヲ以テ之ニ充テ執行擔任者ハ主任之ヲ命ス

第三條　副主任ハ主任ノ命ニ依リ執行擔任者ノ勤務割ヲ定メ其ノ職務執行ヲ指揮監督スル外鐵道當該事務主任者トノ連絡協商ニ任スヘシ

第四條　執行擔任者ハ驛構内及指定セラレタル區間ノ列車内ニ於テ左ノ事務ニ從事スヘシ

一　犯罪ノ豫防竝ニ檢擧
二　各種要視察人、要注意人及過激思想抱持者ノ視察取締
三　其他特ニ命セラレタル事項

第五條　執行擔任者職務執行ニ就テハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　鐵道係員及他府縣當該係員トノ連絡協調ヲ圖ルコト

二　驛構内ニ立入リ又ハ列車ニ乘込ム場合ハ等級相當ノ私服ヲ着用シ驛ニアリテハ驛長列車ニアリテハ車掌ニ乘車區間氏名小票（附錄第一號樣式）ヲ交付スルコト

三　驛構内及列車内ニ於テ犯罪ヲ認知シ又ハ被害ノ申告ヲ受ケタル時ハ速ニ鐵道係員トノ協力シ之カ捜査ニ着手シ證據捜査資料ノ蒐集保全其他機宜ノ措置ヲ講スルコト

四　被疑者其ノ他ノ取調ハ止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外鐵道係員ヲ介シテ驛長室車掌室其他公衆ノ耳目ニ觸レサル適當ノ場所ニ同行シテ之ヲ爲スコト

五　鐵道電話ヲ使用セムトスル時ハ驛係員ニ對シ警察手帳又ハ名刺ヲ提示シ其ノ用務ヲ告ケ承認ヲ得タル後之ヲ爲スコト

六　驛構内又ハ列車内ニ於ケル犯罪事件ハ犯罪ヲ認知シ又ハ被害ノ申告ヲ受ケ若クハ鐵道司法警察官吏ヨリ犯罪事件ノ引繼ヲ受ケタル當時ノ土地管轄スル警察署ニ對シ之ヲ引繼キ其ノ捜査ヲ委スルコト

但シ止ムヲ得サル場合ハ次ノ管轄警察署ニ之ヲ爲スコト

第六條　警察署ハ前條第六號ニ據ル執行擔任者ヨリ被疑者又ハ事件ノ處理ヲ求メラレタル時ハ土地管轄ノ如何ニ拘ハラス速ニ其ノ處理ヲ爲スヘシ

他府縣當該係員ヨリ引繼ヲ受ケタル場合亦同シ此ノ場合ニ於テハ速ニ其旨主任ニ報告スヘシ

第七條　警察署ニ於テ驛構内及列車内ニ於ケル置引、掏摸、其他鐵道利用犯罪ヲ檢擧シタル時及前條ノ規定ニ依リ犯罪事件ノ處理ヲ爲シタルトキハ大正十年八月一日附保第七七四八號同年十二月一日附保第九二二三號及同年十二月十五日附保第一二四七七號警察部長通牒ニ依ル犯罪報告用紙ニ所定事項ヲ記入シ尚可成寫眞ヲ添付シタル上速ニ主任ニ報告スヘシ

第八條　執行擔任者一日ノ職務ヲ終リ歸廳シタル時ハ狀況報告書（附錄第二號樣式）ニ所定事項ヲ記載スヘシ

第九條　乘車證ハ職務執行ノ場合ニ限リ使用シ歸廳シタル時ハ之ヲ副主任ニ返納スヘシ

附　則

本規程ハ昭和二年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

二寸三分

一寸八分

移動警察執行擔任者

岐阜縣警察部勤務

乘車區間　自　驛

至　驛

昭和　年　月　日乘込

備考　各自官氏名ヲ記入スルコト

殿

巡査 勤務

昭和 年 月 日

鐵道關係犯罪其ノ他取締狀況報告

活動年月日	活動時間	活動區間	乘込等級	視察並取扱事項	備考
	列車番號				

課長	乘車番號	乘車區間	列車番號	視察並取扱事項	參考事項
主任					
昭和 年 月 日	乘車官	間	列車等級		
			區間		

課長	乘車番號	乘車區間	列車番號	視察並取扱事項	參考事項
主任					
昭和 年 月 日	乘車官	間	列車等級		
			區間		

●鐵道關係犯罪事件報告ニ關スル件

（昭和二年五月二十五日　刑第二五一三號通牒）

警察部長ヨリ各警察署長宛

警察署ニ於テ驛構内及列車内ニ於テ置引掏摸其他鐵道利用犯罪ヲ檢擧シタルトキハ報告ヲ要スル事ハ移動警察事務取扱規程ニ規定有之候處此ノ種犯罪往々聞知スル處ナルモ報告更ニナキハ甚タ遺憾トスル處ニ有之移動警察關係府縣竝ニ鐵道關係官署ヘ通報ノ都合モ有之次第ニ付將來置引掏摸ニ限ラス驛構内又ハ列車内ニ於ケル犯罪事件ヲ認知或ハ申告ヲ受ケタルトキハ必ス報告セラルヘシ

●犯罪被害及檢擧表改正ノ件

（昭和二年三月二十九日　刑第一一〇四號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

大正十一年二月二十五日保第二八四一號通牒標記月報ハ爾今別表ノ通リ樣式改正候條遺算ナキヲ期セラルヘシ（樣式略ス）

●重要犯罪檢擧報告ニ關スル件

（昭和二年四月九日　刑第一八五一號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

重要犯罪ヲ檢擧シタルトキハ犯罪捜査規程第十九條ニ依リ報告ヲ要スル規程アリ爾來報告有之候處同報告上骨子トスヘキ檢擧ノ顚末特ニ捜査上參考ト爲ルヘキ事項ニシテ中ニハ極メテ抽象的ニシテ其ノ眞相ヲ捕足スル能ハサルモノアリ一面犯罪檢擧ノ經緯顚末ニ在リテハ後進者ニ學フヘキ重要資料尠シトセス將來蒐集上必要有之候條殊ニ殺人强盜放火其他特ニ捜査上苦心ヲ要シタル犯罪ニアリテハ犯罪捜査規程第十九條ニ依ル檢擧ノ顚末特ニ捜査上參考ト爲ルヘキ報告欄ニハ將來概ネ左記各點ニ注意シ具體的ニ眞相竝ニ探偵上ノ經緯ヲ詳記シ報告セラルヘシ

記

一　犯罪發生當時ニ於ケル現場保全竝ニ其他ノ應急措置方法等

二　指紋足跡遺留品排泄物其他ノ痕跡採取及原形保持竝ニ寫眞等之カ利用方法等有形ノ遺留品ニ付テハ其ノ種類員數形狀特徴用途糞便排泄物等ニ付テハ分析或ハ之カ取扱方法竝ニ利用方法等ノ詳細

三　式關竝ニ土地關ノ有無等詳細

四　現狀地理關係足取リ式通關係利用狀況聞込追跡張込賍物ニ關スル捜査手配狀況事件當時及其ノ前後ノ天候利用等

五　事件發生當時ノ捜査方針

六　犯罪ノ原因動機

七　捜査着手當時方針ニ錯誤アリタル爲メ檢擧至難ナリシ場合ハ其ノ要點等

八　其他檢擧上ニ關シ直接實驗シタル事項ニシテ注意ヲ要スル點又ハ將來注意ヲ要スルト認ムル事項ニ關スル意見

●犯罪捜査共助内規ニ關スル件

（昭和二年四月十六日　刑第一九九〇號通牒）

警察部長ヨリ各警察署長宛

靜岡ニ富山縣ニ於テ開催ノ刑事々務協議會ニ於テ別紙ノ通リ新潟、石川、福井、富山ノ各縣ト犯罪捜査共助内規ヲ協定シタルヲ以テ犯罪捜査及共助ニ關シ取扱上遺算ナキヲ期セラルヘシ

犯罪捜査共助内規

第一條　本内規ハ二縣以上ニ關係ヲ有スル犯罪事件其ノ他重大事件ノ捜査ニ付刑事警察機關相互ニ圓滑ナル連絡ヲ保持シ之カ共助ノ實ヲ擧クルヲ以テ目的トス

第二條　本内規ハ左記五縣相互ニ關係ヲ有スル犯罪事件ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

新潟、富山、石川、福井、岐阜

第三條　他縣警察官署ニ捜査共助ヲ求ムル場合ハ事件ノ概要共助ヲ求ムル要點其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ヲ詳細通報スヘシ

前項ノ要求アリタル場合ハ事件ノ性質如何ヲ考慮シ急速手配ヲ要スルトキハ檢索潛伏臨檢等機宜ヲ逸セス速ニ共助ヲ與ヘ電報其ノ他急速共助ノ求アリタル場合ナルトキハ敏速ニ取扱ヒ回答スヘシ

第四條　既ニ通報シタル犯罪事件ノ嫌疑者又ハ證憑等ヲ發見シタルトキハ速ニ關係警察官署ヘ通報スルハ勿論捜査ノ狀況ヲ時々通報シ捜査上ノ連絡ヲ保持スヘシ

第五條　隣接他縣警察署管內ニ殺人强盜其他重要ナル犯罪發生シタル旨通報ヲ受ケタル場合ニ於テ現場視察ノ必要アリト認メタルトキハ速ニ係員ヲ派遣スヘシ此場合ニ於テハ犯罪地警察署ハ事情ノ許ス限リ犯罪捜査上ノ資料ヲ之ニ提供スヘシ

第六條　刑事々務取扱上被疑者又ハ犯罪嫌疑者ノ身元照會又ハ犯罪事實ノ捜査聽取書ノ作成始末書徵收等ノ囑託ヲ受ケタルトキハ速ニ處理回答スヘシ殊ニ身柄拘束中ノ場合ニ於テハ拘束期間中ニ處理回答スル樣特ニ注意スヘシ

第七條　令狀ノ執行現行犯人其ノ他被疑者嫌疑者等ノ逮捕又ハ同行ノ場合捜査其ノ他ノ關係上必要アルトキハ出張先警察官署ニ一時之カ留置又ハ看守ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ求ニ應シ相當便宜ヲ與フヘシ

第八條　犯人引渡ハ左ノ例ニ依ル

一　犯人トシテ指名シ又ハ人相特徵着衣立廻先等其ノ犯人ヲ明瞭ナラシムル要點ヲ明示シテ手配方通報アリタルモノヲ取押ヘタルトキハ直チニ通報ヲ發シタル警察官署ニ引渡スモノトス但現行犯トシテ逮捕シタル場合又ハ比較的多數ノ犯罪若クハ重大犯罪アリタルトキハ此限ニアラス

二　正犯從犯ヲ各別ニ取押ヘタル場合ニ於テハ從犯ハ正犯ヲ取押ヘタル警察官署ニ引渡スモノトス但從犯ノ取押正犯ノ取押ニ先ンシタル場合ハ此限ニアラス

三　正犯數名ヲ二縣以上ノ警察官署ニ於テ各別ニ取押ヘタル場合ニ於テハ拘束期間中ニ處理回答スル樣特ニ注意スヘシ

其ノ取押同時ナルトキハ犯罪地警察官署ニ引渡スモノトス

四　殺人又ハ强盜通貨僞造ノ犯人ヲ取押ヘタルトキハ其ノ犯人ヲ犯罪地ノ警察官署ニ引渡スモノトス但取押ヘタル縣內ニ重要犯罪アリタル場合ハ此ノ限リニアラス

前項各號ニ據リ難キ場合ハ關係縣警察部長ニ於テ臨機協調スルモノトス

第九條　犯人ノ引渡ヲ爲ス場合ニハ逮捕官署ハ一件記錄ト共ニ身柄ヲ引渡スヘシ犯人ノ引渡ヲ爲ササル場合ニハ手配地警察官署ハ一件記錄ヲ速ニ逮捕地警察官署ニ引渡スヘシ

第十條　刑事要視察人ニシテ所在不明又ハ縣外ニ移轉出稼若クハ長期旅行ヲ爲ス場合ハ其ノ種別出生地本籍地住所職業氏名年齡人相特徵犯罪常用手段立廻先其他參考事項等ヲ其ノ地警察官署ヘ通報スヘシ但名簿アルモノハ其寫ヲ添付スヘシ

旅行的職業的犯人ナルトキハ前項ノ外可成寫眞ヲ添付スヘシ

第十一條　犯罪捜査上將來參考ト爲ルヘキ有力ナル資料ヲ得又ハ施設ヲ爲シタルトキハ互報スルモノトス

第十二條　本內規ノ目的ヲ達スル爲メ每年一回以上各縣輪番ヲ定メテ會議ヲ開催ス輪番ハ左ノ順序ニ依ル

新潟、石川、福井、岐阜、富山

附　則

第十三條　本內規ハ昭和二年五月一日ヨリ實施ス

●鑑識資料保全ニ關スル件

（大五十五年八月五日）
（刑第四〇三八號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

犯罪現場ニ於ケル鑑識資料保全ノ爲メ最初現場ニ臨檢シタル警察官吏ニ於テ別紙配付ノ印刷物ヲ必要ナル個所又ハ物件ニ

貼付シ指紋足跡其他鑑識資料ニ必要ナル物件ヲ保全シ以テ科學的捜査ノ定型ヲ期シ檢擧ノ實ヲ擧ケルニ萬遺漏ナキヲ期セラルヘク此段及通牒候也

別紙

鑑識　手ヲ觸レナイデ下サイ　岐阜縣
資料

警察部刑事課

●犯罪現場ノ保全竝ニ措置ニ關スル件

（昭和二年四月二十一日　刑第二〇一二號通牒）

警察部長ヨリ各警察署長宛

犯罪發生ノ場合其現場保全ノ必要ナルハ贅言ヲ要セサル處ナルカ事實ハ往々ニシテ之ヲ輕視シ爲メニ檢擧至難ニ陷ルノ事例尠ナカラス犯罪捜査上甚タ遺憾トスル處ナリ故ニ今回別紙現場保全ニ關シ其ノ標準ヲ示シ置キタルヲ以テ爾來殊ニ重要犯罪發生ノ場合ニアリテハ同標準ニ基ツキ相當計畫ヲ樹テ保全竝ニ措置上遺憾ナキヲ期スルト共ニ刑事々務ニ通セサル警察官吏ヲ教養スルト共ニ一般民衆ニ對シテモ必要ナル點ハ之カ周知ノ方法ヲ講スル等捜査ノ目的ニ達スル樣遺算ナキヲ期セラルヘシ

犯罪現場ノ保全ト措置

警察官吏犯罪現場ニ臨檢シタルトキハ概ネ左ノ標準ニ依リ保全ト措置ヲ爲スヘシ

一　犯人ノ侵入又ハ逃走ノ個所ハ明瞭ナラシムル爲メ戸締等ノ狀態ハ一切變更セサルコト

二　犯人ノ足跡指紋血痕等各種痕跡ノ有無ニ關シテ最モ深キ注意ヲ拂ヒ其ノ部位ニハ目印ヲ付シ消滅ヲ防クコト雨雪等ノ場合ハ覆ヲ爲ス等適當ノ措置ヲ爲スコト

三　陶器硝子器鐵器類及脂肪ヲ容易ニ吸收セサル木製品ノ類又ハ柱廊ト及硬質紙片等ニ印象セラレタル指紋掌紋跣足痕等ハ採取セラルヘキヲ以テ最モ綴密ニ其ノ有無ヲ檢シ濫リニ手足ヲ觸レシメサルコト

四　兇器殊ニ刃劍鉈刃庖丁等ノ柄ニハ必ス指紋ノ存在スルモノトシテ之カ取扱ハ深ク注意スルコト

五　簞笥戸棚其他ヲ捜索シタル狀況ハ捜査上至大ノ關係アルヲ以テ檢證ノ終了迄原狀ヲ保全スルコト

六　犯人ノ遺留品ト認ムヘキ物件ハ其ノ原形ヲ損セサル樣保存スルコト

七　遺留品ニ附落セル臭氣又ハ粉塵等ニ依リ犯人ノ職業關係出入スル方面等ヲ明瞭ニ爲シ得ル場合アルヲ以テ適當ノ容器ニ格納シ散逸ヲ防クコト

八　犯人ノ侵入又ハ逃走ノ方面ヲ推定スルニ足ルヘキ通路ニ於ケル足跡血痕其他各種ノ痕跡等ハ通行人等ニ滅失セラレサル樣目印ヲ設ケ檢證ノ終ル迄監視スルコト

九　犯人ノ侵入又ハ逃走セリト認ムル個所ノ塵芥及蛛蜘ノ巢等ハ其ノ事實ヲ明確ニ爲ス必要アルヲ以テ注意スルコト

一〇　强姦强盜殺人等ノ事件ハ現場ノ狀況ニ依リ反抗其他ノ樣樣ヲ推知シ得ルヲ以テ濫リニ他人ヲ出入セシメサルハ勿論散亂スル物品等ハ其ノ位置ヲ變更セサルコト

一一　犯人ノ毛髮排泄物ノ如キ遺留物モ亦犯人關係ヲ推定シ得ヘキ材料ト爲ルヲ以テ之カ發見竝ニ採取ニ注意スルコト

一二　屍體ハ濫リニ手ヲ觸レシメサルコト

一三　以上ノ外犯罪捜査上必要ト認ムル資料ノ發見及保全ニ注意スルコト

一四　氏名不詳ノ被害者ノ死體ヨリ指紋掌紋足形ヲ採取シ置クコト

一五　左ノモノニ付テハ可成寫眞ヲ撮影シ置クコト

イ　犯罪現場
ロ　住所氏名不詳ノ死體
ハ　破損滅失腐敗ノ恨アル證據品
ニ　其他捜査上必要ト認ムル事項

一六　創傷者等ニ對シテハ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ
イ　先ツ廢急手當ヲ施シ治療ノ經過ヲ速ナラシムルコト
ロ　重傷者ニシテ生命危篤ノ場合ハ直チニ其ノ被害者若クハ加害者ノ住所氏名年齢職業竝ニ負傷ノ事由日時場所兇器共犯者ノ有無其他必要事項ヲ適當ノ方法ニ依リ迅速聽取シ置クコト

一七　奸智ニ長シタル犯人ハ故意ニ遺留品ヲ僞作シ又ハ足跡等ヲ假裝シ以テ捜査官ヲ欺罔セントスルコトアリ特ニ注意ヲ要ス

一八　犯罪事實ノ第一發見者ヲ穿鑿確定シ置クコト
是等ノモノハ豫メ犯罪現場附近ヘ招キ置キ檢證官ノ爲メ應急ノ便宜ヲ圖ルト共ニ發見以來事物ノ狀況ハ如何ニ變動アリタルカニ付キ詮議シ置クコト

●警察官吏其他犯罪事件ニ關シ秘密嚴守方ノ件

（大正六年十二月十七日）
（通運警親第八〇八號）
警察部長ヨリ各警察官署長宛

標記ノ件ニ付別紙通牒ノ次第モ有之候條爾今一層機密嚴守方注意相成度依命通牒候也

（大正六年十二月十一日）
（内務省秘第二四七二號）
警保局長ヨリ知事宛

犯罪捜査又ハ豫審中ノ事件ニ付之ニ關與シタル警察官吏ニ對シ秘密ヲ嚴守セシムル樣被飭方ニ付テハ去ル明治四十一年十二月秘甲第一六〇號大正四年九月秘第一七三三號通牒及明治四十三年地方長官會議ノ節指示ノ次第モ有之候處近時小學校ニ於テ御眞影ノ紛失又ハ毀損事件發生等ノ場合ニ於テ直ニ公表セラルル傾有之風敎上最モ望マシカラサルノミナラス捜査上ノ障害ト爲ルコト多大ナル旨ヲ以テ其筋ヨリ特ニ申越ノ趣モ有之候本件ニ付テハ監督上平素御注意相成居候儀ニ可有之候得共前顯指示又ハ通牒後年月經過ノ今日貴部下中異動等ノ爲本件ノ趣旨徹底セサル向有之哉モ難計存候間警察官吏ハ勿論其他關係官公吏ニ對シ嚴ニ秘密ヲ守リ緘默ヲ旨トシ苟モ事件ヲ外間ニ漏洩スル如キコト無之樣此際更メテ注意方御取計煩度候

●重要犯罪捜査要領竝ニ繼續捜査資料ニ關スル件

（大正十一年六月二十日）
（指示保第二號）
警察部長ヨリ各警察官署長宛

重要犯罪發生ノ場合ニ於テハ特ニ沈著ノ態度ヲ持シ迅速緻密ニ捜査スヘキハ勿論ニ有之候處動モスレハ捜査一方ニ偏シ重要ナル事項ヲ捜査洩レト爲ス嫌アリ加之事件檢擧ニ至ラスシテ繼續捜査ヲ要スヘキ場合犯罪當時ノ捜査主任交迭等ノ爲メ當時ノ狀況詳カナラサルニ至リ後任者ニ於テ參考資料トスルモノナク捜査ノ困難ヲ來シ延テハ檢擧不能ニ陷ル等ノコトナシトセス誠ニ遺憾ニ被存候條將來捜査ノ萬全ヲ期シ繼續捜査資料ニ供スル爲メ概ネ別記捜査要項ニ準シ各方面ノ捜査ヲ遂ケ尚其結果ヲ下欄例示ノ如ク文飾ヲ用ヒス具體的詳細ニ記載シ置カシメラレ度及指示候也

別記

捜査主任　警部　某

捜査要項竝ニ繼續資料

（一）被害者ノ住所職業氏名年齢

被害者ノ氏名不明ナル場合ハ人相特徴著衣縞柄携帯品等詳記スルノ外可成寫眞及指紋ヲ採取シ其旨記載シ置ク事

（二）犯罪事實ノ概要及犯罪ノ動機及目的

犯罪現場ノ實況ヲ詳記シ尚犯罪手段方法兇行物件ノ使用方法等具體的ニ記載スルハ勿論犯罪ノ動機目的ヲモ明記スルコト

（三）屍體創傷被害ノ程度及被害金品ノ種類員數品質形狀特徴見積價格

屍體及創傷ニ付テハ其種類員數品質形狀特徴缺損汚點ノ部位紋符牒記號產地製作

屍體及創傷ニ付テハ創傷ノ部位形狀深淺寸法特ニ致命傷ト認ムル創傷解剖又ハ治療ノ結果ニ對スル主治醫ノ意見被害者着

衣ノ整亂破損汚穢等苟モ異常ノ點ヲ詳記ス、被害品ニ付テハ其種類員數品質形狀特徴缺損汚點ノ部位紋符牒記號產地製作

所等他品ニ鑑別シ得ヘキ點ヲ細々ニ詳記シ屆出價格ト見積價格ト相違ノアルモノハ其旨付記スヘシ

（四）兇器其他ノ供用物件ノ種類員數用途竝ニ其出所

殺害ノ用ニ供シタル出刃庖丁一挺ハ刃渡何分長サ何分ノ中古ニシテ何々ノ記號又ハ文字ヲ彫刻シ何處產ト認メラレ賣ニ販

路ハ何所方面ノ趣キニシテ何ニ用ユルモノナリ、又侵入ノ爲メ裏手ヨリ屋根ニ掛タル梯子一挺ハ隣家某方ノ軒下ニ置キア

リシモノヲ窃カニ持チ來リ使用セシモノ等ト詳記スルコト

（五）被告人及嫌疑者ノ員數其本籍住所職業氏名年齢人相特徴來歷着衣携有物件

員數不明ナルモノハ推定員數ヲ記スヘシ此場合ハ足跡又ハ遺留品若クハ何ニヨリ犯人ハ何人ト推定スル旨推定ヲ根據ヲ記

スヘシ

犯人タルコト明瞭ナル場合ニ於テハ其住所職業氏名年齢人相特徴言語動作着衣來歷及犯人タル事ヲ認識セシ事由ヲ記スコ

ト

携帯物件ノ種類員數形狀特徴破損ノ箇所等ニツキ詳細ヲ記スコト

嫌疑者ニアリテハ最モ嫌疑深キセノヨリ第一嫌疑者某第二嫌疑者某トシテ同樣記載スルコト及嫌疑ノ點ヲ記スヘシ

（六）現場地理關係

現場ヲ基點トシテ周圍ノ通路及交通機關其ノ他附近一帶ノ地理關係ヲ記ス

（七）事件發生當時及其前後ノ天候

事件發生當時ノ天候ハ晴雨雪暴風雨若シ犯罪當時天候ニ變更アリシトキハ何日午前何時ヨリ雨天トナル又ハ曇天トナル

夜間ハ暗夜又ハ月夜、半月夜ニシテ寒暖ノ程度ヲ記載スルコト

（八）指紋足跡其他痕跡採取及原形保存ノ方法

鐙筒ノ抽斗前面ニ硝酸銀溶液又ハ白亞紛末ヲ應用セシモ指紋現出セス、又ハ一箇ノ指紋現出セシモ左右何レニ屬スルヤ且之カ分類ヲ爲スコト能ハサルモ家族ニ於テハ同一指紋ヲ存スルモノナシ等、又裏口ニ印象セル右足跡ニ對シテハ石膏ヲ利

用シテ其足跡ヲ採取シタルニ其紋數九文半ニシテ何々ノ特徴アリ等採取及保存方法其結果ヲ記スヘシ

（九）遺留品排泄物及其ノ出所

有形ノ遺留品ニ付テハ其種類員數形狀特徴用途等ノ詳細製造所問屋卸商小賣商小賣先ト云フカ如ク順序ヲ追ヒ飽ク迄追及

捜査スヘク其ノ符號記號何處產ト精密ニ記載スルコト

糞便其ノ他排泄物附着物等ニハ專門技術者ニ分析セシメ又之ニ他物ノ付着セサル樣注意ノコト

無形遺留品トシテ犯罪ノ手口習癖等ヲ詳記スヘシ

（十）犯人侵入及逃走ノ個所竝ニ其方法及現場ノ狀況

犯人カ侵入シテヨリ屋外ニ出ル迄ノ經路及其手段方法ヲ具體的ニ詳記スルコト

（十一）式闕ノ有無

捜査界ニ於テ式トハ被害現場ヲ言ヒ闕トハ關係ノ略語ナリ即チ犯人ハ曾テ被害現場ニ何等カノ關係ヲ有スルモノニアラサ

ルヤ否ヤヲ捜査シ其推測ニ依リ有無ヲ記載スルコト

（十二）土地關ノ有無
犯罪現場附近ノ土地ニ關係ヲ有スルモノナルヤ否土地ノ狀況ヲ全ク知ラサルモノノ所爲ナルヤ否ヤノ點等ヲ綜合判斷シ土地關ノ有無ヲ推測セシ事由ヲ記スコト
（十三）世間師（一名流シ）ノ所爲
式關土地關ナク全ク通行ノ途中偶々犯行ヲ演シタルモノニアラサルヤ否ヤヲ推測セシ事由ヲ記ス
（十四）足取リ
犯罪前
犯罪ノ時刻及場所ヲ起點トシ既往ニ遡リ最モ迅速ニ犯人カ犯罪現場ニ來リタル經路ヲ辿リタル狀況ヲ詳細記入スルコト
犯罪後
犯罪ノ時刻場所ヲ起點トシテ最モ迅速ニ犯罪後犯人カ通過セシト認ムル通路ヲ漏ナク辿リ其顚末ヲ記ス
（十五）交通機關利用ノ狀況
犯罪前
兇行前電車自動車汽車自轉車船舶人力車其他ノ交通機關ヲ利用セシ形跡ノ有無等搜査ノ方法ト共ニ詳記ス
犯罪後
同上
（十六）犯人追跡
判明セル逃走ノ方面ヲ辿リ追跡セシ顚末ヲ記スヘシ
（十七）現場附近聞込
現場附近其他ニ於テ當該事件ニ關シ一般人民ノ噂風評ヲ聽覺シ採取セシ搜査資料ヲ詳記ス
（十八）張込

犯人潛伏又ハ立廻ル見込アル場所ニ（何人ニモ覺知セラレサル樣自ラ潛伏其立廻リヲ期待シ以テ逮捕スルモノニシテ最モ技倆ヲ要スルニヨリ特ニ注意ヲ要ス）張込タル顚末ヲ記ス
（十九）賍物ニ關スル搜査
緻密ナル頭腦ト銳敏ナル視覺ヲ活用シ質屋古物商割烹店宿屋及取買牙保寄藏者等搜査ヲ遂ケ其狀況ヲ記ス
（二十）現場圖面又ハ寫眞撮影
不必要ナルトキハ其理由ヲ記スヘシ
（二十一）手配狀況
手配セシ箇所及其要領ヲ記ス
（二十二）其他
（二十三）搜査方針
搜査主任及刑事巡査ハ臨檢ト同時ニ以上ノ事項ヲ綜合シ犯人檢擧ニ付テノ方針ヲ立テ其要領ヲ記スヘシ
（二十四）備考
一　以上ハ犯罪發生ノ當時搜査蒐集セシ材料ニ依リ記入シ該當事項ナク又ハ該當事項ニ付搜査未了ノ場合ハ空欄トシ搜査爲シタル上記入スヘシ
二　搜査主任ニ變更アリタルトキハ詳細引繼キヲ爲シ其旨備考欄ニ記載シ置クコト

●犯罪個數竝檢擧個數人員表

（大正五年七月十九日日記第二九九號）

犯罪個數竝檢擧個數人員表別紙樣式及ヒ記載例ニ例リ調製提出可有之此段及通牒候也
追テ本年自一月至六月分ニ限リ之ヲ集計シ其合計表ヲ八月三日マテニ提出相成度候
從來每月提出ノ犯罪及檢擧事件表（第一第二）盜難件數及金品價格表竝拘留科料事件表ハ本月以後提出ニ及ハス候

警察 署管內犯罪個數竝檢擧個數人員表

大正 年 月分

警察 署長警部

罪名＼區別	犯罪個數 受理 舊受	新受	計	既濟 檢擧 自署	他署	時效	計	未檢擧	檢擧人員
公務執行妨害									
放火									
失火									
通貨僞造									
公文書僞造									
私文書僞造									
公印僞造									
私印僞造									
有價證券僞造									
傷證誣告									
猥褻姦淫									
賭博									
瀆職									
殺人									
嬰兒殺									
身體傷害									
墮胎									
名譽毀損									
竊盜									
强盜									
詐欺									
恐喝									
横領									
賍物罪									
其他刑法犯									
徵兵令違犯									

| | | |

| | | |

警察官送致事件カ檢事ニ於テ不起訴處分ニ付セラルル場合送致官署ノ犯罪事件簿記載方左記ノ通取計相成度候

記

一　無罪又ハ免訴ノ原因アルカ若クハ餘罪ニシテ科刑ノ必要ナキ爲不起訴處分ニ付シタルトキハ檢事局ヨリ送致官署ニ對シ左ノ區別ニ依リ通知ス

罪トナラス　刑事未成年者

心神喪失者　親告罪ニ付告訴ナク又ハ其拋棄、取下

證據不充分　時效完成

確定判決　刑ノ免除

大赦　死亡

餘罪不要加刑

二　右通知ヲ受ケタル送致官署ハ犯罪事件簿處分要旨欄ニ例令ハ「罪トナラサルニ依リ不起訴」「證據不十分ニ依リ不起訴」等ト記載スル事

三　送致官ニ於テ不起訴ノ意見ヲ付シテ事件ヲ送致シタルトキハ犯罪事件簿送致意見欄ニ前示區別ニ依リ不起訴意見ヲ記載スルコト

（大正十年一月二十九日日記第二七七號　岐阜地方裁判所檢事正ヨリ警察部長宛）

●告訴告發又ハ自首事件ノ取扱方ニ關スル件

（大正十三年八月三十日日記第四四七六號）

告訴告發又ハ自首事件ニ付司法警察職務規範第四十一條ニ依リ檢事ノ指揮ヲ請フ場合ハ從來捜査記錄ニ送付書ノミヲ付シ送付シ來リシ處爾今事相發見ニ付必要ナル捜査ヲ遂ケタル程度ニ於テ其事件ニ對スル意見書ヲ作成シ之ヲ送付書ノ次ニ添付相成樣致度此段申進候也

追テ告訴、告發、自首事件送付ニ付テハ事件送致ノ場合ト同樣犯罪事件簿ニ登載ヲ要スル儀ニ有之候條爲念申添候

檢事正ヨリ各警察官署長宛

（明治二十五年十二月指示第一二五號）

●警察署ニ犯罪人名簿備置ノ件

今般訓第二百四十一號ヲ以テ前科調及ヒ罪科報告順序廢止相成候ニ付テハ警察署ニ別紙雛形ノ通犯罪人名簿ヲ備置爾今犯罪人ヲ受付タルトキハ該人名簿ニ依リ取調前科ノ有無ヲ所轄檢事ヘ通知スヘシ

若シ犯罪人他ノ部内ニ係ルトキハ直ニ所轄警察署ヘ通知スヘシ其通知ヲ受ケタル警察署ニ於ケル取扱前項ニ同シ但從前ノ前科索引ハ參考ノ爲メ警察署ニ區分配布ス

指紋									
								氏名	
								年齢	
								罪名	
								刑名	
								刑期	
(七)	(六)	(五)	(四)	(三)	(二)	(一)		犯數	
年月日 略式 確定	年月日 略式 確定	年月日 略式 確定	年月日 略式 確定	年月日 略式 確定	年月日 略式 確定	年月日 略式 確定		裁判及確定年月日	
裁判所	裁判所	裁判所	裁判所	裁判所	裁判所	裁判所		判決裁判所	
								備考	

本籍
住所
出生地

No.

記載例

一　氏名右傍ニハ片假名ニテ讀方ヲ附スヘシ尚右細欄ハ綽名、通稱等記入スヘシ

二　備考欄ニハ何某ト偽名ニテ處刑、上訴權抛棄、逃走ニ付逮捕狀發令、逃走中時効完成等ト記入スヘシ

三　氏名ハいろは口分トナスヘシ

●警部補又ハ巡査部長派出所ニ犯罪事件受付簿備付ノ件

（大正十年十一月二十二日）
（保第一一七二九號）

警部補及巡査部長派出所ニハ別紙樣式ノ犯罪事件整理簿ヲ備付ケ犯罪事件ノ告訴告發ヲ受ケタルトキ又ハ監督區域内受持巡査ヨリ犯罪捜査ノ報告ヲ受ケタルトキハ直チニ之ニ登載シ其ノ顚末ヲ明カニセシメラレ度此段及通牒候也

追テ告訴、告發書又ハ捜査報告書ニハ受付印ヲ用ヒス其ノ欄外ニ受付月日ヲ記載シ整理簿ト對照ノ便ニ供セラレ度爲念申添候

別紙樣式

受付年月日	事件名	處置

●寫眞撮影規程

（大正十二年四月十日　岐阜縣訓令乙第二百二十二號）

第一條　警察部保安課及寫眞機ノ備付アル警察官署ニ於テハ寫眞取扱主任ヲ定メ之カ取扱ヲ爲サシムヘシ

寫眞取扱主任ハ他ノ事務ニ從事スル者ナシテ兼掌セシムルコトヲ得

第二條　寫眞取扱主任ヲ定メタルトキハ警察部長ニ報告スヘシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ之ヲ撮影スヘシ

一　裁判所ニ身柄ヲ送致スル刑事被告人ニシテ逃走ノ虞アリト認ムル者

二　逃走ノ虞アル拘留囚人又ハ重大犯罪ノ嫌疑アル者

三　被殺害者又ハ變死人ニシテ他殺ノ疑アルモノ若クハ其身元不明ナルモノ

四　犯罪現場ニ存在スル指紋足跡其他滅失ノ虞アル證據物件等ニシテ寫眞ニ依リ保全ヲ必要ト認ムルモノ

五　犯罪現場ノ樣樣ニ依リ撮影ヲ必要トスルモノ

六　其他必要ト認メラルルモノ

第四條　刑務所及刑務支所々在地警察官署ニ於テハ豫メ刑務所若クハ刑務支所ト交渉シ寫眞撮影ナキ在監者中近ク釋放スヘキ者ニシテ再犯ノ虞アル者其ノ他必要ト認ムルモノニ付寫眞ヲ撮影スヘシ

第五條　刑事被告人又ハ拘留囚等ニシテ屢ニ撮影シアル者ハ重ネテ撮影スルヲ要セス

但撮影後負傷其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ容貌及形狀ニ變狀ヲ來タシタリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第六條　刑事被告人及犯罪嫌疑者等ノ撮影ハ手札形以下トシ正面及左側面ノ二種トス

但右側面ニ特徴アルモノハ右側面ヲ撮影スヘシ

第七條　寫眞機械ノ備付ナキ警察官署ニ於テ寫眞撮影ノ必要アリト認メタルトキハ警察部保安課長若クハ寫眞機備付アル最寄警察官署長ニ通報シ寫眞取扱主任ノ派遣ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル課署長ハ事情ノ許ス限リ可成迅速ニ取扱主任ヲ派遣シ撮影セシムヘシ

第八條　警察官署ニ於テ第三條第四條又ハ第七條ニ依リ撮影シタルトキハ其陰畫（原板ニ寫眞臺帳記載ノ事項（第一號樣式ノ一ノ二）ヲ具シ二ケ月毎ニ取纏メ警察部長ニ進達スヘシ

前項被撮影者ノ住所氏名ハ二ケ月毎ニ保安課ヨリ警察官署ニ通知スヘシ

第九條　警察部保安課竝ニ警察官署ニ於テハ別紙第一號樣式ノ一及二ニ依リ寫眞帳ヲ備付ケ人物ト其他トヲ區別シ撮影シタル寫眞ヲ整理スヘシ

寫眞臺帳ニハ口座別ニ索引（第一號樣式ノ二）ヲ附スヘシ

第十條　警察部保安課竝ニ警察官署ハ別紙第二號樣式ニ依ル寫眞撮影簿ヲ備ヘ撮影ノ都度記入スヘシ

第十一條　警察部保安課ニハ第四號樣式ニ依ル寫眞原板簿ヲ備ヘ陰畫ノ原板ヲ整理保存スヘシ

第十二條　警察官署ニ於テ犯罪捜査上陽畫ノ必要アルトキハ警察部長ニ申請スヘシ

第十三條　警察官署ニ於テハ別紙第三號樣式ニ依リ毎年一月二十日迄ニ年內ニ於ケル寫眞撮影數及其成績ヲ警察部長ニ報告スヘシ

第十四條　陰畫及寫眞原板簿、寫眞撮影簿ハ拾ケ年寫眞臺帳ハ永久ニ保存スヘシ

第一號樣式ノ一

（犯罪人其他）（用紙美濃紙半）

寫眞臺帳

第　號

寫眞貼付場所	寫眞貼付場所					
本籍住所 身分職業 僞名綽名 氏名 年齢	前科	人相	特徴	一見風體	趣味 嗜好	徘徊 地方

犯罪ノ特技	犯罪ノ習癖	指紋分類番號	指紋特徴	出監又ハ檢擧年月日	撮影年月日	撮影課署名

第一號樣式ノ二

（犯罪現場其他）（用紙美濃紙半）

寫眞臺帳

第　號

寫眞貼付場所						
事件名	事件發生年月日	事件發生場所	被害者ノ住所職業氏名年齢	被害者ノ住所職業氏名年齢	事件ノ概要	備考

撮影場所	撮影年月日課署名

第一號樣式ノ三

寫眞臺帳索引

番號	撮影年月日	罪名又ハ事件名	氏名又ハ物體名	備考

二　指紋欄内犯所トハ犯罪現場ニ遺シタル指紋ノ撮影ヲ謂ヒ其他トハ犯所以外ノ指紋ノ撮影ヲ謂フ被害状況トハ例ヘハ殺人又ハ傷害事件ノ如キニ在リテハ被害者ノ死體若クハ負傷ノ状況又創傷ノ形状等ノ場合ヲ謂フ

三　其ノ他ノ欄ニ記入シタルモノ又ハ數字ヲ以テ表シ難キモノ備考欄ニ附記スヘシ

第四號樣式（用紙半紙）

寫眞原板簿

警察部

犯罪人其ノ他ノ部						現場其ノ他ノ部					
番號	氏名	罪名	撮影官署名	撮影年月日	備考	番號	物件名	事件名	撮影官署名	撮影年月日	備考

●司法警察上寫眞撮影ニ關スル件

（大正十五年五月二十四日　保刑第二六六三號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

從來寫眞取扱ニ關シテハ相當御配意相成居候處其ノ成績見ルヘキモノ無之甚タ遺憾ニ有之候就テハ當分ノ間左記ニ依リ取扱當初ノ目的ヲ達スルコトニ努メラレ度此段及通牒候也

記

一、身柄ヲ裁判所ニ送致スル犯罪被疑者其ノ他ニ付テハ來ル六月一日ヨリ裁判所々在地ノ警察官署ニ於テ悉ク撮影スルコト

(イ)　送致警察官署ニ於テハ撮影スヘキ警察官署ニ於テ光線其他ノ關係上當日撮影不能等ノ爲メ迷惑ヲ感セシメサル樣特ニ注意シテ送致スルコト

(ロ)　撮影警察官署ニ於ケル取扱方法ハ從來ト同樣（自署ノモノト）取扱フコト

二　其ノ他ハ從來通リ勵行スルコト

三　各署ハ三ケ月毎ニ下記樣式ニ依リ狀況ヲ報告スルコト

犯罪被疑者身柄送致人員其ノ他報告書

番號	被疑者	住所	氏名	年齡

●指紋取扱規程

（昭和二年五月四日
岐阜縣訓令甲第三十四號）

第一條　警察部刑事課及警察署ニ於テハ本規程ニ據リ指紋ヲ採取スヘシ

第二條　指紋ハ左ニ掲クル者ニ付之ヲ採取スヘシ

一　禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ノ被疑者及容疑者

二　諸法令違反者ニシテ必要ト認ムル者

三　拘留囚及ヒ行政檢束者ニシテ一定ノ住所正業ヲ有セサル者

四　不良青少年少女ニシテ改悛ノ情認メ難キ者

五　本籍住所氏名詳ナラサル者

六　身元不詳ノ變死者

七　前各號ノ外特ニ必要アリト認ムル者

第三條　警察部刑事課及警察署ニハ指紋採取原簿第一號樣式ヲ備ヘ指紋採取ノ都度之ニ登載整理スヘシ

第四條　指紋ハ一人毎ニ指紋原紙第二號樣式ニ據リ一枚ヲ採取ノ上所要事項ヲ記入シ速ニ之ヲ警察部ニ送付スヘシ對照ノ必要アル場合ハ指紋原紙上部欄外ニ「要回答」ト朱書スヘシ

第五條　警察署ニ於テ採取シタル指紋ヲ警察部ニ於テ檢査シタル結果其ノ値ニ差異アルカ又ハ新ニ値ヲ附シタルトキハ其ノ警察署ニ通知シ之カ通知ヲ受ケタル警察署ハ臺帳ノ整理ヲ爲スヘシ

第六條　指紋ヲ採取シタル後判決其ノ他ノ處分確定シタルトキハ其ノ年月日、刑名、刑期、裁判所名又ハ指紋原紙ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ指紋採取原簿ノ整理ヲ爲スト共ニ其ノ都度警察部ニ報告スヘシ

第七條　警察部刑事課ニ於テハ指紋原紙ニ付キ左ノ通取扱フヘシ

一　指紋原紙ハ之ヲ分類シ別ニ定ムル方法ニ據リ配列シ保存スルコト

二　指紋原紙ニ基キ第三號樣式ニ據リ氏名竝手口索引票ヲ作製シ別ニ定ムル方法ニ據リ分類保存スルコト

三　現ニ保存中ノモノト同一指文原紙ヲ受ケタルトキハ對照ノ上創傷其他ノ事由ニ據リ前ニ採取シタル指紋ト差異アルトキハ前ノ指紋原紙ヲ廢棄シ後ノ指紋原紙ニ所要事項ヲ記載シ保存スルコト

四　前後ノ指紋ニ差異ナキトキハ前ノ指紋原紙ヲ保存シ後ノ指紋原紙ヲ廢棄スルコト

第八條　本規程ニ據リ指紋ヲ採取シタル者死亡シタルトキ若ハ年齢八十歳以上ニ達シタルトキハ指紋採取原簿ヲ削除スルト同時ニ警察部ニ報告スヘシ

第九條　犯罪現場其ノ他ニ於テ犯人ノ遺留シタル指紋ノ印象ト認ムヘキモノヲ發見シタルトキハ機宜ノ方法ニ據リ之ヲ採取シ若ハ採取スルコト困難ナルトキハ之ヲ撮影又ハ模寫シ其ノ位置、周圍ノ狀況ヲ知ルニ足ルヘキ圖面ヲ添ヘ速ニ警察部ニ報告スヘシ

附則

第十條　本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　大正十五年五月二十九日岐阜縣訓令甲第二十號指紋取扱規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號樣式

番號指紋				
本籍住所職業綽號氏名年齢				
採取年月日				
報告年月日				
前科				
備考				

番号 指紋									
本籍									
住所									
職業									
綽名									
氏名									
年齢									
採取年月日									
報告年月日									
前科									
備考									

番号 指紋									
本籍									
住所									
職業									
綽名									
氏名									
年齢									
採取年月日									
報告年月日									
前科									
備考									

番号 指紋									
本籍									
住所									
職業									
綽名									
氏名									
年齢									
採取年月日									
報告年月日									
前科									
備考									

第二號樣式

氏名		身分	職業	綽名	氏名	年齢
			既往			
			現在			
本籍		男女ノ別				
住所		分類番號				
(拇)	左	手	右	(拇)		
示指						
中指						
環指						
小指						
拇指						

(折)				

左手	右手

大正	年	月	日	ニ於テ作製	備考
(折) 大正	年	月	日	ニ於テ分類	
大正	年	月	日	ニ於テ檢査	

指示手左	
徴特紋指	
署自名氏	名假振

釋放事由及其年月日	執行刑務所	言渡裁判所	刑ノ始期	言渡年月日	刑名刑期(金額)	罪名	判決ヲ受ケタル氏名

| 犯罪事項 | | |

四 印象不鮮明ナルトキハ更ニ相當欄餘白上部ニ押捺セシムルモノトス

五 指紋原紙表面下欄左手右手ノ部ニハ拇指ヲ除キ他ノ四指ヲ同時ニ紙面ニ押捺セシムルモノトス

六 指紋押捺順序ハ指紋原紙上欄左手ノ部ニ始マリ中欄右手下欄左手右手ノ部ヲ經テ裏面左手示指欄ニ至ルモノトス

七 指紋ヲ押捺セシメタルトキハ指紋原紙相當欄ニ氏名ヲ自署セシムヘシ自署スル事不能ナルトキハ代書シ其旨附記スヘシ

八 分類番號欄ニハ左ニ指紋ノ價ヲ右ニ隆線ノ數ヲ記載スヘシ

九 職業欄ニハ數種ノ職業アル場合ニ於テハ其ノ主ナルモノヲ記載スルコト

一〇 作製分類檢査欄ニハ各其年月日ヲ記載シ且ツ作製者分類者檢查ヲ行ヒタルモノニ於テ捺印スヘシ

一一 對照ノ必要ナキモノニ對シテハ原籍調其ノ他ニ依リ指紋原紙裏前科欄ニ相當記載スルコト

各欄該當不詳ナルトキハ窃盜橫領何件ト記載スルコト

一二 犯罪事實欄ニハ檢擧シタル犯罪事實ヲ記載スルニト

一三 技能欄ニハ職業的技能ヲ記載スルコト

一四 趣味欄ニハ演劇浪花節將棋等本人ノ趣味ヲ有スルコトヲ記載スルコト

一五 嗜好欄ニハ酒煙草菓子等本人ノ嗜好ヲ記載スルコト

一六 信教欄ニハ曹洞宗臨濟宗本派本願寺日蓮宗ノ如ク具體的ニ記載ヲ要ス

一七 既往犯罪常用手口欄ニハ既往ニ於テ犯シタル犯罪ニ付キ犯罪別索引ニ依リ其手口ヲ知リ得ヘキ程度ニ記載スルコト

一八 徘徊地名欄ハ本人カ主トシテ徘徊シタル主ナル地名又ハ地方名ヲ記載スルコト

一九 指紋原紙及符票ハ萬年筆用「インキ」ヲ使用スルコト

二〇 指紋原紙裏面指紋特徵欄ニハ缺損紋竝島形線孤點分岐綫等ノ特徵ヲ記載スルコト

二一 本籍住所氏名等ノ詳カナラサルモノノ指紋ヲ押捺セシメタル時ハ其ノ要領ヲ備考欄ニ記載スルコト

二二 身元不詳ノ變死人ノ指紋ヲ採取シタルトキハ變死ノ場所年月日其ノ當時ノ着衣其ノ他要領ヲ備考欄ニ記載スルコト

指名カード犯罪手口カード竝指紋配列方法

一 指名カードノ配列ハ其ノ氏名ヲ假名ニテ讀ミ姓及名ノ上部二字ヲ取リ別表索引符號ニヨリ配列スルコト

(例令山田一郎ハ姓ノ「ヤマ」及名ノ「イチ」ヲ取リアイウエオノ五十音ニ對シ夫々0ヨリ9ニ至ル數字ヲ配シ八七一四トスルカ如シ)

二 犯罪手口カード配列ハ其ノ犯罪別ニ依リ別紙犯罪別索引ニ依リ配列スルニト

三 指紋ノ配列ハ指紋原紙カ作製セラレタルトキハ之ヲ分類シ左手五指ノ分類番號ヲ分子トシ右手五指ノ分類番號ヲ分母トシ綴テ萬位ヨリナル一ツノ分數式ノ形トス

例令左手ノ示指カ3中指カ6環指カ4小指5拇指ガ7ナル時ハ36457ノ數字ニテ表シ右手示指ガ2中指ガ7環指カ5小指カ8拇指カ9ナル時ハ27589ナル數字ニテ之レヲ表シ而シテ二萬七千五百八十七分ノ三萬六千四百五十七ナルー ツノ分數式ノ形トス即チ $\frac{36457}{27589}$ ノ如ク指紋ノ價ヲ分數式化シタル時ノ中指(分子)ヲ標準トシテ其ノ指紋原紙ノ有スル分類番號ノ數字ノ大小ノ順序ニ依ルモノニシテ小ナル數ヲ先ニシ大ナル數ハ後ニス即チ零ノ番號ヲ有スル原紙ヲ最上部ニ配列シ順次1 2 3 4 5ト數ノ增加スル毎ニ之レヲ下部ニ置キ最後ニ99999トナル番號ノ原紙ヲ最下部ニ配列ス

斯クシテ指紋原紙ノ配列順位カ決定セル時ハ之ヲ萬位別トシテ保存箱中ニ配列スルモノニシテ箱ハ更ニ內部ヲ千位ニ分チ更ニ復タ百位十位單位トシテ形式ニ分ツ即チ $\frac{36459}{27889}$ ノ指紋原紙ヲ配列センニハ分子ノ3(示指)番號省キ中指6ヲ基準トス

別表ノ通リ

別表

指名カード索引符合

0	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ン	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア
	リ	ワ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ(井)
	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
	レ	ヨ	メ	ヘ	ネ	テ	セ	ケ	エ(エ)
	ロ		モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	オ(チ)

指紋原紙配列箱雛形

3

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
000	000	000	000	000	000	000	000	000	000
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
400	400	400	400	400	400	400	400	400	400
500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
600	600	600	600	600	600	600	600	600	600
700	700	700	700	700	700	700	700	700	700
800	800	800	800	800	800	800	800	800	800
900	900	900	900	900	900	900	900	900	900

犯罪手口カード索引

12 放火	42 傷害	6102 窃盜 床下	612 掏摸	616 板ノ間	6211 強盜 寺院	622 強盜 居直	14 横領
25 有價證券	44 墮胎	6103 窃盜 雨戸外シ	613 置引	617 邯鄲	6212 強盜 雨戸外シ	623 剽盜	75 業務横領
321 強姦	52 脅迫	6104 窃盜 現金	614 萬引	6191 住込	6213 暴行 脅迫	711 詐欺	18 贓物ニ關スル
34 賭博	53 誘拐	6105 窃盜 脱糞	615 搔浚	6197 工事場 荒シ	6214 強盜 現金	712 詐欺銀 行其他	19 特別法
411 殺人	6101 忍込	611 窃盜 空巣	6152 窃盜 夜間	6198 窃盜 倉庫	6215 強盜 強姦	73 恐喝	6190 窃盜 雜

犯罪手口カード索引ハ別冊犯罪別索引表ニ依ル

（犯罪別索引票略ス）

●指紋對照方照會ニ關スル件

（大正十三年六月十日保刑第一七一四號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通リ司法省行刑局長ヨリ照會有之候趣ヲ以テ警保局長ヨリ通牒有之候條爾令相當注意相成樣致度此段及通牒候也

（大正十三年四月二十九日司法省行刑局行甲第五四五號）

行刑局長ヨリ警保局長宛

全國各警察官署ヨリ犯人前科ノ有無調査ノ爲メ當省指紋部ニ對シ指紋對照方照會ニ來ル件數日々尠カラサル處右照會ノ警察官署作成ノ指紋ハ押捺シタル儘ニシテ其ノ分類ヲ施サス當省ニ於テ分類ヲナスモ印寫不充分ノ向モ有之鮮明ヲ缺キ從ツテ多クノ手數ト時間トヲ要シ自然遲延スルヲ免レス敏速ヲ必要トスル犯人調査ニ至大ノ影響ヲ來スコトニモ可相成候間爾今對照照會ノ指紋原紙ニハ所定記載ノ外左ノ要件ヲ具備致候樣全國當局ヘ御通達相煩度候

左記

一　各指ノ回轉印寫ヲ努テ鮮明ナラシムルコト

二　回轉印寫ノ各指ノ指紋ノ分類ヲナシ其ノ下部ノ原紙指定欄ニ價ヲ記入スルコト

三　警察官署名ヲ明記スルコト

●刑事要視察人ニ關スル件

（大正十年七月二十一日保第六七九〇號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

爾今富山縣ニ於テハ刑事要視察人中職業的又ハ旅行的犯罪ノ虞アル人物ニシテ本縣内ヘ轉任若クハ旅行スルモノアルトキ

ふ其旨所轄警察官署へ直接通報セラルヘキニ付各署ニ於テモ是等視察中ノ人物ニシテ富山縣下へ轉住若クハ旅行スルモノアル場合ハ同縣へ直接所轄署へ通報ノ上相互視察ノ完全ヲ期セラレ度此段及通牒候也

●犯罪嫌疑者ニ對シ其品性平素ノ行狀家庭ノ狀況等視察ノ件

（明治四十一年九月二十四日）
（岐阜縣訓令乙第十三號）

沿革　明治四三年六月縣訓乙第一二九號改正

改正刑法實施後ニ於ケル刑ノ量定上必要ナル犯罪嫌疑者ニ對シ其ノ品性平素ノ行狀家庭ノ狀況等ヲ視察シ左記樣式ノ名簿ニ發錄ノ上素行調書作製ノ資料ニ供スヘシ

| | | |

ハ　無産無職ノ者
ニ　不良少年及感化院ヨリ退院シタル者
ホ　性行不良ニシテ視察ヲ要スル者

一　性行欄ニハ性質品行ヲ簡明ニ記スヘシ
一　系統欄ニハ親分乾兒兄弟分客等ノ關係ヲ網羅スヘシ其ノ關係者多數ニシテ欄内ニ記載シ難キトキハ別表ニ記載シ貼付スヘシ
一　重ナル親交者欄ニハ主タル親交者住所氏名前項同樣ニ記載スヘシ
一　乾兒ノ員數ハ其ノ者ノ勢力程度ヲ知ル爲メ又ハ博徒ノ鬪爭等アリタル場合ニ關係者捜索上必要ニ付別紙ニ乾兒ノ住所氏名ヲ記載シ貼付スヘシ
一　生活模樣欄ニハ職業ノ勉否及生活ノ質素ナルヤ贅澤ナルヤ且嗜好ヲ具體的ニ詳記スヘシ
一　家庭ノ狀況欄ニハ本人ト父子夫婦兄弟間ノ狀態婢僕ニ對スル處遇家族相互間ノ熟否ヲ詳記シ尚不良少年及感化院ヨリ退院シタル者ニ付テハ其ノ監督者ノ氏名續柄等ヲ記載スヘシ
一　登錄前ニ於ケル經歷及行動欄ニハ本表登錄前ノ經歷竝ニ善行惡事醜行其ノ他必要ナル行動ヲ順序ニ列記スヘシ
一　視察事項欄ニハ登錄後ノ行動ハ勿論警察官吏ニ於テ懲戒ヲ加ヘタルカ如キ事實アル場合起訴若クハ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル場合ノ如キ竝ニ視察上本人ニ關スル世上ノ風評其ノ他內偵ニ依テ得タル眞實ト認ムヘキ事項ヲ記入シ單ニ何年何月何日視察セシ處異狀ナシ其單ニ改悛ノ情アリトカ云フ如キ記載ヲ爲ス可ラス視察上知得シタル彼等ノ動靜ヲ具體的ニ記入スヘシ視察事項欄餘白盡キタルトキハ別葉ヲ追加記載スヘシ・
一　本簿ニ登錄セラレタル者轉居シ所在不明トナリ死亡シタルトキ又ハ視察ヲ解キタルトキハ其年月日事由ヲ記載スヘシ

一　本簿ハイロハ別ニ口分チナスヘシ
一　本記載例ハ簿册ノ始メニ記載シ置クヘシ
一　素行調書ハ警察署長分署長（事故アルトキハ其代理官司法警察官ノ資格ニ於テ）作製スヘシ

（大正十二年二月二日
保親第四一號通牒）
警察部長ヨリ各警察官署長宛

●少年法實施ニ關スル件

本月一日ヨリ實施セラレタル少年法ニ依レハ少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事々件ニ付キ豫審若クハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其他ノ出版物ニ揭載禁止相成居リ候處警察官中動モスレハ之等ノ場合以前ニ於テモ（例之少年犯罪檢擧シタル場合及事件送致ヲ爲シタル場合）不用意ニ之ヲ他ニ放言スルカ如キコトナキヲ保シ難キニ付キ克ク注意ノ存スル所ヲ解示シ嚴ニ戒飭ヲ加ヘ絕對之ヲ漏洩セシメサル樣御監督相成度爲念及通牒候也

（大正十四年一月三十日
保刑第四四四號）
警察部長ヨリ各警察官署長宛

●少年犯人ノ氏名ヲ本籍地ヘ通知セサルノ件

本件ニ關シ內務省警保局長ヨリ別紙寫ノ通リ通牒有之候條御了知相成度此段依命及通牒候也

別紙寫

左記

（大正十四年一月十五日
司法省刑事第二五二號
警事局）

刑ノ言渡アリタル裁判確定シタルトキハ檢事局ヨリ之ヲ被告人本籍地管轄市町村役場ヘ通知スヘキ儀ニ有之候處爾今少年ノ時犯シタル罪ニ付死刑又ハ無期刑ニ處セラレタル場合ニ在リテハ少年法第十四條ノ趣旨ヲ酌ミ之ヲ市町村役場ヘ通知セサルヲ相當ト思料候條左樣御取計相成度此段依命及通牒候也

●身元調査ニ關スル件

（大正五年七月八日　保第六二二五號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

他地方ヨリ入リ込ミ來レル雇人其他ノ者ニシテ重大ナル犯行ヲ敢テスルハ從來其事例ニ乏シカラサル處ニ有之候就テハ爾今戸口調査、營業監査、刑事要視察人視察、免囚保護、窮民救濟其ノ他各種ノ調査臨檢視察ヲ行フニ當リ身許ノ判明ナラサル者アルヲ發見シタル場合ニ於テハ本籍地又ハ前住地ニ照會シ本人ノ住所氏名、年齡、身分、職業ハ勿論性行、經歷、前科、資產、交際ノ人物、近隣ノ風評其ノ他警察上參考トナルヘキ事項ヲ詳細ニ調査シ其ノ大體ヲ戸口調査簿其ノ他關係簿册ニ記入シ特ニ素行不良ノ者ニ對シテハ嚴密ナル視察取締ヲ勵行スル等犯罪豫防警戒上一層御注意相成度此旨及通牒候也

●憲兵警察吏ニ於ケル捜査方ノ件

（明治三十三年八月二十七日　指示第二二號）

憲兵ハ軍事警察上或ル事件ノ嫌疑ヲ以テ常人ノ捜査ニ著手スト雖モ其事軍事ニ關係セスト認ムルトキハ事件ヲ地方警察ニ移シ又之ニ反シ地方警察ニ於テ捜査中軍事警察ニ關係ノ事項ヲ探知發見シタル場合ハ憲兵ニ移サレ相互氣脈ヲ通シ各主務ニ於テ捜査ヲ續行シ和協一致シ緩急宜ニ從テハ警察上有益ナルヲ以テ嘗テ口頭上規約ノ次第モ有之候得共此際一般ヘ訓示方第九憲兵隊長ヨリ内議有之候條右心得ラルヘシ

●探偵者使用不相成件

（明治十四年四月　内達無號）

近來罪犯探偵巡査等ノ内自ラ其事ヲ遂ケ得サルヨリ私ニ種々ノ人物ヲ使用シ其弊害不少哉ノ聞ヘ有之各自固ヨリ其職權ヲ重ンシ實効ヲ顯ハサントノ精神ニ出ルモノアルヘケレトモ却テ之ヲ恥カシムルニ至ル儀往々有之不都合ノ次第ニ付篤ト御注意有之且巡査等ニ於テ署長ニ告ケス私ニ探偵者ヲ使用スル儀ハ素ヨリ難相成筈ニ候條此段爲念及御内達候也

●盜難届書樣式改正ノ件

（大正十五年九月二十日　刑第三三五二號通牒）

今般別紙ノ通リ盜難届書樣式改正相成リ候條取扱上遺漏ナキヲ期セラルヘク此段及通牒候也

追而從來使用シ來レル用紙ハ其儘繼續使用相成リ差支無之申添候

警察部長ヨリ各警察官署長宛

表

盜難届

大正　年　月　日午前後　時　分　左記ノ通リ盜難ニ罹リタル旨届出ニ依リ錄取ス

警察署　　勤務巡査

届出人

被害ノ日時	年　月　日午　時　分	被害場所
被害者ノ住居氏名		

被害ノ模様	被害金品ノ形状個數及見積價格（被害金品多數ニシテ本欄ニ記入シ能ハサルトキハ次欄ニ記載スルコト）

實況見聞及捜査ノ要領	一　犯人ノ出入シタル方法　門戸墻壁鎖鑰ノ有無　踰越損壊ノ有無 二　盗取シタル方法 三　犯人員數兇器携帯ノ有無　證據遺留品ノ有無 四　被害者家人　雇人　親族　若ニシテ犯人ト思料スヘキ者ノ住所氏名年齢等詳細參考事項 五　其他（本欄ノ記載不能ノ場合ハ別紙ニ記入添付スルコト）

●郵便遞送人集配人犯罪逮捕ノ時取扱方ノ件

（明治十八年七月　無號）

郵便遞送人竝ニ集配人郵便物遞送集配之途中罪ヲ犯シ又ハ嘗テ犯罪ノ廉アリ司法警察官又ハ巡査ニ於テ之ヲ逮捕若クハ引致スヘキ場合アルトキハ直ニ代夫ヲ使用シ其遞送人ノ携帯セル郵便物ハ最寄郵便局ヘ遞送セシメ其費用ハ本縣勸業課ニ可申立此旨相達候事

●通信業務ニ關スル犯罪公表ノ件

（大正十年八月十七日　保親第三八一號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

通信業務及其附帶業務ニ關スル犯罪事件ヲ公表スヘカラサル旨ハ大正五年三月十日附保親第三九號及大正九年二月五日附保親第三四號ヲ以テ依命通牒置候ニ付平素ニ於テ相當御留意相成居候コトトハ相信シ候モ近來新聞紙上ニ此種犯罪事件ヲ公表セラルルモノ往々有之哉ニテ甚タ遺憾ニ耐ヘサル旨ノ別紙内務省警保局長ヨリ通牒ノ次第モ有之候條一層秘密ヲ嚴守スヘク部下各員ニ對シ周到示達相成度此段依命及通牒候也

寫

近來新聞紙上ニ通信業務及其ノ附帶業務ニ關スル犯罪事件チ公表セラルモノ往々有之本件ハ新聞社自體ノ探知ニ依リ候モノモ可不勘存候得共事件取扱官憲ノ發表ニ出ツルモノ有之哉ノ聞モ有之果シテ右樣ノ事實有之ニ於テハ甚タ遺憾ニ存スル次第ニ有之此儀ニ付テハ大正九年一月十六日附通信業務ニ關スル犯罪處理方ノ件依命及通牒置候儀モ有之監督上平素ニ於テ御注意相成居候儀可有之存候得共本件犯罪事件ノ公表ハ地方遞信局ニ於テ部内取締上困難チ感スルコト不少歟チ以テ特ニ遞信省通信局長ヨリ申越ノ次第モ有之候間右御含ノ上充分秘密チ嚴守候樣貴部下ニ對シ周到御示達相煩度右申進候也

（大正十一年二月九日　保第二〇一六號）

●商標調査規程ニ關スル件

今回商標調査規程發布相成候ニ付テハ各種營業者カ專ラ使用スルマーク類竝ニ刻印等チ普ク調査シ一方營業者ト連絡チ保チ營業者ヨリ便宜新タニ使用スルマーク類刻印等チ届出爲サシムルノ方法チ講シ以テ新タニ調査若クハ届出タル商標及其異動ハ毎年二月、五月、八月、十一月ノ各末日限リ進報有之度及通牒候也

（大正十一年二月九日　岐阜縣訓令乙第四十九號）

警察部　警察署　警察分署

●商標調査規程

第一條　商標調査ハ專ラ犯罪捜査ノ資料ニ供スルチ以テ目的トス

第二條　商標トハ各種營業者ノ製造又ハ販賣スル物品ニ自家ノ製品若クハ販賣品タルコトチ表示スル爲メ用ユル記號チ謂フ

第三條　商標ハ各警察官署ニ於テ受持管區巡査チシテ營業監査戸口調査等ノ際調査セシムヘシ

第四條　商標ハ別紙第一號樣式商標小票ニ實物チ添付又ハ押捺若クハ謄寫シ所要事項チ記載ノ上物品別トシ保存シ一通チ當廳ニ進達スヘシ

第五條　新タニ調査シタル商標及異動ハ三ケ月毎ニ當廳ニ進達スヘシ

第六條　警察部及警察官署ニ於テハ別紙第二號樣式ノ商標臺帳チ備ヘ商標索出ノ便ニ供スヘシ

第七條　犯罪捜査上商標ノ對照調査チ要スルトキハ實物若クハ謄寫シタルモノニ發見日時場所罪質等チ附記シ知事ニ申請スヘシ

第一號　樣式

表

第　號	商　標

裏

住所	營業所又ハ工場所在地
商號	
氏名	
販賣品目	卸小賣別
主ナル販路	
警察署名	